

---

# はじめに

---

独立行政法人国際協力機構（JICA）では、国際協力に関する知識の普及と理解の推進のため、開発教育・国際理解教育を推進することを使命の一つとしております。

教育委員会や教員のみならず、あるいは自治体、NGO 等のみならずと連携しながら、① JICA の海外での協力現場における「知見の還元」、②地球規模課題への取組を紹介し「考える機会の提供」、③地域の課題と地球規模の課題を結び付け、その解決のために行動する児童生徒を育てていただくための「橋渡し役」となる、の3点に重点を置き、「持続可能な社会づくりの担い手を育てる」国際理解教育・開発教育の支援に取り組んでいます。

学校教育の現場で次代を担う児童・生徒の教育に携わり、国際理解教育・開発教育に関心を持つ教員のみならずを対象として、教師海外研修を実施しています。教員の方々に実際に開発途上国を訪問いただき、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深めていただき、その成果を、学校現場での授業実践等を通じて、教育活動に役立ててもらうことを目的とし、約 50 年にわたり継続して実施しています。

コロナ禍により、2022 年度は海外研修を実施することができませんでした。そこで、派遣予定国であったザンビア・パラグアイとの国際協力を実施されている団体や企業、そして日本国内の国際化・多文化共生の実現に取り組む団体を紹介し、課題に挑戦する人々の想いや活動への理解を深めていただく代替国内研修を実施しました。研修期間を通じて、「人間の安全保障・安心の保障」を切り口にして視察していただき、持続可能な社会の実現には、グローバルな視点とローカルな行動が不可欠であり、国際課題が様々な国内の課題に繋がっていることへの理解を深めていただくことができました。

JICA 東京センター所管地域である、東京都、埼玉県、千葉県、群馬県、新潟県、長野県から 17 名の教員のみならずが本年度の国内研修に参加され、研修の成果を活用した授業を実践しています。本報告書は、今年度の研修の概要及び参加者のみなさまの勤務校における授業実践の指導案をまとめたものです。教育現場の第一線で日々生徒たちと向き合っている教員の方々に、それぞれの教育現場で実践を行っていただいたことは大きな励みとするところです。これらを通じて、持続可能な社会実現への生徒たちの理解が深まり、周りの方々にも波及していくような好循環が生まれることを期待しています。

結びに、本研修の実施にあたりご支援をいただいた各教育委員会並びに関係諸団体の皆さまに感謝を申し上げますとともに、今後とも JICA が取り組む市民参加協力事業にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和 5 年 3 月

独立行政法人国際協力機構（JICA）東京センター

所 長 田 中 泉

---

# 目 次

---

はじめに	1
1. 参加者一覧	4
2. 研修概要	5
3. 派遣前研修	11
4. 研修参加者写真	13
5. 国内視察	14
6. 派遣後研修（授業研究）	22
7. 授業実践	23

## SDGs

荻谷 魁人 清瀬市立芝山小学校	世界の生活をみつめよう	小学6年生 総合	24
堀江 理砂 世田谷区立赤堤小学校	持続可能な社会に向けて	小学6年生 家庭科	28
橋爪 愛乃 都内公立中学校	話題や展開を捉えて話し合おう	中学1年生 道徳・国語	34
太田 進 広尾高等学校	What's on earth Intercultural communication?	高校1年生 外国語（英語）	40

## 地域づくり

田中 由利子 日野市立日野第一小学校	持続可能なひのいちづくり	小学6年生 総合的な学習の時間	45
八木 ゆかり 糸魚川市立能生中学校	価値を見いだす「『不便』の価値を見つめ直す」	中学1年生 国語科	51
下井 慈 根羽村立義務教育学校根羽学園	SDGs 未来都市根羽村をどのように実現するべきか ～プレゼンテーションの説明文を書く～	中学2年生 国語科	57

多文化理解・共生

高橋 絵理 白百合学園小学校	The Happy Prince ～ My Happiness, Your Happiness ～	小学6年生 英語科 ……66
土井 真智子 千葉大学教育学部附属小学校	地球の未来を考えよう	小学4～6年生 道徳 ……74
吉田 祥子 江戸川区立清新ふたば小学校	〇〇で世界を旅しよう！出発！	小学1年生 生活科、体育、図工、音楽 ……82
玉井 彩郁 中野市立高社中学校	クルド難民問題	中学2年生 外国語（英語）、総合 ……92
松村 駿 ぐんま国際アカデミー中等部	多文化共生～世界に生きる私～	7年生 国語・総合 ……101
遠藤 大輔 板橋有徳高等学校	Trouble and Accidents	高校1年生 外国語（英語） ……108
富澤 喜一 荒川工業高等学校	世界の難民問題・多文化共生社会について	高校3年生 現代社会 ……114
山岸 洋一 大森学園高等学校	転生したら多民族国家の首長だった件について ～多民族国家経営シュミレーション～	高校1年生 公共 現代社会の諸課題 ……120
五ノ井 ゆかり 入間わかさ高等特別支援学校	社会で居心地よく暮らすための コミュニケーション力をつけよう！	高校1年生 外国語（コミュニケーション） ……126
防災		
生方 彩香 流山市立向小金小学校	これがあれば大丈夫！	小学1・3・4・5年生(特別支援) 自立活動 ……132

8. 授業実践報告会	140
9. 総括研修	142
10. 研修を終えて	143
11. JICA 開発教育プログラム案内	144
おわりに	146

# 1. 参加者一覧

## 2022 年度初参加者

氏名	学校名	担当教科	担当学年	都県
橋爪 愛乃	都内中学校	国語	1 年生	東京都
高橋 絵里	白百合学園小学校	英語		東京都
遠藤 大輔	東京都立板橋有徳高等学校	英語	1・3 年生	東京都
田中 由利子	日野市立日野第一小学校	全科	6 年生	東京都
荻谷 魁人	清瀬市立芝山小学校	全科	6 年生	東京都
下井 慈	根羽村立義務教育学校根羽学園	国語	小学 6 年生・中学 1～3 年生	長野県
生方 彩香	流山市立向小金小学校	全科	小学 1・3・4・5 年生(特別支援)	千葉県
富澤 喜一	東京都立荒川工業高等学校	地理歴史 公民	1・3・4 年生	東京都
山岸 洋一	学校法人大森学園 大森学園高等学校	地理歴史 公民	1 年生	東京都
五ノ井 ゆかり	埼玉県立入間わかくさ高等特別支援学校	外国語 流通サービス	1 年生	埼玉県
玉井 彩郁	中野市立 高社中学校	外国語	2 年生	長野県
八木 ゆかり	糸魚川市立能生中学校	国語	1 年生	新潟県
松村 駿	ぐんま国際アカデミー	国語	中学 1 年生	群馬県

## 過年度参加者

氏名	学校名	担当教科	担当学年	都県
吉田(鈴木) 祥子	江戸川区立清新ふたば小学校	全科	1 年生	東京都
土井 真智子	千葉大学教育学部附属小学校	全科	5 年生	千葉県
堀江 理砂	世田谷区立赤堤小学校	家庭科・音楽	2・5・6 年生	東京都
太田 進	東京都立広尾高校	英語	1 年生	東京都

## 運営事務局

氏名	所属	役割
佐藤 真久	東京都市大学院 環境情報学研究科 教授	研修アドバイザー
諸橋 郁哉	JICA 東京センター市民参加協力第一課	学校教育アドバイザー
古賀 聡子	JICA 東京センター市民参加協力第一課	職員
八星 真里子	JICA 東京センター市民参加協力第一課	職員
宮田 峻弥	JICA 群馬デスク	
木島 史暁	JICA 長野デスク	
木村 明日美	JICA 千葉デスク	



---

## 2. 研修概要

---

### ■研修の目的

- |   |
|---|
| <p>(1) 国内研修を通じ、「持続可能な社会づくり」「国際協力の必要性」「多文化共生」に対する研修参加者の理解を促進する。<br/>(持続的に学校現場で国際理解・開発教育を実践できる教員の育成)</p> <p>(2) 研修参加者による学校現場等での授業実践を通じ、開発課題を自らの問題として捉え、主体的に考える力、またその根本解決に向けた取り組みに参加する力をもつ「持続可能な社会の創り手」となる児童・生徒を育成する。<br/>(持続的な児童・生徒の国際問題・相互依存・援助の必要性等の理解促進)</p> |
|---|

[研修で修得を目指すスキル]

- ① 国際理解・開発教育の必要性を理解し、説明できる。
- ② 開発途上国が置かれている現状、国際協力の現場で起きている現状を理解し、児童・生徒に説明できる。
- ③ 開発途上国と日本との関係、特に相互依存関係について理解し、児童・生徒に説明できる。
- ④ 国際協力の必要性及びJICAの概要を理解し、児童・生徒に説明できる。
- ⑤ 上項を踏まえた開発教育（国際理解教育）の授業計画・教材を作成し、授業を実施できる。

### ■主催

独立行政法人 国際協力機構 東京センター（JICA東京）

### ■後援

外務省、文部科学省、各都県及び政令指定都市の教育委員会、  
各都県の私立中学高等学校協会

### ■参加人数

17名

### ■研修内容

- ・ JICA東京およびJICA地球ひろばにおいての座学、ワークショップの実施
- ・ 国際協力、地域づくり、多文化共生に取り組む団体への訪問
- ・ 授業案検討
- ・ 学校現場での授業実践

### ■研修日程

8ページに記載のとおり

## ■応募資格

次の資格をすべて満たす方とする。

- ①東京都、埼玉県、千葉県、群馬県、新潟県、長野県の国公立、私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校（1～3年生を担当）、特別支援学校において教職員として教育活動に従事していること。
- ②応募締切の時点で、初任者研修を修了していること。私立学校に勤務する者の場合は、応募締切時点で一年以上の教員経験を有すること。
- ③所属する学校の校長の推薦および実践授業の実施およびその公開に理解があること。
- ④研修国の事情を勘案した上で、参加に耐えうる健康状態であること（持病を持っていない事、継続的な投薬・治療を行っていない事）

## ■参加要件

次の要件をすべて満たす方とする。

- ①視察前のオンライン研修及び国内視察等の全行程に参加可能であること。
  - ②パソコンメールアドレスでの連絡（ファイルの送受信を含む）が可能なこと。
  - ③帰国後、本研修の定めた期間内に所属校において授業の実践を行うこと。
  - ④当該授業の実践報告書を提出すること。
  - ⑤JICAのウェブサイトにて一般公開されることに同意すること。
  - ⑥JICAが実施する国際理解・開発教育支援事業に協力（エッセイコンテストへの応募など）可能であること。
  - ⑦本研修の過年度参加者ネットワークづくり（各都県を含む）に参加・協力可能であること。
- ※また、研修成果を児童・生徒だけでなく他の教員にも広く還元していただくことを目的とし、校内研修や研究授業の実施を推奨いたします。

## ■参加費用

### (1) JICA負担

- ・研修参加時の交通費、宿泊費（日当は除く）
- ・講師謝金
- ・視察に必要な交通費及び入場料

### (2) 参加者負担

- ・研修参加時の食費
- ・保険の加入費用等（必要に応じて）

1 教師海外研修（国内代替研修）の目的と年間スケジュール

## 2022年度 JICA東京 教員のためのSDGs 研修

背景：2022年度教海研海外派遣は中止

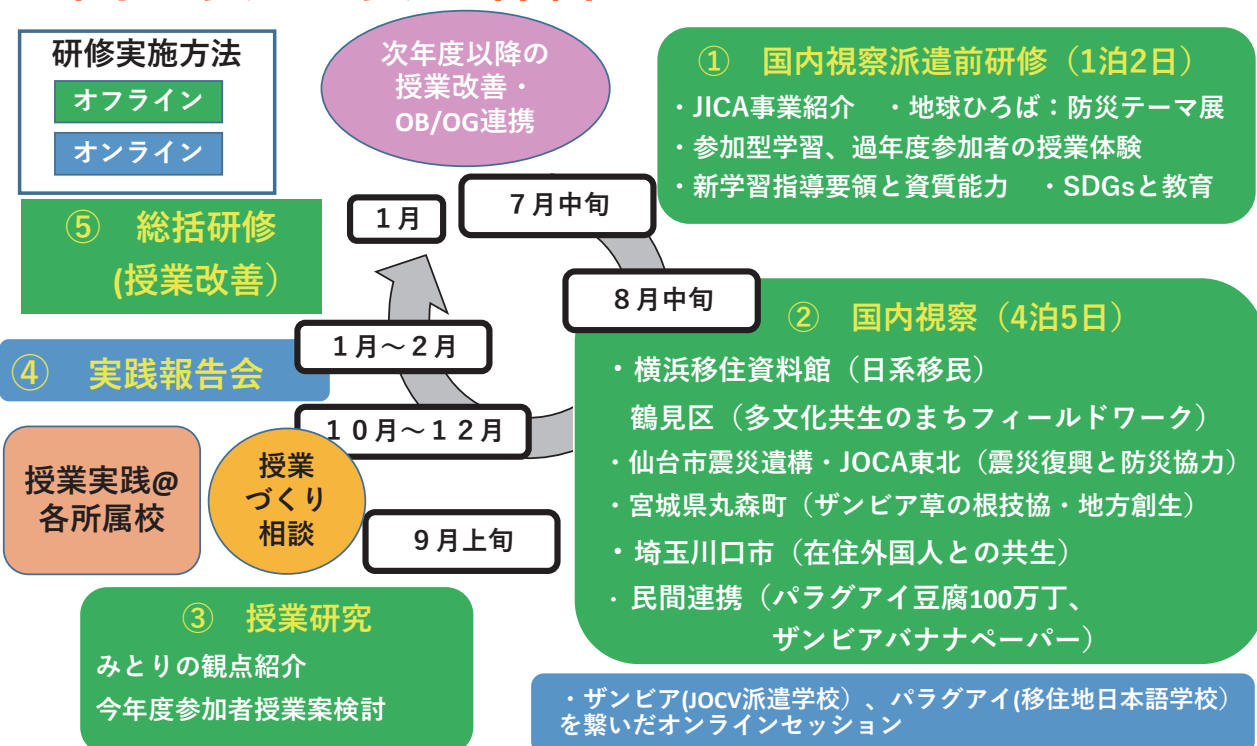
- 国内研修として募集 過年度参加者も参加可
- これまでの派遣国での学びの補完も目指す

<ねらい>

1. 「持続可能な社会づくり」「国際協力の必要性」「多文化共生」への理解を、「国内のリソース」視察により提供し、SDGsのレンズを活用してジブンゴト化をすすめる  
 テーマ：①持続可能な社会づくり（自然災害・地方創生などの課題）②多文化共生（移住と日系人支援、在住外国人との共生）③国際協力（①、②の課題に資するものを中心に）
2. 訪問先は、直近の派遣国であり2023年度の派遣希望国でもあるザンビア・パラグアイに関連するものを取り入れ、過年度参加者にとっては海外研修の学びの補完、新規参加者にとっては来年度以降の海外研修応募への動機づけとする
3. 教師海外研修過年度参加教員との協働により、教員同士のネットワーク構築を進めるとともに、国際協力に関わる多様なステークホルダーとの繋がりを深め、学びの循環を形成・強化する

## JICA東京 教員のためのSDGs研修

### 人間の安全・安心保障 持続可能な社会づくりを国内から



## ■研修の流れ

### ◇事前研修

7月16日(土)、7月17日(日)

- ・研修の趣旨および、JICA や日本の国際協力、訪問国に関する理解を深める
- ・国際理解教育 / 開発教育への理解と参加型学習の手法・過年度参加者の授業体験
- ・研修における各自の役割の理解と、国内視察研修に向けて準備



### ◇国内視察研修

8月16日(火)～8月20日(土)

- ・「人間の安全・安心保障、持続可能な社会づくりを国内から」をテーマに、ザンビアとの国際協力を実施する自治体や、多文化共生の取り組みの現場を訪問する
- ・パラグアイの日本語学校の教員、生徒とオンラインで交流し、日系社会への理解を促進する
- ・授業実践に必要な教材の材料等を収集する



### ◇派遣後研修

9月4日(日)

国内視察研修の経験を生かした授業の実施・教材作成について考え、授業案を検討する



### ◇授業実践

9月～12月(各勤務校において1回以上)

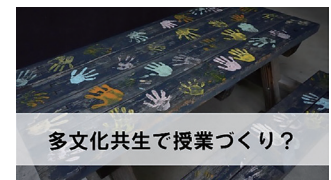
研修の経験を生かした授業を実施し、成果を各自で検証する  
※実施後、授業実践報告書の提出



### ◇授業実践報告会

12月～2月(各都県別に1回)

研修の成果(主に授業実践)について教育関係者をはじめとする地域の方に報告する。



### ◇総括研修

1月22日(日)

持続可能な社会づくりのために育成したい資質・能力を見直し、授業改善のサイクルにつなげる。



### ◇教師海外研修参加後(翌年以降)

研修の成果を生かして、各所属校および地域で国際理解教育／開発教育を推進する。

- ・授業／活動のブラッシュアップ
- ・JICA 国際理解教育 / 開発教育支援プログラムの活用
- ・実践者のネットワークへの参加 等



## ■JICA教師海外研修（2022年度）事前課題

2015年9月、国際社会は、国連サミットにおいて「持続可能な開発目標」Sustainable Development Goals (SDGs) に合意し、17の国際目標と169の指標が提示されました。SDGsは、複雑に絡み合う経済・社会・環境問題に対し、すべての国が包括的に取り組むことを求めています。開発途上国だけではなく、日本を含む先進国も国内目標を設定し、開発の恩恵から誰一人取り残されない、持続可能な世界の実現を目指しています。JICAは、開発途上国や国際社会とのパートナーシップのもと、SDGsの達成に積極的に取り組んでいます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



派遣前研修の事前課題として、参加教諭には勤務校周辺でSDGsに関係すると思われる写真を撮影し、①撮影者、②撮影場所、③撮影日、④撮影した理由、⑤SDGsとの関係性について記載をし、派遣前研修に持参していただくことをお願いしました。

### ■提出された課題（一部）



- ①撮影者：吉田 祥子  
 ②撮影場所：校庭  
 ③撮影日：2022年7月8日  
 ④撮影した理由：1年生は、毎年あさがおを栽培している。一人ひとりが天候に合わせて、水の量や頻度、配置を調整して育てる活動を通して、植物に愛着をもって大切にしようとする態度を醸成している。幼少期から植物を身近に感じる機会を設けることで、自然に対して畏敬の念をもち、慈しむことにつながる。しかし、昨今の気候変動の影響により、日差しが強く、暑い日が続き、毎日、水やりをしてもあさがおは萎れてしまい、元気がない。梅雨が短かったせいか、校庭のカタツムリも姿を消した。また、熱中症注意報が出され、校庭での体育や休み時間の遊戯ができなくなっている。気候変動の影響で、これまで生息していた生き物や植物が生存できないようになり、日本の生態系が変化していくことへの恐れを感じている。

⑤ SDGs との関係性：4・13・15



- ①撮影者：下井 慈  
 ②撮影場所：根羽学園 PC 教室  
 ③撮影日：2022年7月12日  
 ④撮影した理由：一人一台タブレット配布が進むことで、それまで使っていたPC教室が、一切使われなくなりました。デスクトップPCだけでなく、ノートパソコンや周辺機器も含め、大量に電子機器が不要になったにも関わらず、廃棄やリサイクルが進まない。こういった学校が本校だけでなく、日本全国にいったいどのくらいあるのだろうかと考え、もったいないと思ったので撮影した。世界の国々の中には、学校に一台しかPCがなくて思うように学べない子どもたちがいるそうなので、まだ使えるPCをリサイクルできたらいいと思う。

⑤ SDGs との関係性：4・7・12



## ■提出された課題（一部）



- ①撮影者：富澤 喜一
- ②撮影場所：東京都立荒川工業高等学校 図書館
- ③撮影日：2022年7月11日
- ④撮影した理由：外国籍（ネパール）の生徒が授業前の時間帯に日本語教育を受ける光景。令和3年5月の文部科学省発表の『外国人児童生徒等教育の現状と課題』の中で「公立高等学校における日本語指導が必要な生徒数の推移」では外国籍生徒は3,677人と10年間で2.7倍になっている。本校では、入学時、日本語が苦手な日本語指導を受けたいという生徒はNPO法人より日本語指導を毎週曜日を決めて、自主的に受けている。
- ⑤SDGsとの関係性：4・10・17



- ①撮影者：荻谷 魁人
- ②撮影場所：東京都清瀬市
- ③撮影日：2022年7月8日
- ④撮影した理由：毎週、月曜日と金曜日に子ども食堂として開かれているこの場所で、本校在学の児童の姿を時折見かけるため。
- ⑤SDGsとの関係性：1・2・3



- ①撮影者：五ノ井 ゆかり
- ②撮影場所：埼玉県立入間わかかき高等特別支援学校近隣
- ③撮影日：2022年7月11日
- ④撮影した理由：学校から近い交差点。奥のバス通りへと続く。車の通りが多いにもかかわらず信号がなく、本校の生徒にとって、危険な場所だった。トラックと生徒の接触事故も起きた。本年3月、陳情が通り、歩行者用手押し信号が設置された。生徒が朝晩、手押し信号を利用し、安全に通行できるようになった。
- ⑤SDGsとの関係性：3・4・10・11・12



- ①撮影者：土井 真智子
- ②撮影場所：千葉大学教育学部附属小学校近隣の電話ボックスの中
- ③撮影日：2022年7月15日
- ④撮影した理由：公衆電話の上に、緊急通報や災害時の伝言用の番号が掲示してありました。日本語、英語、中国語、韓国語の表記の他に漢字にはルビがあり、絵文字、色分け、文字の大きさなど、多くの人にわかりやすく工夫されていると思いました。緊急時や災害時には携帯電話が使えなくなることがあることを想定し、地域に住む皆が公衆電話の設置場所や使い方をしておくことも大切だと思ったので、撮影しました。
- ⑤SDGsとの関係性：10・11・16



- ①撮影者：太田 進
- ②撮影場所：町田駅前
- ③撮影日：2022年7月15日
- ④撮影した理由：季節食品が非常に多い日本。春は恵方巻、夏のうなぎ、冬はクリスマスケーキやおせちなど。そのたびに生ずる大量の食品ロス。ただ予約制にするなど改善の動きもある。
- ⑤SDGsとの関係性：2・12



### 3. 派遣前研修

日時：7月16日（土）@ JICA 地球ひろば、7月17日（日）@ JICA 東京

- ①目的：地球的規模の課題、途上国の現状、国際協力・ODA、JICA 事業、人間の安全保障の理念を理解する
- ②国際理解・開発教育の理念・意義を理解し、授業実践に用いる教材の作成方法を理解する

**7月16日（土） 派遣前研修 1日目@ JICA 地球ひろば**  
**2022年度初参加者 13名**  
**過年度参加者 4名 計 17名**

所要時間		プログラム	目的/説明	講師・進行
09:30		受付開始		
10:00	5	開催挨拶	研修の意義・期待される成果について理解する	JICA 東京市民参加協力第一課長 徳田 進平
10:05	20	参加者自己紹介	研修にかかわるメンバーを知る	
10:25	50	【事業説明】日本の国際協力とJICA事業 教師海外研修の概要	ODAとJICA事業について理解する 研修の目的と全体スケジュール確認	JICA 東京 古賀 聡子
11:15	5	休憩		
11:20	80	【講義・演習】地域から描く開発教育・ESD	持続可能な社会づくりとは何か、 そこに求められる資質能力とは何かを 考える	アドバイザー 東京都市大学教授 佐藤 真久 先生
12:40	50	昼食		
13:30	60	【見学】JICA 地球ひろば体験ゾーン「SDGs のコト、本気で考える展」（2022年3月 1日から9月1日）	SDGs/開発教育支援プログラム体験 し、世界の課題と国際協力の必要性を 知る	地球案内人
14:30	10	移動/休憩		
14:40	50	【講義】人間の安全保障	人間の安全保障について	JICA 緒方貞子平和 開発研究所 主任研究員 花谷 厚
15:30	10	休憩		
15:40	60	【授業体験・グループディスカッション】 SDGsを学ぶ授業	実際に高校生に向けて実施した「SDGs を学ぶ授業」を体験し、振り返る	(一社) 教育環境デザイン 研究所 畑 文子 先生
16:40	20	8月視察研修の日程説明 事務連絡	視察の班分け、写真係、私の一枚の 説明	JICA 東京 古賀 聡子
17:00	90	幡ヶ谷へ移動	移動・チェックイン	
18:30	60	夕食		
19:30	90	自由時間	多文化共生グランドルールを考える、 班分け、部屋割りほか	JICA 東京 諸橋・ 埼玉デスク矢田部



## 7月17日（日） 派遣前研修 2日目@ JICA 東京

所要時間		プログラム	目的/説明	講師・進行
08:45	10	事務連絡	本日の流れ	JICA 東京
08:55	5	話の聞き方・心構えの説明	3名の過年度参加者の発表を聞くポイントの説明	JICA 東京
09:00	55	どのようにSDGs的視点を学びの道具として活用していくか～段階的な活用の仕方と、失敗から学んだこと～	総合的な学習の時間や教科の学び 初年次の失敗と改善の事例紹介 学年担任間のカリキュラムマネジメント	新渡戸文化小学校 栢之間 倫太郎 先生
09:55	5	休憩		
10:00	55	世界史 A 中東・インドの民族運動 ～クルド人から見たトルコ共和国の成立と今日の問題～	世界史ジグソー法実践授業	桜美林高校 桑山 裕佳子 先生
10:55	5	休憩		
11:00	55	社会科を軸とした 教科横断 カリキュラムマネジメントによるSDG s 学習	図書館司書や学習活動を含めたカリキュラムマネジメント 初年次の失敗と改善の事例紹介 社会科に詰め込みすぎた事例	昭島市立清泉中学校 本間 水月 先生
11:55	60	昼食		
12:55	150	【演習】授業の「HOW」と「WHAT」を考える + 畑先生よろず相談会 (授業作成に向けての準備にあたって)	・イントロ 15分 ・授業体験 35分 ・体験交換 40分：HOWとWHATを考える（交換25分、Crs15分） ・授業研究のやり方 25分 ・畑先生のよろず相談会 15分	国立教育政策研究所 初等中等教育研究部 副部長・総括研究官 白水 始 先生 畑 文子 先生
15:25	5	休憩		
15:30	70	(授業案作成に向けての準備) 派遣前研修ふりかえり	これから作成する実践授業の案を プレストする 授業実践案シートの作成	諸橋 郁哉 佐藤 真久 先生
16:40	5	閉会挨拶		JICA 東京 次長 折田 朋美
16:45		事務連絡 解散	今後の研修の流れと提出物	



人間の安全保障について花谷 厚 氏



畑 文子先生のよろず相談会



## 4. 研修参加者写真

### 荒浜小学校にて



### 総括研修



## 5. 国内視察

日時：2022年8月16日（火）～8月20日（土）

- 目的：1. 「持続可能な社会づくり」「国際協力の必要性」「多文化共生」に対する研修参加者の理解を促進する
2. 派遣希望国でもあるザンビア・パラグアイに関連するものを取り入れ、過年度参加者にとっては海外研修の学びの補完、新規参加者にとっては来年度以降の海外研修応募への動機づけとする
3. 教師海外研修過年度参加教員との協働により、教員同士のネットワーク構築を進めるとともに、国際協力に関わる多様なステークホルダーとの繋がりを深め、学びの循環を形成・強化する

### 8月16日（火）国内視察第1日目 埼玉県川口市（多文化共生・在住外国人との共生）

所要時間	プログラム	会場	目的/説明	講師	
11:00	30	関係者紹介・事務連絡	JICA 東京	これからの活動について確認する	JICA 東京市民参加協力第一課
11:30	45	昼食	JICA 東京		
12:15	45	JICA 東京出発	バス移動	JICA 東京→芝園団地	
13:00	20	芝園団地内商店見学	芝園団地	4グループに分かれる（古賀・諸橋・宮田・八星） ゴミ捨場・たまご広場・3号棟PJベンチ・商店街を他Gと重ならないように廻る	
13:30	15	川口市の多文化共生の概要について	芝園団地 UR 集会所	川口市の取り組みを知る	川口市市民生活部協働推進課 竹内 和寿 課長補佐
13:45	90	多文化共生を支える市民の活動について ワークショップ		【在住外国人との共生を考える】 芝園団地でのとりくみ	芝園団地自治会 事務局長 岡崎 広樹 氏
15:15	15	休憩			
15:30	90	クルド人コミュニティについて		【在住外国人との共生を考える】 クルド人コミュニティとの共生の取組	クルド文化教室 主宰 中島 直美 氏 クルド人大学生2名のお話
17:00	60	移動（バス）	バス移動	川口→JICA 東京	
18:00	60	夕食	JICA 東京	JICA 東京に到着し翌日以降の予定を確認する	
19:30	90	自由活動	SR411	・部屋は21時まで利用可	JICA 東京泊

### 8月17日（水）国内視察第2日目、横浜移住資料館（日系移民）、鶴見地区（多文化共生）

所要時間	プログラム	会場	目的/説明	講師・備考	
9:00		JICA 東京出発	バス移動	JICA 東京→JICA 横浜	
10:00	90	横浜海外移住資料館見学	JICA 横浜	【移住と日系社会】 海外移住の歴史を学ぶ	3Gに分かれ密を避けて見学 (資料館スタッフ、八星、古賀)
11:30	90	昼食・図書館など自由見学	JICA 横浜		
13:00	30	バス移動（バス）	バス移動	JICA 横浜→鶴見駅（国際交流ラウンジ）	
13:30	60	多文化共生を支える市民の活動について 質疑応答	鶴見国際交流ラウンジ 研修室	【日系人との共生を考える】 鶴見区に拠点を置くABCジャパンより、在住外国人支援・協力の状況について伺う	ABC ジャパン 若者コーディネーター 安富祖 樹里 氏
14:30	10	休憩			
14:40	60	鶴見地区における多文化共生について		【多文化共生への行政の取り組みを知る】 鶴見地区における多文化共生・日系人のアイデンティティについて	横浜市国際交流協会 沼尾 実 氏

所要時間	プログラム	会場	目的／説明	講師・備考
15:40	90	鶴見地区フィールドワーク	鶴見地区 鶴見地区における多文化共生の状況を理解する 在日朝鮮人の方々との共生を理解する	横浜市国際交流協会 沼尾 実氏 神奈川朝鮮学園 皮 進氏
17:30	60	移動（バス）	バス移動 鶴見地区（入船小学校前） → JICA 東京	
18:30		夕食	JICA 東京	
19:10	5	諸連絡	翌日以降の予定を確認する （LINE）	JICA 東京泊

### 8月18日（木）国内視察第3日 丸森町（国際協力・地方創生）

所要時間	プログラム	会場	目的／説明	講師・進行
7:30	330	移動（バス）	バス移動 JICA 東京→丸森町 耕野まちづくりセンター	
13:00	60	昼食	丸森町食堂からのお弁当 各自実費負担	
14:10	60	耕野まちづくりセンター	地域振興に資する自治体の草の根技術協力について理解を深める	草の根技術協力プロジェクト マネージャー 石塚 武夫氏
15:10	40			草の根技術協力実施団体 耕野振興会 事務局長 大槻 康浩氏
16:00	60			耕野振興会会長 谷津 利明氏
17:00	30			質疑応答
17:30	30	解散・あぶくま荘へ移動		
18:15	60	夕食	あぶくま荘	
19:30		移動（バス）		あぶくま荘、大槻屋 SASANGE、 グリーンホテル角田（分宿）

### 8月19日（金）国内視察第4日 丸森町、遺構荒浜小学校、（防災復興・地方創生）

所要時間	プログラム	会場	目的／説明	講師
8:00		丸森町 出発（バス）	バス移動 それぞれの宿泊先から丸森町まちづくりセンターに集合	
8:45	45	丸森町まちづくりセンター	〒981-2100 宮城県伊具郡丸森町宇鳥屋 120	現大学生：熊谷 康平 君
9:30	15			質疑応答
9:45	15			
10:00	60	チーム A：つぶら農園	自然農と地域のかかわり方を知る 今後短期専門家として派遣予定	安部 信次氏 夫婦で移住／本業は保育士
		チーム B：沢尻の棚田	棚田保全活動 ザンビア人の研修生受け入れ	大槻 光一氏 畜産・野菜・稲作農家
11:00	30	移動		
11:30	30	大内いきいき交流センター ／丸森カフェ	〒981-2501 宮城県伊具郡丸森町大内町西7 直売所で買い物	
12:00	50	移動（バス）	バス移動 あらはまフルーツパークへ	
12:50	70	昼食・移動		昼食：あらはまフルーツパーク



所要時間	プログラム	会場	目的/説明	講師
14:00 180	荒浜小学校での講義と見学 海岸遺構視察	遺構 荒浜小学校	【防災・復興】 東日本大震災・行政の復興計画に ついての理解を深める	宮城県仙台市若林区荒浜新堀端 32-1 遺構管理事務所 TEL022-355-8517 遺構荒浜小学校解説員
17:00 10	休憩、出発準備			
17:10 30	移動(荒浜小学校→ホテル)	バス移動		

## 8月20日(土) 国内視察第5日 JICA 東京

所要時間	プログラム	会場	目的/説明	講師
7:30 60	パラグアイ ラパス日本語学校とのオン ライン交流		移住地の子どもを知る	それぞれの部屋から Zoom に入る
8:50 40	チェックアウト (8:45 までに)・移動	バス移動	ホテル(仙台)→岩沼	
9:40 80	JOCA 東北の事業説明	JOCA 東北	東日本大震災復興・地域おこしに かかわる協力について理解を深め る	JOCA 東北
11:00 60	施設案内・研修振り返り	JOCA 東北		
12:00 60		昼食		
13:00 330	出発 ひつじ村経由 東京へ移動	バス移動	岩沼→JICA 東京	
18:30	JICA 東京着 解散	JICA 東京		

## 国内視察研修写真



芝園団地



JICA 横浜 移住資料館



横浜市鶴見区見学



丸森町

# 私の1枚

国内視察研修

## 悲しい昨日が 涙の向こうで いつか微笑みに変わったら



### ・メッセージ

荒浜は東日本大震災まで地域の方々の馴染み深い海だった。しかし、3月11日その海は9メートルもの津波となり日常を変えてしまった。現在は海岸付近も整備されつつあるが、かつての住宅地は未だ元に戻っていない。その一方で、海は海外への入り口でもある。丸森町や高校生の熊谷さんは海を越えて新たな世界を知ることができた。また、近年日本国内で外国人居住者が増えている。畏れる対象であるとともに、様々な恩恵を受けている海をこれからも大切にしていきたい。また、多様な背景をもつ人々が生活する現代において海のように広い心で他者に接する意識を持ち続けたい。(タイトルは好きな曲の一節から取りました。)

名前 橋爪 愛乃 撮影場所 仙台市若林区荒浜 撮影日 2022年8月19日

## 完璧じゃないのが良い！



### ・メッセージ

「匂いだったり、生活音だったり、色々なところが気になってしまおう」と芝園団地で出会った岡崎さんがおっしゃっていたが、一緒に暮らすことで出てきてしまう問題点、さらに、接点を作り協力することで見えてくる解決の糸口があるのだと知った。学校現場を顧みると、学年間、男女間、言語間、障がいの有無など、色々な理由で作られてしまう「壁」の存在を感じてしまう。私自身も含め、効率性に縛られ、完璧であることを求めるあまり、問題を回避するための予防線を引きすぎてしまう。まずは時間を共にし、お互いの存在を認知し合うような、まさに JOCA 東北さんの提供するような自然な空間が、教育現場だからこそ必要なのではないかと考えている。

名前 高橋 絵理 撮影場所 JOCA東北 撮影日 2022年8月20日

## 多文化共生の可能性



### ・メッセージ

日本の棚田 100 選にも選ばれた美しい棚田を訪れた。丸森町は高齢化・過疎化が進み、水害の被害も大きく目立った観光資源もない。一見、町の発展を望むのは難しいように思われる。しかしザンビアとの交流をきっかけに町の良さを活用し、町外の人との交流を活発に行っている。この写真の私たちのように県外から訪問者が訪れる。町への移住者もいるし町から世界へ目を向けた若者もいる。今後訪問者や移住者がさらに増え、町は発展し多文化共生が必要となるかもしれないが、丸森町の人々のおおらかさがそれを可能にしてくれると思う。

名前 遠藤 大輔 撮影場所 沢尻の棚田 撮影日 2022年8月19日

## ごちゃまぜの破壊的な居心地の良さ



### ・メッセージ

JOCA 東北では、施設や人、もの、アイデアなど様々なものがごちゃまぜ。右側に写る女性は、岩沼生涯協力隊としてボランティア活動をなさっているそう。仙台市から転居し、当時は知り合いや近所との付き合いが薄かったという。ボランティアの意義について聞くと「つながりができた。それが楽しい。やりたいときだけやればいいから気が楽。みんなそういう気持ち。」と話してくれた。JOCA 東北の掲げる「ごちゃまぜ」という理念がボランティアさんまで浸透していることに驚きながらも、この女性の輝く姿に惹き込まれ、「この施設の一員に加わりたい。」と自然と思っていた。もちろん施設的设计には工夫がたくさん施されていたが、それだけではなかった。活気あるまちでは、人が資源となり、互いにつながり合っている。これが単なる都市開発とまちづくりの違いなのではないかと思った。

名前 吉田 祥子 撮影場所 JOCA東北 撮影日 2022年8月20日



## 体験学習



## ・メッセージ

「農と教育をテーマに」つぶら農園の園主「安部信次」さんの言葉です。私自身体験学習をもっと増やすことができなにかと思うことがあります。どのようにしたら子供が社会で生きていく力を得られるかと考えた時に、体験学習の充実はとても大切だと考えます。つぶら農園の活動は、子供が外の農的空間で動物たちと触れ合えたり、農作業をする中で様々な体験ができたり、決まったプログラムはなかったりするなどとても魅力的でした。子供が「楽しそう！やってみたいな！」と思う授業をたくさんデザインしていきたいなと思い、この写真にしました。

名前 田中 由利子 撮影場所 つぶら農園 撮影日 2022年8月19日

## 共生の未来？過去？



## ・メッセージ

研修の中で、多文化共生という言葉を経験となく聞き、そのたびに様々なルーツを持つ人々のことを自分はどのように受け止めていくのだろうか。子供にはどのように伝えていくのだろうかと考えていました。そんな中で、訪問させていただいたつぶら農園さんでの写真を私の一枚としました。この写真には、耕さない農業「不耕起栽培」や、やぎが草を食べている様子、高さの異なる畑、様々な種類の野菜が写っています。人だけでなく、自然や生き物という多文化とともに生きる。このような姿は、これからの未来なのか、本来あった姿、過去なのか、

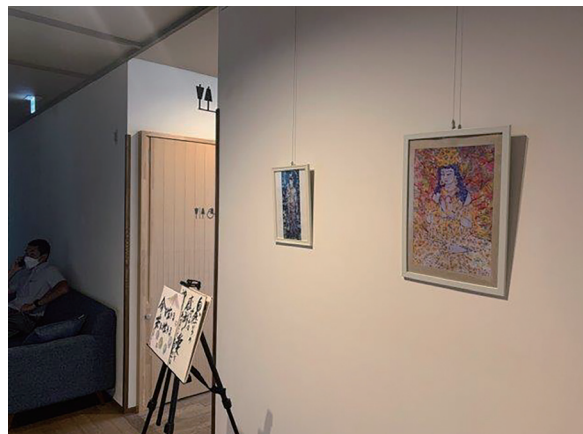
名前 萩谷 魁人 撮影場所 つぶら農園 撮影日 2022年8月19日

「対等でなければつまらない、  
続かない～耕野の地域おこしと国際協力～」

## ・メッセージ

耕野での地域おこしの一つが国際協力ということを教えていただき、目から鱗。地域の方がこれまで培ってきた経験や技術を海外で活かす。地元に来てもらい技術指導を行う。その中で自然にお互いの異文化交流が始まり、人間と人間の付き合いが行われているということに持続可能な地域づくりの可能性を見出した。若い世代と高齢者の交流というと表面的に終わってしまいがちだが、耕野とザンビアの国際協力・国際理解は本当にお互いが対等に必要感をもって行っている。学校での国際協力も、村づくりとしての国際協力もこのようにあるべき。

名前 下井 慈 撮影場所 仙台市丸森町耕野地区 撮影日 2022年8月18日

コミュニケーションのきっかけ  
～付加価値を高める～

## ・メッセージ

「ごちゃまぜ」にした JOCA 東北での 1 枚。温泉、蕎麦屋、ジム、デイサービス、保育園等の施設が入ったこの場所は、老若男女問わず様々な方々が利用されるだろう。これは「トイレの看板」である。案内を最小限にすることで、「これって何なの?」「どこにあるの?」等のコミュニケーションが、利用者と従業員との間で、または利用者同士でも生まれるだろう。このように、場を作るだけでなく、付加価値を高めるための工夫が随所に見られた。

名前 生方 彩香 撮影場所 JOCA東北 トイレ 撮影日 2022年8月20日



## 『ネグナッター』で問題なくなった～



### ・メッセージ

丸森町の特徴ある地域づくりの取組を色々と学ばせて頂いた翌朝に宿泊でお世話になった旅館大槻屋 SANGE さんの敷地にて。『ネグナッター』とチャームな名前。だが年々深刻化している放置竹林問題で伐採した竹をパウダー状にし、生ごみと混ぜ込み肥料を作る衝撃的なコンポスト。地産地消と問題解決の環境改善など持続可能な生きた活動がここには存在すると感じた。

名前 富澤 喜一 撮影場所 宮城県伊具郡丸森町 撮影日 2022年8月19日

## カオスが当たり前



### ・メッセージ

JOCA 東北さん2Fに飾られていたアート作品。多文化・異文化共生などの言葉がキーであった研修の中で「ごちゃまぜ」という切り口を持つ JOCA 東北さんに感銘を受けた。それを象徴するようなアート作品を選んだ。モノを分かりやすくするようにカテゴライズするのが人間の悪い癖で、その極端なものが分断を生みカオスをネガティブなものとして捉える。カオスが当たり前、カオスがすでにコスモスであるというような発見があった。また、目立ち過ぎないでも階段を登ってくと視線には入る…という絶妙な配置にもぐっと来た。

名前 山岸 洋一 撮影場所 JOCA東北 撮影日 2022年8月20日

## 働く人もごちゃまぜの JOCA 東北



### ・メッセージ

JOCA 東北は、いろいろな施設の集まった居心地のいいところ。入口を入ってすぐのところはデイサービス。その真向にあるのが保育園。温泉、足湯、ジム、マッサージの受けられるリラクゼーション店、蕎麦屋と、聞いただけでわくわくしてきます。私の勤務校は高等部です。知的障害を持つ生徒が卒業後の就労を目指しています。階段下の職員募集が目がひきつけられました。募集する職員も多様です。館内では空気がゆったりと流れ、障害を持つ人も一生懸命働いています。おばあさんがゆっくりお会計をしておりましたが、だれも急がせることはありませんでした。

名前 五ノ井 ゆかり 撮影場所 JOCA東北 撮影日 2022年8月20日

## 時が止まった時計



### ・メッセージ

この写真は、荒浜小学校校内に展示されていた、東日本大震災で津波到達時に止まった時計である。当時地震により発生した津波は、車、住居、あらゆるものを飲み込みながら校舎の2階部分まで到達した。その際、校舎だけではなく体育館も飲み込まれた。午後3時55分。津波に襲われた時間に、この時計は止まっていた。過去に起きたことを永遠に止めたまま風化させていくのではなく、この時計のように「残し、伝えていくこと」が大切さだと感じた。私自身も記憶を風化させず、経験としてどう生徒に伝えていくか考えていきたい。

名前 玉井 彩郁 撮影場所 震災遺構 仙台市荒浜小学校 撮影日 2022年8月19日



## 今と未来の生活を守る棚田



## ・メッセージ

棚田の保全は、防災対策でもある。棚田が山からの大量の雨水を溜め、ダム役割をしているのだ。景観保護という一面しか見ていなかった私にとって、「保全活動は過去の文化を守るとともに、現在と未来の生活も守る重要な活動である」という気づきは大きなものだった。写真中央の崩れた斜面は、阿武隈川が氾濫し、丸森町に大きな被害をもたらした2019年の台風19号の爪痕である。写真手前の石垣には、開墾時に掘り出した石を積み上げたものと、台風の被害を修復したブロックがあり、人々の力で大切に守られてきた棚田の歴史を感じさせる。

名前 八木 ゆかり 撮影場所 宮城県伊具郡丸森町大張川張 撮影日 2022年8月19日

## 太陽光発電事業絶対反対



## ・メッセージ

太陽光発電設置による土砂崩れの心配、水の心配があり、命の安全保障が脅かされている。東京の業者は、どこまで地元住民の命の安全保障を考えているのだろうか。そして、その電力を使っているのは、関東地方に住む私たちかもしれない。

名前 土井 真智子 撮影場所 丸森町 撮影日 2022年8月18日

## 食でクルドの人とつながろう



## ・メッセージ

中島さんとクルド人大学生と一緒にクルド料理の調理実習を計画している。「この人たち何者？どこから来たの？」から料理教室に参加し、『クルドの食卓』を出版するに至った中島さんの「支援の対象としてではなく、活動の主役として一緒に活動している」という言葉が心に残った。「隣人として心配」している活動が、これからの日本の多文化共生社会の子ども達のロールモデルだと思う。そして、クルド人大学生との交流が、子ども達にとって、UNHCR出張授業で見た難民ではなく、隣にいる難民の姿としての転換になると思う。

名前 堀江 理砂 撮影場所 埼玉県川口市芝園団地集会所 撮影日 2022年8月16日

## Where is this place in which these sheep live?



## ・メッセージ

地域の震災復興のシンボルとして羊を有効に活用して大変印象に残りました。少子高齢化や集団移転に伴う過疎化の中で、沿岸部の雑草を食してくれ、飼育のノウハウがあり、人々が彼らを見に来る場所を作れるという様々な利点を生み出していました。『荒れた土地を蘇らせ、訪れた人たちに癒しを与える「シンボル」になる』とJOCA東北さんの資料にあるように、地方創生の大きな一例であると考えさせられました。

名前 太田 進 撮影場所 宮城県岩沼 撮影日 2022年8月20日





### ・メッセージ

この教室で机に向かい、何気ない日々を過ごしていた子どもたちの姿を想うと言葉が見つからない。ただ、荒浜小学校の先生方の勇気ある避難活動により、命を落とすことなく助かった当時の小学生が未来へはばたいている姿を想像すると、命の尊さを身に染みて感じさせられる。

名前 松村 駿 撮影場所 荒浜小学校1階 撮影日 2022年8月19日

## 「フォトランゲージ」

1枚の写真も、使い次第で立派な開発教育の教材になる。

フォトランゲージは、写真を使って行う参加型のアクティビティだ。

たとえば、南の島から届いた1枚の絵はがき。「どこの島（国）だろう？」「ここに写っている人は何をして（考えて）いるのだろう？」といった疑問に始まり、その土地の文化的な特徴が表われているものを探したり、写真にキャプション（簡単な解説）を付けてみたり、その写真を題材にしてニュース記事を書いたり…。グループで話し合い、写真を“読み解く”なかから、いろいろな気づきや発見が生まれる。

フォトランゲージで使用する教材（写真）は、絵はがきや雑誌の切り抜き、写真集のページをカラーコピーするだけで簡単に用意することができるので、誰でも手軽に取り組むことができる。また、ビジュアルな道具を使うことには、その後の話し合いのテーマ、焦点を明確にしやすいという利点もある。

### 「フォトランゲージ」の効果

1. 共感的な理解や想像力を高める
2. ものごとの多様な捉え方に気づく
3. 無意識のうちに持っている偏見や固定観念に気づく
4. メディアに対して批判的な見方ができるようになる

### 「フォトランゲージ」を行う際の注意点

1. 観察に十分な時間をとる
2. 間違った答の背景にあるものを重視する
3. 自由な発想を大切にする

開発教育協会 DEAR ホームページ <http://www.dear.or.jp/activity/1730/>

## 6. 派遣後研修（授業研究）

日時：2022年9月4日（日）

場所：JICA 東京センター

目的：国内視察研修の経験を活かした授業実施・教材作成について考える

所要時間	プログラム	目的／説明	講師・進行	
09:30		受付開始	進行：諸橋	
10:00	5	開会挨拶	JICA 東京 市民参加協力第一課長	
10:05	50	視察研修を時系列で追いながら私の1枚の共有	視察研修の流れを振り返りながら参加教員の「私の一枚」について、 ①場所と背景 ②選んだ理由（③生徒に何を伝えたいか）を各自2分で発表する	JICA インターン 岡本 祥平
10:55	5	休憩		
11:00	60	【講義演習】 世界を多角的に捉えるために一正しさの衝突について考えるー	VUCAの時代に世界をどうすれば多角的に捉えることができるかについてワークショップ形式で理解を深める。 講義 20分 付箋を個人で分類 10分 隣との共有 10分 全体共有 10分 まとめ 10分	東京都市大学 佐藤 真久氏
12:00	60	昼食（昼食後、ご自身の前半グループ部屋へ）		
13:00	100	【ワークショップ】 検討を進めている授業案の共有・意見交換（グループワーク）	各自で作成を進めた授業実践案シートを用い、グループ内で授業共有・意見交換を行う 3人の場合の目安：10分授業説明、20分意見交換 1人目 13:00 説明、13:10 意見交換、13:30 頃終了 2人目 13:35 説明、13:45 意見交換、14:05 頃終了 3人目 14:10 説明、14:20 意見交換、14:40 頃終了 4人の場合の目安：7分授業説明、15分意見交換 1人目 13:00 説明、13:07 意見交換、13:22 頃終了 2人目 13:25 説明、13:32 意見交換、13:47 頃終了 3人目 13:50 説明、13:57 意見交換、14:12 頃終了 4人目 14:15 説明、14:22 意見交換、14:40 頃終了	（一般社団法人） 教育環境デザイン 研究所 畑 文子氏 JICA 東京 諸橋 郁哉
14:40	10	移動・休憩 （ご自身の後半グループ部屋へ）		
14:50	100	【ワークショップ】 検討を進めている授業案の共有・意見交換（グループワーク）	各自で作成を進めた授業実践案シートを用い、グループ内で授業共有・意見交換を行う 3人の場合の目安：10分授業説明、20分意見交換 1人目 14:50 説明、15:00 意見交換、15:20 頃終了 2人目 15:25 説明、15:35 意見交換、15:55 頃終了 3人目 16:00 説明、16:10 意見交換、16:00 頃終了 4人の場合の目安：7分授業説明、15分意見交換 1人目 14:50 説明、14:57 意見交換、15:12 頃終了 2人目 15:15 説明、15:22 意見交換、15:37 頃終了 3人目 15:40 説明、15:47 意見交換、16:02 頃終了 4人目 16:05 説明、16:12 意見交換、16:30 頃終了	（一般社団法人） 教育環境デザイン 研究所 畑 文子氏 JICA 東京 諸橋 郁哉
16:30	10	休憩		
16:40	20	実践に向けて意気込みやポイントを一人一言 事務連絡	今後の研修の流れ（授業実践、県別報告会、1月全体報告会、報告書の提出について）	JICA 東京
17:00		解散		

# 7. 授業実践

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名		学校名	都・道・府・県 立 学校
担当教科等		対象学年 (人数)	年 組 (名)
実践年月日もしくは期間 (時数)		年 月 ~	月 (時間)

### 【実践概要】

- 実践する教科・領域:
- 単元(活動)名:
- 授業テーマ(タイトル)と単元目標  
授業テーマ: 「 」  
単元目標:  
関連する学習指導要領上の目標:
- 単元の評価標準
 

①知識及び技能	
②思考力、判断力、表現力等	
③学びに向かう力、人間性等	
- 単元設定の理由・単元の意義  
(児童/生徒観、教材観、指導観)  
【単元設定の理由】  
【単元の意義】  
【児童/生徒観】  
【指導観】
- 単元計画 (全 時間)
 

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1				
2				
3				
4				

1

7. 本時の展開 ( 時間目)  
本時のねらい:

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 ( 分)			
展開 ( 分)			
まとめ ( 分)			

8. 評価標準に基づく本時の評価方法

9. 学習方法及び外部との連携

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

### 【自己評価】

11. 苦労した点	
12. 改善点	
13. 成果が出た点	
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	
15. 授業者による自由記述	

参考資料:

※ 過去の本研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどを JICA ホームページに掲載しています。是非ご覧ください!

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>

2

※過去の研修参加教員による実践事例を、JICA 東京ホームページに掲載しています。  
<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/>

## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	荻谷 魁人	学校名	東京都・道・府・県 清瀬市立 芝山小学校
担当教科等	小学校全科	対象学年（人数）	6年 2組（27名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2022年9月～11月（13時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域： 総合		
2. 単元(活動)名： 世界の生活をみつめよう		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「世界の生活をみつめよう」 単元目標：外国の文化や習慣について知る 詳しく調べたいことを見つけ、情報を集める 日本の文化や習慣のよさや他国との違いを多角的に考える 関連する学習指導要領上の目標：		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発展性や追究性のある自分の課題を見付けている。</li> <li>・ 既習事項を生かしながら課題を追究している。</li> <li>・ 進んで調べ学習をし、情報を活用している。</li> </ul>
	②思考力、判断力、 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習したことを文、絵、図などを使って効果的にまとめている。</li> <li>・ 目的や意図に応じて工夫しながら分かりやすく表現している。</li> </ul>
	③学びに向かう力、 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学んだことの成果を振り返り、次の学習や生活にすすんで役立てている。</li> <li>・ 自分の学び方や考え方の良さに気付き、自信をもっている。</li> <li>・ 人との関わりから進んで学んでいる。</li> </ul>
5. 単元設定の理由・単元の意義  (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由】</b>          現在、日本国内には多様なルーツをもつ人々が生活をしており、その人数が年々増加していることが見てとれる。外国の生活に触れ、人々について考えを巡らすことは、これから社会に生きる子供たちにとって、非常に有益な学びになることが考えられる。</p> <p><b>【単元の意義】</b>          この単元では、今まで日本国内に多く向けていた文化への目や習慣についての目を、初めて国外へと向けることになる。国外で暮らす人々が、どのような環境にいるのか、どのような考えをもっているのかといったことに触れることで、改めて自国や自分自身に視点を戻すことになる。そのように段階を経ることで、国外と国内の2つの視点を改めて学ぶことができる。</p> <p><b>【児童観】</b>          本学級の児童は、これまでの総合的な学習の時間に加え、他教科の学習の時間でも、調べ学習や学級での発表を多く行ってきた。特に、個人で新聞にまとめることや、</p>	

	<p>タブレット端末を活用して写真を活用したスライドや文章にまとめることを多く行っている。その一方で、グループになり、話し合いながらテーマについての学びを深めることや、情報を伝えるための表現を工夫することはあまり行えていない。</p> <p>今回の学習を通して、自身の関心事を追求するための手段や方法、他者に適切に伝える方法について、児童それぞれが見付けていく。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>総合の学習では、探求的な学びの基礎として調べ学習を主としてやってきた。今回の学習では、経験談を聞き、外国での生活のイメージを広げるとともに、日常的に、ザンビアでの生活の映像を見ることで、学習テーマを考えやすくする。また、インターネットや、本のみでの情報とならないように、インタビューやメール等による聞き取りを行うことで、本單元以外での学習にも生かしていけるようにする。</p> <p>さらに、失敗から学び自分の学習方法を確立していけるよう、支援や下準備は最低限にし、児童の中でのPDCAサイクルに働きかける。</p>
--	---

6. 単元計画（全13時間）			
時間	学習のねらい	学習活動	資料など
1・2	学習テーマを決める契機をつくる	カンボジアに実際に行き、生活や文化を経験した人から現地での生活について話を聞いたり、考えたりする。	カンボジアでの生活についてのスライド
3～6	グループごとに、話し合い、学習計画を立てさせる	本やタブレット端末を活用して、世界の情報について、グループで分担しながら集める。 海外の何について学習を深めていきたいか、考えて準備する。	SDGsカードの掲示
7	他グループとの交流を通して、自グループの考えを深める	他グループに自グループの考えを共有し、新たな視点や解決案をもらい、自分たちの考えを深める。	
8～12	「伝える」ことを意識した発表準備をさせる	前時での意見交換や、グループでの話し合いを基に、学習を深めたり、発表の準備を進めたりしていく。 自分たちが調べたことと、日本との関わりや、調べた内容は日本ではどのような形であるのかを調べ、比較する。	スライド 模造紙 海外での生活について
13	自分たちのテーマ、調べた内容を分かりやすく伝える。	発表用に準備した資料を基に、友達へ分かりやすく、興味・関心を引くよう発表をする。	

7. 本時の展開（7時間目） 本時のねらい：グループの学びの深め方や、発表の工夫について、他のグループとの情報を交換し、自分たちのグループの学びの深め方や発表の工夫について見直させる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料（教材）
導入 (5分)	T『話し合いの際には、3つのこと「何を深めたいのか」「どこに聞きたいのか」「発表上の工夫はどのように行う予定か」は、必ず話し合いましょう。』 話し合いの際には、なぜその内容を深めたいのか、その機関に聞くことは適切なのかの検討、発表の工夫は、伝えたい内容に対して効果的なのかなどを話し合わせる。 6グループが、ローテーションで回り、3つのグループから意見がもらえるようにする。 話し合いの後に、自分たちのグループでもう一度3つの内容について練り直し、確定する。	児童同士で、有用なアドバイスが出てこなかった際には、教師が学習を深める際に活用できそうな場所や団体について、紹介する。(大使館、JICA等)	
展開 (35分)			
まとめ (5分)			
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 他グループの考えや、アドバイスから進んで学んでいる。【発表・スライド】			
9. 学習方法及び外部との連携 話し合い活動 海外渡航経験者に事前に連絡を取り、質問に答えてもらう。 JICA 関係者の方で、児童が知りたい国に行ったことがある方がいた際には、連絡を取り質問に可能な範囲で回答してもらう。 大使館に連絡を取り、回答が可能なものについて、メールで児童の質問に回答してもらう。			
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 JICA 主催の勉強会への参加 校内研究で本単元の学習を行う。			

## 【自己評価】

11. 苦労した点	第3時で、児童が自ら興味関心をもった事柄について調べていくため、テーマごとに分かれる点。今回は、日常の中で児童が選びそうなテーマに関連する教材を提示しておくことで、分散するようにした。 第8～13時で、テーマに沿ってそれぞれのグループで、団体や個人に外国での生活について質問をする際、児童だけでは事前にアポイントメントを取ることが難しかったため、教師側で根回しが必要であった。また、海外にいる方へ連絡を取る際には、時差を考慮した時間でのやり取りとなるため、かなりの時間がかかり単元自体の期間を長くとる必要があった。 さらに、今回は国についてもある程度の例示はしていたが、海外の官庁に聞くことは難しかった。
-----------	--



12. 改善点	今年度の反省を踏まえて、テーマごとの人数はあらかじめこちらで指定をする。また、テーマの内容もあらかじめ児童に聞いたものを集約し、改めて教師から提案する。そして関心をもったテーマを複数聞いたうえで、人数を割り振ることで、児童が主体的に学習に取り組むという側面を崩さないまま、人数やその後のアポイントメントを事前にとることができるような状態にしておく。
13. 成果が出た点	世界の生活について目を向けることで、これまで見えていなかった日本の生活についても考えることができていた。また、環境が異なることによって同じテーマであっても、関連する SDG s の目標が異なることに気付いている児童も見られた。 また、これまでの書籍やインターネットから集めた情報だけでなく、実際の経験からくる話を聞くことで、得られる気付きや学びがあった。 発表の際に、ただ分かったことを並べていくだけでなく、どのポイントに注目して欲しいのかを考えた資料の作成や、聞く側が飽きることなく学習に取り組むことができる工夫を考えることができていた。
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	別途、発表時に使用したスライド等を共有させていただきたいと思います。
15. 授業者による自由記述	今回の单元では、今後の学習につながるよう、世界の生活から、世界と日本の比較、世界の国の中での比較、日本国内での比較から、人権について考えることができることが一番良いかと考えていました。結果的には、世界と日本の比較から、SDG s の目標でも違いがあることや、目標の達成のためにできることがあるかも知れない。という方向に軌道修正していきました。今後は、今回の学習をきっかけに、世界の中での日本や、日本にある世界についても関心を広げられるよう、様々な場面でアプローチができたらと思っています。その一つとして、研修で訪れたような地域や施設の話は、子供たちにとってもとても刺激的な物のようでした。また、人権の問題についても、別の角度からアプローチをし、そこから様々なルーツをも人々に対する人権に反するような対応や投げかけられた言葉についても学習することができるようにしています。

## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	堀江理砂	学校名	東京都 世田谷区立赤堤小学校
担当教科等	家庭科	対象学年 (人数)	6年 1/2/3組 (28/26/28 計 82名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2022年 12月 20日 (火) 5時間目 2022年 5月～12月 (30時間)		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：小学校家庭科		
2. 単元(活動)名：持続可能な社会に向けて		
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：「持続可能な社会に向けて」 単元目標：持続可能な社会に向けて、ジブンゴトとして実践しよう 関連する学習指導要領上の目標：【前文】「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識すると共に、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」 【家庭科目標の前文】家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。		
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活の仕方と身の周りの課題のつながりについて理解している。</li> <li>持続可能な社会を創る意義について分かる。</li> </ul>
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活を見直し、持続可能な社会に配慮した物の使い方などについて考えている。</li> <li>持続可能な社会をつくる主体者として、自分ごととして実践をしている。</li> </ul>
	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活の仕方と身の周りの課題のつながりに関心をもつ。</li> <li>身の周りの課題についてジブンゴトとして捉え、今までの価値観を変容させようとしている。</li> <li>家族や社会の一員として、自分ができることは何かを考え、よりよく生活しようとしている。</li> </ul>
5. 単元設定の理由・単元の意義  (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】本単元は、小学校家庭科において、生活事象を持続可能な社会の構築の視点で捉え、主体的に、よりよい生活を営むために工夫・実践することを目指した。</p> <p>【単元の意義】ESD (Education for Sustainable Developmentの略、「持続可能な社会の創り手を育む教育」) は、世田谷区で推進している教育の一つであり、児童一人ひとりが自分の価値観や生き方・好奇心・興味に合わせて、社会や世界の課題を自分ごととして捉え、一人ひとりの価値を「変容」させ、持続可能な社会に向けて課題解決を実践する学びである。児童一人ひとりが探究的に学ぶ題材として親和性が高い。</p> <p>【児童/生徒観】 机上の学びより体を動かしながらの学びを好む児童が多く、また、新しいことに取り組む意欲は高い。それゆえ、家庭科の授業については、意</p>	



欲をもち、学ぶ子が多い学年である。5年4月から1年半の学習を経て、調理や裁縫では「難しそうでもやってみると出来そうかな、やってみよう」という意欲や自信をもてるようになってきた。

**【指導観】**

(1) 社会や世界の課題をジブンゴトとし、個人変容（それぞれの価値観や生活様式を変える）を起こす子どもに育てる。

- ①社会的・世界的な課題は現在の自分の生活とつながりがあることを理解・体感し、ジブンゴトとして課題解決に取り組もうとする姿勢。
- ②具体的な方法は、それぞれの題材を知識習得に収めず、五感を使っての体験・経験を通して、自分の生活との関わりを実感することにより、一人一人の価値観や生活様式を揺るがす。

(2) 個人変容に加え、社会変容を起こそうとする子どもに育てる。

①社会変容とは

個人変容を起こした子どもが、家族に話し、その話から家族の価値観や行動様式が変わることも社会変容である。例えば、買い物の際に食品ロスに注意したり、使い捨てをしないようにしたり、家族でニュースをよく見て話題にしたり、肉食を控えたり、等である。また、インタビューや要望を企業や政治家に行うことで、「小学生からこんな問い合わせ・要望が来た」ということからインタビュー相手が活動を励まされると感じ、さらに活動を進める後押しになったり、消費者・有権者からの「ご意見」として、危機感を覚えたりすることが想像できる。これも児童が起こす社会変容ととらえている。

②1人ひとりの課題から、共通課題へ

過年度までの実践では、個人変容を経て実践を起こした児童が、「自分は無力ではない」と自尊心を高め、さらに新しく個人変容を起こしていくという相互変容・ダイナミックな関係性も見られた。今年度は、より多くの児童が実践に取り組めるように、グループプロジェクトで実践を出来る時間を、授業時間内でしっかり確保した。

③グループで課題解決に向けて実践し、5年生へ広げる

関心のある課題でグループ編成を行い、そこで課題解決のための実践を行う。その実践とそこから考えたことを5年生へ伝え、後輩にも社会変容を起こす。

(3) 2年間の家庭科でのカリキュラムマネジメントを行う。

5・6年計115時間でカリキュラムマネジメントを行う。

**6. 単元計画（全30時間）**

	小单元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 2	ザンビアの概要 SDGs について?	ザンビアを知ろう。SDGsを知ろう	● ザンビアクイズ。チテンゲの試着。SDGsとは何かを知る。	・2017JICA 教海研の写真 ・チテンゲ
3 4	貿易ゲームをしよう	不平等な現状や立場の違う人の思いを考えよう	● 内容に差がある袋を選び、指定された生産物を作る「貿易ゲーム」を行う。	・貿易ゲームを小学生用にアレンジ
5 6	世界の食の課題 フードロスとは	世界の食の課題とフードロスの原因を考えよう	● フードロスと世界的食糧課題を知る。 ● 鬼ごっこを通して、1/3が廃棄されることを体感	・日本のフードロス資料 ・フードロス鬼ごっこ

7 8	見えない油とわたしたちの暮らし	パーム油の長所短所を知り、自分との関わりを考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パーム油の利点や生産地や加工方法などを知る。</li> <li>● チョコレートの食べ比べを行う。</li> <li>● 身の周りのパーム油調べ(次週までの宿題)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「所さんの目がテン！」184回</li> <li>・greenpeace「寝室にランタンがいるの」</li> <li>・製品の実物・袋</li> </ul>
9	食品ロス・ゴミ問題を考えよう	卒業生から思いを聞き、一緒に実践をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高校生の先輩と調理実習で出た食品くずから牛乳パックコンポストを作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛乳パック・土</li> <li>・おがくず、調理実習の残菜</li> </ul>
10 11	Free the children 出張授業	自分の好きなことからアクションを考えよう(FTCJ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 12歳の少年が団体を設立した経緯から「子どもは無力ではない」というメッセージを受け取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ“world map”</li> </ul>
12 13	衣服と世界の課題のつながりを考えよう	衣服と世界のつながりをオーガニックコットン栽培とつなげて考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講師の方の話から、コットンの栽培やオーガニックコットンの現状を知り、くらしとの関わりを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーガニックコットンの栽培</li> <li>・メイド・イン・アース</li> </ul>
14 15	UNHCR 出張授業	UNHCRのワークショップで、難民について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワークショップを通して、世界には多くの難民がいることを知る。</li> </ul>	
16 17	動画視聴を通して考えよう	実際に行動を起こしている人から自分の生活を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 映画とNHKスペシャルダイジェストを鑑賞し、今必要なことは何かについて考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「グレート人ぼっちの挑戦」</li> <li>「未来の選択2030」</li> </ul>
夏休み	個人プロジェクトを実践(夏休み)	興味ある課題を調べ、解決に向け実践しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の興味あることからSDGsの視点で、調べ、自分事として実践を行う。</li> </ul>	書籍 ワークシート
18 19	個人プロジェクトを班内で発表	夏休み課題の発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調べたこと・実践を発表する。友達の発表を聞き、質問や感想を交流する。</li> </ul>	
20 21	学校の課題を共有しよう	サステイナブルのめがねで学校探検	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 赤小を「持続可能な」観点から、学校探検をする。</li> </ul>	
22 23	難民と自分のくらしとのつながり	日本にいる隣にいる難民について知り、考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 在日クルド大学生と伴走者の話を聞き、調理実習を一緒にし、日本にいる隣の難民について考えよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メネメン調理の材料</li> <li>・クルド人難民の動画</li> </ul>
24 ～ 27	プロジェクトを進めよう	各グループで課題解決のための実践を行い、5年生に伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各グループで解決のための実践を行う。そこから考えたこととこれまでの学びをまとめる。</li> </ul>	
28 29	プロジェクト提案	寄付付スパイスとソイミートでエシカルカレーをつくらう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「エシカル消費プロジェクト」から提案のあったカレーの調理実習を通して、エシカルについて考えよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・esa カレースパイス</li> <li>・ソイミート</li> </ul>

30 本時	「SDGs の学びを 5 年生に伝える会」	5 年生に学びを伝えよう	● 5 年生にこれまでの学びを伝え、持続可能な社会を創る仲間を誘う場として、5 年生に語る。	
31 32	衣服とのつながりを考えよう 2	オーガニックコットンから糸を作ろう	● 講師の方の話から、生地や縫製の現状を知る。綿繰り、糸つむぎを行う。	・メイド・イン・アース
7. 本時の展開 (30/32 時間目) 本時のねらい：これまでの学びを 5 年生に伝え、「持続可能な社会」を創る仲間誘いをしよう。				
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態		指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (2 分)	本時のねらいを確認しよう			
展開 (35 分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「SDGs とは?」「今年やったこと」を全体で発表</li> <li>● 課題グループごとに前に出て発表 それぞれの課題についての「現在の状況、自分たちの変容と実践、5 年生へのメッセージ」を発表 ①ゴミ削減②エシカル消費③食品ロス④ジェンダー平等⑤気候変動⑥プラスチック</li> </ul>		グループの発表の入れ替わり時には、ロイロでふり返りをするように声をかける	・各グループで作成したパワポ資料、動画、ロイロ資料など
まとめ (5 分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ふり返りをロイロのアンケートで行う。 【5 年生】 ○発表を聞いての自分の変化○全体の感想 【6 年生】(6 年のみ次時も引き続き) ○自分と他のグループの発表内容について ○自分の課題についての自己変容と他者変容 ○「共生」についてふり返り ○「持続可能な社会へ」単元全体のふり返りと今後の取り組み</li> </ul>		5 年生・・・学びのバトンを引き継ぐ意識をもたせる。 6 年生には、今までの自分の学びをふり返り、今後の展望をもたせる。	ロイロでアンケートフォームを作成
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 発表時の様子 グループの発表の成果物 ふり返りでの主体的な「ジブンゴト」化と「変容」「実践」の様子				
9. 学習方法及び外部との連携 32 時間中、教師の講義は 4 時間。活動・体験・ワークショップは 8 時間。プロジェクト毎の実践・5 年生に伝える会準備は 9 時間。外部の出張授業は 11 時間 【連携した外部の団体・個人】Free the children Japan、UNHCR、本校卒業生の高校 3 年生、クルド難民の方と伴走者、メイド・イン・アース、ETHICAL LIFE STORE ほっこりや、esa アジア教育支援の会				
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 校内研究授業を公開。教研全国集会での発表。日本生活教育連盟の全国大会で発表。研究誌に寄稿。学会で発表 (今後)。立命館大学教職大学院での講義。星槎大学大学院教育研究科修士課程での修士論文「子どもが主体となる ESD 理論の再構築」―「自尊心」との関わりから―執筆。				

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部の方の出張授業のアレンジ（3 学級の日程の調整、謝礼の調整、教材準備）</li> <li>○課題別プロジェクトでの実践を推進する上で、教師の思惑を超えた実践を行いたいと児童が投げかけてきたときに、応えられる柔軟性、受容性、校内への周知</li> <li>○個人変容から社会変容を起こす実践を行うことをめあての1 つだったが、学級や教科を超えての社会変容を起こすことは難しかった。その変容が、児童にとって、また学校にとって、社会にとって、どのような意義があるのかを周知し、理解してもらうことに困難を感じた。</li> <li>○30時間のカリキュラムマネジメントを家庭科だけで行うより、総合的な学習の時間を中心としたクロスカリキュラムで行えるとより効果があるが、教科をまたがったカリキュラムマネジメントまで行えなかった。</li> </ul>
<p>12. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他教科での SDGs での学びとの関連を図る。</li> <li>○個人変容から社会変容で、児童が「学校変容を起こしたい」と考えたときに学校全体・教員全体が認められるような周知をすること。そのためには、ESD への理解もさることながら、探求的な学びへの理解も必要である。最適解を児童が探究する過程の行程を「指導」や「介入」ではなく、見守る・支援するという教員の立ち位置の変化についての土壌も必要である。学び方の転換・教員の役割の転換でもある。</li> </ul>
<p>13. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●夏休みの「SDGs をジブンゴトにしよう」では、インタビューも家族や親戚などの知り合いを超え、企業や役所やレストランやホテルの人やNPOなどにインタビューをしたり、NPOのワークショップに参加し、そこで質問したりと、各自が解決したい課題について相応しい人をリサーチした上、聞くというインタビュー実践が増えた。課題をジブンゴトとしてとらえていた成果と考えられる。</li> <li>●プロジェクトでは、各グループが人間関係ではなく、つきゅうしたい課題で集まっていた。これも児童が課題をジブンゴトとしてとらえた成果である。</li> <li>●プロジェクトと「5年生に伝える会」では、「調べ学習と調べたことの発表」で終わるのではなく、「調べたこと、その課題のジブンゴトとしての解決実践、実践から考察したこと、自分たちの現時点での最適解を5年生に伝える」という学びになった。</li> <li>●実践の具体例を抜粋する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチック削減グループ⇒「米ストロー」を米粒から作り、実際に水を飲んでみる。1週間後にカビ発生。「グミコップ」を作る。形がうまく成形できなかった。⇒「プラスチックは削減する必要があるけど、生活に絶対に必要。でも他のもので代用するのも大変。プラスチックは偉大。だから大切に長く使う意識で考えて買う」と5年生に提案した。</li> <li>・エシカル消費グループ⇒スパイス購入で、バングラデシュの子どもが1ヶ月学校に通えるカレースパイスの調理実習を行いたい、と提案。生肉の代わりにソイミート使用を提案。ソイミート購入もバルクショップ（量り売り店）を提案。6年生3学級のエシカルキーマカレー調理実習が実現。その調理実習で7人のバングラデシュの子供の学費になった。また、家庭や学校内でカレースパイスを購入する人が出て、社会変容につながった。</li> <li>・ものを大切にグループ⇒古本で寄付サイトから古本3箱分送付し、出張</li> </ul> </li> </ul>



	<p>授業をしてくれた Free the children に寄付を行った。「ものを大切にしたい」「ゴミを出したくない」「NPO を応援したい」という3つの願いを実現した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダー平等グループ⇒トランスジェンダーの先生にインタビューをし、その動画を編集して発表。「人間として自分らしく」というキーワードに共感をした子が多かった。</li> <li>● 振り返りでは、『『持続可能な社会に向けて』の学びは終わりますが、中学に進んで、主体的に取り組もうと思いませんか』という問いに、72人中65人が「主体的に取り組みたい」（7人が「主体的に取り組むことは、たぶんない）」と応えた。付度を差し引いたとしても、多くの児童が探究的に仲間と協働的に学び、試行錯誤の実践を経たことで、「ジブンゴト」に変容したと考えられる。</li> <li>● 身近な家族が変容した事例が多く報告された。例) エネルギーの電力会社変更、エシカル消費行動への変化、食品ロスを防ぐ暮らし、ニュースを見ながら家族で会話、使い捨てプラスチック削減 等</li> </ul>
<p>14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）</p>	<p>「社会の問題を早く解決するには、みんなが原始時代のように生活に戻ればよいと思った。でも、現代的な生活に慣れてしまった私たちにはそれは無理で、「持続可能」ではないから、続けられることからやるのが大切だと思った」「自分に出来ることはないと思っていたけど、「消費は投票行動」って言葉通り、毎日の買い物や生活で意識して周りにも少し働きかけることで、世の中は少しでもよくなると思った」「深刻な問題なんだけど、鬼ごっこしたり、貿易ゲームしたり、友達と一緒に悩んで調べて提案してカレーを作ったりと、とっても楽しかった!楽しくないと、持続可能じゃないと思った」「クルドの大学生が素敵だった。メネメンを何回も作っている。いつかクルドに行ってみたいと家族で話している」「調べる前は SDGs なんてどうでもいい、関係ないとか思っていたけど学ぶと私に関係していることばかりでジブンゴトでやっていかなきゃ、と変わった」「自分たちが今普通に楽しく生活できるのは当たり前ではないということ、自分たちの生活が世界にどれだけ影響を及ぼしているのか、一人一人が小さな事でも少しでも何かしたいという気持ちが大きくなりました。一人の少しの努力でもそれがみんなに繋がれば大きな力になる事を学びました」「たくさんのゲストティーチャーさんたちの話を聞いて、大人でがんばっている素敵な人もいるんだなあ、と思った」「プラスチックは全く使わない、とか思ったけど、そんなのは無理で「プラスチックが必要」とか「エアコンは使う」という課題と共生していくには、まず知らなくちゃいけないし考えて実践して失敗して、でもくじけず工夫して、正解じゃなくても、最適解を考え続けることが共生で大切だと思った」</p>

参考資料：主にアクティビティ、出張授業講師依頼先

フードロス鬼ごっこ・・・NPO 法人ハンガーフリーワールドの貸し出し

<https://www.hungerfree.net/whatyoucan/study/onigokko/>

貿易ゲーム・・・イギリスの NGO が世界経済を学ぶために制作した、自由貿易を疑似体験するゲームである。Dear から出版あり。<https://www.dear.or.jp/books/book01/1149/>

エシカルカレースパイス・・・esa アジア教育支援の会から購入 <http://www.esajapan.org>

オーガニックコットン栽培・・・メイド・イン・アースの和綿の種ひろがるプロジェクト《HOME

GROWN》<https://www.facebook.com/groups/wamenproject/permalink/662675938597057>

Free The Children Japan・・・様々な出張授業あり <https://ftcj.org/>

クルド文化教室・・・クルド料理や手仕事の発信 <https://www.facebook.com/kurdkawaguchi>

ETHICAL LIFE STORE ほっこりや・・・量り売りのお店 [https://www.instagram.com/hoccoriya\\_atg/](https://www.instagram.com/hoccoriya_atg/)

## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	橋爪愛乃	学校名	東京都内公立中学校
担当教科等	国語・道徳・総合	対象学年（人数）	1年1組
実践年月日もしくは期間（時数）	2022年11月～12月（6時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：道徳・国語	
2. 単元(活動)名：話題や展開を捉えて話し合おう	
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「SDGs 17の目標について自分たちができる具体的な行動を考えよう。」 単元目標：日本や世界が抱える問題に対して自分たちができる具体的な行動を考えよう 関連する学習指導要領上の目標：話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。 <b>【道徳の内容項目】</b> C主として集団や社会との関わりに関すること（18） 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能 ・意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。[情報（2）ア]
	②思考力、判断力、表現力等 ・「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。[A話す・聞く（1）オ]
	③学びに向かう力、人間性等 ・積極的に互いの発言を結び付けて考えをまとめ、学習の見通しをもってグループ・ディスカッションをしようとしている。
5. 単元設定の理由・単元の意義  (児童/生徒観、教材観、指導観)	<b>【単元設定の理由】</b> 興味のある新聞の記事を比較する宿題から生徒たちが平和（ウクライナ問題など）や環境問題（地球温暖化など）、社会問題（貧困問題、入試における男女差別など）に興味をもっていることが分かった。これらの内容はSDGsの17の目標にも関連している。日本や世界が抱えている問題に向き合い、解決策を考える活動を通して社会の出来事を他人事ではなく、自分に関わる出来事として考えさせたい。 <b>【単元の意義】</b> 様々な問題が起こる現代において、問題を解決するには一人ひとりが課題意識をもって自分のできることを行動することが大切である。具体策を考え、話し合う活動を通して、生徒のSDGsに対する意識を高め、将来、問題に対応し解決できる人材を育成する。 <b>【生徒観】</b>

<p>生徒は小学校時に、SDGsについての授業を受けたことがあり、SDGsマークを知っている生徒が多い。しかし、SDGsの17の目標の具体的な解決策については、普段の生活において意識する機会は少ない。</p> <p>国語に対する興味・関心は高く、自分の考えを積極的に表現しようとしているが、うまく文章にまとまらないときがある。また、大勢の前で自分の考えを発表するのは、苦手な生徒が多い。今回は、小集団で話し合いを行い、SDGsの17の目標の手立てから自分たちができることを考える。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>現代の社会には、貧困・環境・労働など様々な問題がある。生徒たちはそれらの問題を理解しているものの、なかなか自分事として考える機会が乏しい。また、食糧危機などの貧困問題や労働問題などは発展途上国の問題として意識されがちだが、日本を含む先進国においても、「フードロス」や「経済格差」などが問題となっている。夏休みに授業実践者が参加した「教員のためのSDGs研修」の研修先での課題を考えさせ、日本が抱えている問題の現状を伝えるとともに、JICA出前授業や国語の授業における話し合い活動を通して生徒に具体的な解決策を考えさせたい。</p>				
6. 単元計画（全6時間）				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 道徳 ① (11 /14 ～ 11/1 8各 クラ ス実 施)	18 国際理 解、国際 貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsについて知ろう</li> <li>・日本や世界が抱える問題について考えよう</li> <li>・多文化共生の解決策を考えよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsとは何か。</li> <li>・SDGs 17の目標について説明。</li> <li>・「教員のためのSDGs研修」研修先のフォトランゲージを元に日本のどこの風景か？SDGsの何番と関連しているのか（どのような問題を抱えているのか）考える。</li> <li>・生徒が自分だったら何をするか考える。</li> <li>→芝園団地での解決策（自治会への外国人居住者の参加や大学生を交えた地域行事の開催など）を紹介。</li> <li>・多文化共生に向けて自分ができることは何か考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YouTube 国連WFP「SDGsって何だろう？(学生向けバージョン)」(7:35)</li> <li>・ユニセフ『私たちがつくる持続可能な世界～SDGsをナビにして～』</li> <li>・研修写真等</li> </ul>
2 総合 ① (11 /24 実 施)	・JICA出 前授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際協力・世界の国の開発課題について知ろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外協力隊経験者の方に話を聞き、国際協力について知る。</li> <li>・開発課題について知る。（内容は国際協力・開発課題について）</li> </ul> <p>講師：青年海外協力隊OB 石島裕太 氏</p>	JICA 出前授業

			内容：ケニアでの経験を経て思うこと	
3 国語 ①		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「良い話し合い」について考えよう</li> <li>・話し合いの基礎知識を確認しよう</li> <li>・話し合いの練習を行う（ブレインストーミング）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの基礎知識を確認する。</li> <li>・話し合いのルールの確認を確認する。</li> <li>・話し合いの練習を行う。</li> </ul> <p>方法：ブレインストーミング 目標：「クラスをよりよくするためにできること」のアイデアをできるだけ多く挙げて、グループ化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の教科書「光村 国語1」</li> </ul> <p>【使用】ロイロノート</p>
4 国語 ②		<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの練習を行う（ペイオフマトリクス）</li> <li>・自分の意見と、その根拠をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回出た意見を用いて、話し合いの練習を行う。</li> </ul> <p>方法：ペイオフマトリクス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一台端末を使用し、問題の実情や解決策に関連することを調べる。</li> <li>・自分の一日を振り返り何か変えられる行動はないか考える。</li> <li>・それぞれの意見の根拠をまとめる。</li> </ul>	<p>【使用】ロイロノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニセフ資料</li> <li>・JICA資料</li> </ul> <p>【宿題】自分の一日の中で変えられる行動の写真を撮影してこよう。</p>
5 本時 国語 ③ (11/30 実施)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ペイオフマトリクス」を用いて、グループで話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標と役割を確認し、意見を出し合う。(自分が撮ってきた写真を紹介する)</li> <li>・一人一台端末の共有ツールを使い、意見を共有する。</li> <li>・「ペイオフマトリクス」を用いて、意見を効果の大小(より多くのSDGsの目標を達成できる)や簡単にできるかなどの観点で評価し、より良い具体策にするにはどうすれば良いか班の中で意見を出し合う。</li> <li>・班の中で一番有効だと考えられる具体策を3つ決める。</li> </ul>	<p>【使用】ロイロノート</p>
6 国語 ④		<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの結果を報告する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結論とその根拠を伝える。(ワールドカフェ形式)</li> <li>・他の班の意見を聞き、改めて自分の考えをまとめる。(SDGs</li> </ul>	<p>【使用】ロイロノート</p>



	・話し合いや報告を通して考えたことをまとめる。	行動宣言の作成)	
--	-------------------------	----------	--

7. 本時の展開 (3 / 4時間目)

本時のねらい：自分の意見をグループ内で発表し、話し合いをして結論をまとめよう。

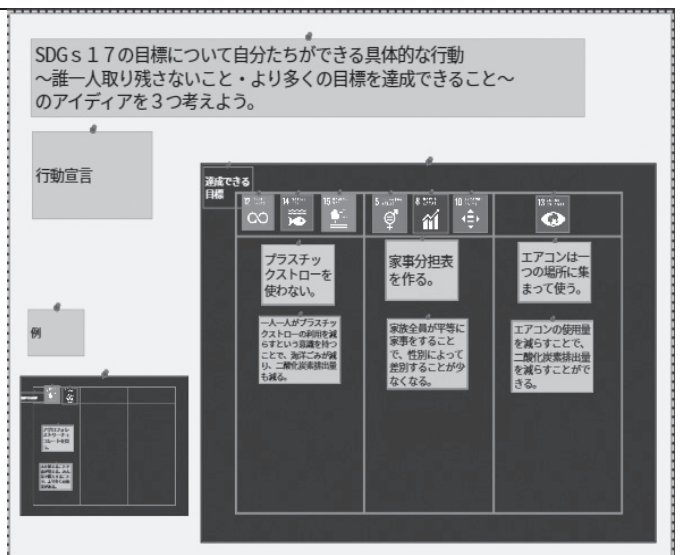
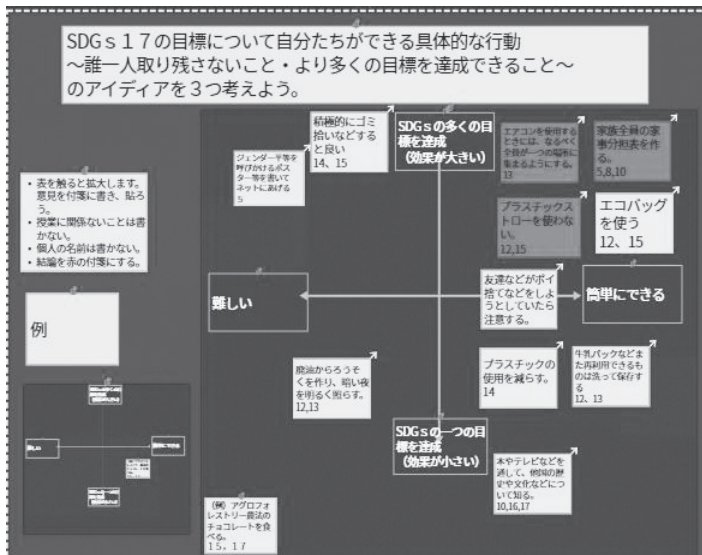
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<b>導入</b> (15分)	・自分が撮ってきた写真を紹介する。	・前時において、教員が写真の例を示しておく。 ・発表時間を区切り、班員全員が発表できるようにする。	・Chromebook
<b>展開</b> (25分)	・一人一台端末の共有ツールを使い、意見を共有する。(7分) 目標・役割の確認(1分)→個人で書き込み(2分)→班で発表(4分) ・アイディアを絞る(6分) ・「ペイオフマトリクス」を用いて、意見を効果の大小(より多くの目標を達成できるか)や簡単にできるか(持続可能なものか)などの観点で評価し、より良い具体策にするにはどうすれば良いか班の中で意見を出し合う。(12分) ・班の中で有効だと考えられる具体策を3つ決める。(基本的にはペイオフマトリクスの右上にあるものを選ぶのが好ましい)	・共有ノートを用いて班員がお互いの意見を共有する。 ・共有ノートを用いて意見の分類やより良い意見を考える。	・ロイロノート
<b>まとめ</b> (10分)	・話し合いの振り返り		

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力、人間性
評価規準	・意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。	・「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。	・積極的に互いの発言を結び付けて考えをまとめ、学習の見通しをもってグループ・ディスカッションをしようとしている。
評価方法	・ワークシート内の生徒一人ひとりの意見	・ワークシート ・発言	・ワークシート ・発言

	・ 観察	・ 観察
9. 学習方法及び外部との連携		
<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末を使用し、意見の書き込みおよび共有を行う。</li> <li>JICA 出前授業を実施し、国際協力や世界の開発課題について考える。</li> </ul>		
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組		
【学校内】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>本授業の実践および発表</li> <li>JICA 横浜への訪問（校外学習）</li> <li>JICA 出前授業の実施</li> </ul>		
【学校外】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>本研修の報告会</li> </ul>		
【自己評価】		
11. 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの手法やテーマの設定の仕方。</li> <li>SDGs を幅広い視点で考えるための知識や情報の与え方。</li> <li>研修で見たこと学んだことをどう指導案に落とし込むか。</li> </ul>	
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペイオフマトリクスを用いて、より効果の大きく（様々な目標を達成でき）、簡単にできる具体策を班での話し合いを通して考えさせた。</li> <li>国連の動画や、ユニセフ・JICAのHPの紹介、またJICA出前授業の実施や本研修での芝園団地の様子の報告など様々な情報を与え幅広い視点でSDGsを捉えるきっかけ作りを行った。</li> </ul>	
13. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒同士が主体的に話し合いをしていた。また、話し合いや発表において、教員が考えていた以上の働き（見やすくするための工夫や伝わりやすくするための工夫など）を行っていた。</li> <li>出前授業や道徳での多文化共生についての学びを通して、SDGs で支援する対象について具体的にイメージしながら、行動を考えることができた。（ケニアの人々や外国人など）</li> </ul>	
14. 学びの軌跡 （児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs を自分の生活と結び付け、どのような行動を取れば目標達成に繋がるか、考えていた生徒が多かった。</li> <li>出前授業でケニアの人々の生活やエコロジカルフットプリントの話をしていただいたため、それに関連する具体的な行動や思いについて考えている生徒が多かった。</li> </ul> <p>（右の文章：生徒の感想より） （次ページの画面：授業で話し合いに用いたペイオフマトリクスと決定した行動宣言の画面）</p>	

私は環境とジェンダーの二つの問題について自分ができることを考えた。今回の授業でSDGsについてより詳しく知る機会ができた。そして、今私たちが抱えている問題はまだまだたくさんあるということを知った。それらの問題を解決するためには、まだ大きな取り組みが必要としても、持来世界を担っていく人々からその問題について考え、自分の意見を持つことが大切なのだと思った。またSDGsの目標の一つでもあるグローバルシップの活性化も大切だと思う。SDGsの目標は一部の国だけのものではなく、世界全体の目標である他国と協力して問題を解決するためには他国についての理解を深めることが必要なのではないだろうか。今回の授業をきっかけとして世界の様々な国の歴史や文化について学び世界が抱える問題について考えていきたいと思う。



<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>今回の研修（7月の事前研修～事後研修）を通して、授業者自身が様々な視点からSDGsについて学ぶことができた。難民問題、多文化共生、外国人生徒のアイデンティティの確立、地方創生、震災教育など普段の勤務では触れることのできなかつた物事と関わり、他の参加者との対話を通して深く考えることができた。</p> <p>その一方で、実地研修で見たもの、学んだことが多すぎてそれらを全て授業に落とし込むのは難しく、苦慮した部分でもある。結局、授業者自身にとって、これからの未来を担う中学生の生徒たちに特に考えてほしい、SDGsの視点と多文化共生に絞って今回は研究授業を行うことにした。結果、普段の自分たちの生活とのつながりを意識しながら、具体的な行動を考えられていたと思う。</p> <p>今回の研究授業では本研修で学んだこと（SDGsや多文化共生）のみならず、今年度に他の研修で学んだICTの活用や発表方法などの実践を行った。授業者自身がまだまだ至らない部分も多かったが、生徒が主体的に物事を考える良いきっかけになったと思われる。今後も新しいことに挑戦する姿勢を失わず、生徒とともに学び続けたいと感じた研修であった。</p>
-----------------------	--

使用した教科書・単元名：光村図書「国語 1」単元名「話題や展開を捉えて話し合おう」

参考資料：・YouTube 国連WFP「SDGsって何だろう？（学生向けバージョン）」

- ・ユニセフ『私たちがつくる持続可能な世界～SDGsをナビにして～』
- ・21世紀国語教育研究10月例会—合意形成に向け、主体的に考えを広げ話し合う指導法の工夫—『話し合い学習プログラム1～6』

※ 過去の研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどをJICA ホームページに掲載しています。是非ご覧ください！

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>

## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	太田 進	学校名	東京都・道・府・県立 広尾高等 学校
担当教科等	外国語（英語）	対象学年（人数）	1年 D組（39名）
実践年月日もしくは期間（時数）	4年 9月 ～5年 3月（12～14時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：外国語（英語）英語コミュニケーションⅠ、論理表現Ⅰ、国際理解教育		
2. 単元(活動)名：What's on earth Intercultural communication?		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「SDGs in English -Sustainable cities&Food loss-」 単元目標：ALTと持続可能な都市(まち)について考える 関連する学習指導要領上の目標：英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	SDGsの視点から日本と世界の現状、異文化コミュニケーションと多文化共生の課題について知り、理解を深めることができる。
	②思考力、判断力、表現力等	SDGsの視点から日本と世界の現状、異文化コミュニケーションと多文化共生の課題について意見交流によって思考を深め、自身の意見を英語で表現することができる。
	③学びに向かう力、人間性等	教材や様々な外部講師とのワークショップや意見交流から、日本と世界の国々の現状、異文化コミュニケーションと多文化共生の課題について意欲的に知識を深めようとしている。
5. 単元設定の理由・単元の意義  (児童/生徒観、教材観、指導観)	<b>【単元設定の理由】</b> 2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」への理解を通じ、日本国内外にわたる開発、環境、教育等の諸問題への関心を深めSDGsの視点でとらえ直し、自分の意見を考えることが今後グローバル化が加速する社会の中で不可欠であるため。 <b>【単元の意義】</b> 英語を学ぶ、また習得を目指す上で外国人とのコミュニケーションは不可欠である。彼らが持つ様々な文化や背景、その充実に向けた現状や課題を理解することに大きな意義があると考え。 <b>【児童/生徒観】</b> 本校は都内の中心地に立地し第一志望で入学してくる生徒が多数を占めることから、学習だけではなく部活動などの特別活動に意欲的な生徒が多い。また海外への渡航経験も豊富な生徒が少なくないことから総じて外国人との異文化交流への関心も高く、英語習得やコミュニケーション能力の向上に意識を高く持つ生徒が多い。 <b>【指導観】</b> 今回のSDGs研修や教師海外研修をはじめとした様々な研修で得た資料や情報、開発教育の手法を効果的に活用しつつ、世界と日本の現状と課題に関して知識と理解を深めさせたい。また、SDGs達成の担い手として、自ら考え意見を表現できる能力を育んでいきたい。	

6. 単元計画 (全13時間)				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	外国人との交流について	周囲の外国人との交流をふり返り、異文化交流について考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みの出来事について Q&amp;A</li> <li>外国人についての Brainstorming</li> <li>異文化交流についてのペアワーク</li> </ul>	Ppt ワークシート
2 ～ 9	異文化交流と偏見について	漫画(サトコとナダ)原作の日本人とムスリムの女性の物語を通じ異文化交流について思考を深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文内容理解 (True or False, Q&amp;A, word scanning など)</li> <li>Sight translation, write your opinion</li> </ul>	教科書(デジタル含む) ワークシート
10	英語コミュニケーションの課題について	日本に長年在住のALTと日本の英語コミュニケーションの課題について考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループディスカッション</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>EPI,PISAの資料、英語コミュニケーション課題例 (ALT 作成)</li> </ul>
11 本時	Sustainable cities	ALTと持続可能な都市(まち)について考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>Brainstorming</li> <li>グループディスカッション</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	c
12	イスラム社会について	オンラインセミナーを通じてイスラム社会について理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワーク</li> <li>グループワーク</li> </ul>	ヨルダン在住の日本人元教員がゲストティーチャー
13	震災と防災	東日本大震災をふり返り、自身と周囲の安全保障について考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォトランゲージ</li> <li>グループディスカッション</li> </ul>	震災時の画像 震災遺構荒浜小についての動画
14		ALTと日本のフードロス/コロナ対策について考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>Brainstorming</li> <li>グループディスカッション</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	フードロスとその事例 (ALT 作成)
7. 本時の展開 ( 11 時間目)				
本時のねらい：日本に長年在住のALTが指摘するとSDGsの日本の課題(持続可能なまちづくり)について考える				
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態		指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Brainstorming (What's SDGs?)</li> <li>海外の様々なSDGsモデル都市の紹介 都市名と特徴の書いたカードを使ってマッチング活動(コペンハーゲン、クリチバなど)</li> </ul>		ALTからのinstructionsの理解度確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>PPt,ワークシート</li> </ul>
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本のモデル都市(横浜、名古屋など)と東京23区内(豊島、板橋など)の紹介</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>PPt,ワークシート</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Tokyo is sustainable? (グループワーク) 東京の利点と改善点を考える</li> <li>・ 各グループ代表に意見を英語で発表してもらう</li> </ul>	<p>進行状況を見ながら必要なグループを支援</p> <p>英語表現の支援</p>	
<p>まとめ (2分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ reflection 本時の学びをふり返る</li> <li>・ 便利さが幸福感と比例しないことを考える</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシート</li> </ul>
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 発表、ワークシート			
9. 学習方法及び外部との連携 ・ペアワークやグループディスカッションなども取り入れ、生徒相互の学びや気づきを促し、思考を深め、学びを促進させる。 ・ 前任校 ALT とのチームティーチングや海外在住元協力隊員との連携など			
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 担当学年内での学期1度の国際理解教育に関するセミナーの開催、学年掲示版でのポスターセッション、classi を活用しての配信など。			

【自己評価】

11. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実践カリキュラムの構築、通常の授業との調整</li> <li>・ 臨時時間割の中での ALT とのスケジュール調整など</li> </ul>
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京という括りから自身が住む自治体に落とし込んで考えを深めていけるようにすること。</li> <li>・ またそれに関する英語の表現力を高めていくこと。</li> </ul>
13. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGs の中でも比較的認知度の高くない No.11 について、東京と世界のモデル都市について比較し、自身が住む都市の利点と改善点について考えを深めることができたこと。</li> </ul>
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語で考えることでより国際的な問題だと考えられた。</li> <li>・ SDGs は考えるだけでなく私たちが行動に移すことが重要だと思った。</li> <li>・ 便利さを追求することは環境を傷つけてしまうことがあると思った。</li> <li>・ SDGS を身近な東京の中で考えたことがなかった、グループ活動で新しい発見があった。</li> <li>・ SDGS を様々な視点から考えることができた。</li> <li>・ 東京は便利であるがそれが環境に良いとは限らない。</li> <li>・ 街中の SDGS を探してみようと思った・SGDs に貢献しようと思った。</li> </ul>
15. 授業者による自由記述	<p>ALT の協力も再度得られ、継続して三学期にも TT で実施予定。SDGs の視点を磨きつつ国内外の様々な課題について考える機会を提供していきたい。また3年間を通じた学習としてカリキュラムを構築していきたい。</p> <p>(協働授業実践者 ALT・Alan Stewart より)</p> <p>Over two days, the 7<sup>th</sup> and 8<sup>th</sup> December, we did a total of seven lessons between five different homeroom classes of about forty students each. The idea was that the classes should be interactive and based on the students' giving their opinions.</p>

The first topic was to think about some problems with English communication in Japan. We put up nine different ideas on the blackboard. These ideas were a combination of opinions gathered from the Internet and our own. The opinions gathered from the Internet were from mostly Japanese adults who had studied English as part of the Japanese education system.

Examples of the ideas introduced included ‘There is too much katakana English’ or ‘People don’t like to give their opinions in Japan’ or ‘English is not needed in Japan’. We explained the ideas and the students were divided into groups of about four people and asked to discuss the ideas in Japanese or English and to pick up ones they agreed or disagreed with. They could also give their own opinions if they wanted to. Within ten minutes we stopped the students and we picked some of the groups and one member introduced the main idea from the groups picked in English.

Opinions differed between each class and it did seem the students were thinking for themselves. It was interesting to get the students’ opinions and the feeling towards English as being an important subject differed a lot.

The second lesson which we did with two homeroom classes was about the 11<sup>th</sup> SDG Goal – Sustainable Cities. The reason we picked this one was because Hiro is at the centre of the biggest city in the world and the students live in different parts of that city. Also being the first SDG topic we introduced it seemed it would be not as controversial as some of the other goals.

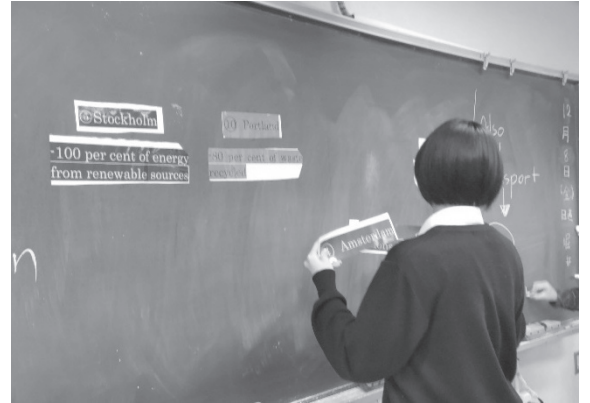
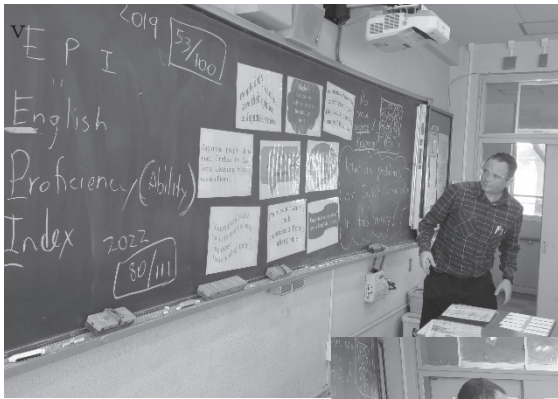
Twelve sustainable cities from around the world were introduced. The lessons were supposed to be interactive, so to involve the students the cities and their good points regarding sustainability were separated and the name of each city and its good point were given to different students in the class and they found the matching city and point through colour coding and put these points on the blackboard. Examples of the cities included Accra in Ghana – 74% of energy comes from hydropower or Portland in the US – all plastic bags are banned.

As with the previous English problems lessons, the students were divided into groups and after having thought about and discussed the question some of them were asked to introduce their answers to the rest of the class. The question was ‘What sustainable things do you notice in Tokyo?’ It was a little difficult for the students to give clear examples so we asked the students what they liked or didn’t like about Tokyo if they couldn’t think of a clear answer.

The main purpose of the lessons over the two days was to introduce some ideas to the students and give them a chance to discuss them and express their ideas in English. The lessons were supposed to be student centered.

The Hiro students were a friendly, well-mannered group of students and we hope they benefited from the classes.





使用した教科書・単元名：New Rays English Communication I Chapter5 Satoko and Nada

参考資料：総合的な学習(探究)の時間のアイデア集 独立行政法人 国際協力機構 東京センター

※ 過去の本研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどを  
JICA ホームページに掲載しています。是非ご覧ください！

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>

## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】 田中由利子

氏名	田中由利子	学校名	東京都 日野市立日野第一小学校
担当教科等	総合的な学習の時間	対象学年（人数）	6年1組（34名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和4年9月～令和5年2月（34時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習の時間	
2. 単元(活動)名：持続可能なひのいちづくり	
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「持続可能な学校・地域づくり」～SDGsをふまえて～ 単元目標：身近にある環境問題や社会問題、人権問題などの社会問題とSDGs「17の目標」とのつながりに触れ、問題を解決するためにできることを協働的に考え、課題解決に必要な情報を集めたりしながら、自分に何ができるか積極的に考え、実践活動に取り組むことができる。	
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能 ①調べ学習を通して、学校・家庭・地域における自分の生活を見つめ直し、持続可能な社会を実現するために必要な課題を設定している。 ②環境問題や人権問題等が自分や家族、社会の人、一人一人の考えや取り組みと深く関わっていることを理解している。
	②思考力、判断力、表現力等 ①収集した情報を必要に応じて取捨選択・整理し、自分たちにできることを考えるために、活用している。 ②伝える目的や相手に応じて、集めた情報や自分の考えを、筋道を立てて明確に表現し、伝えている。
	③学びに向かう力、人間性等 ①自分と社会とのかかわりや自分の生き方に気付き、未来のために自分ができようことを考えようとしている。 ②自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組もうとしている。
5. 単元設定の理由・単元の意義  (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】日野第一小学校の未来を自分事として考える児童の育成を目指す児童像として設定した。</p> <p>【単元の意義】来年の150周年につながるよう、150年続いた歴史を大切にすることで、自分たちが下学年に対して、バトンを渡す気持ちを持ちながら、日野第一小学校の未来を自分事として考える児童を育てることが大切であると考える。</p> <p>【児童/生徒観】最高学年として、日野第一小学校のために何かしたいという気持ちがある児童がある一方で、やらされている感が出ている児童もいる。また、やる気はあるが何をしたらよいか分からない児童もいる中で、自分事として考えることができるように児童の身近にあるものや環境から考えさせ、計画を立てていく。</p> <p>【指導観】自分たちが大人になった時にどのような未来になってほしいか、どうしたら未来につながるができるかと考えることができるように、児童にどんなことをしたいか聞きながら、児童と一緒に計画を立てていく。</p>

6. 単元計画 (全34時間)				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 次 5 時 間	①課題の設定 ②情報の収集 ③整理分析 ④振り返り	○社会問題とSDGsとのつながりを理解している。 ○社会問題を自分事として捉え、設定した課題の価値を見いだしている。 ○SDGsを学ぶ必要性について課題を発見し、解決に向けての見通しをもっている。	①課題の設定 「SDGsについて学ぼう」 ○SDGsを学ぶためのウェブサイト「Edutown SDGs」や子供向けの書籍等、各種コンテンツを活用し、SDGsの基本的知識について学ぶ。(1時間) ②情報の収集 ○社会問題とSDGs「17の目標」とのつながりについて考える。(2時間) ③整理・分析 ○調べてきた情報を共有し、伝え合い情報を整理する。自分のテーマについてどのようなことが関連するのか考え、整理する。(2時間) ④振り返り ○SDGsについての学びを振り返り、これからの生活で自分たちにできる活動について見通しをもつ。(1時間)	・ Edutown SDGs ・ 17の目標のカード ・ ワークシート
2 次 1 0 時 間	①新たな課題の設定 ②情報の収集 ③整理分析 ④振り返り	○日本や他国の取り組みについて、必要な情報を多様な方法で収集している。 ○調べ学習を通して、持続可能な社会を実現するための課題を設定している。 ○収集した情報を取捨選択し、課題を追究するために活用している。 ○収集した情報を関連付け、自分たちにできることを考えるために活用している。 ○自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組もうとしている。	①新たな課題の設定 ○それぞれの問題の背景にある原因について、学んだことを基に情報を共有する。(1時間) ②情報の収集 ○新聞や書籍、インターネットなどから、日本や他国の取り組みや目的について調べる。(3時間) 【他教科との関連】 国語科「みんなで楽しく過ごすために」 ③整理・分析 ○収集した情報を取捨選択し、課題解決に向けた明確な目標・目的をもつ。(1時間) ○話し合いを通して、「自分たちにできること」について考え、追究していく具体的な内容や活動計画を決める。(3時間) ○テーマ別グループ間の交流をし、課題や解決策は、「自分たちの力で実現可能であるか」という視点で意見交換する。<検討	・ Edutown SDGs ・ 17の目標のカード ・ ワークシート

			<p>会①&gt; (1時間)</p> <p>④振り返り</p> <p>○検討した内容を振り返り、問題点の原因や解決方法について話し合う。(1時間)</p>	
3次 19時間	<p>①新たな課題の設定</p> <p>②情報の収集</p> <p>③実行・創造</p> <p>④整理分析</p> <p>⑤振り返り</p>	<p>○イメージマップや計画書を作成する中で、自分たちにできる取り組みと解決方法の見通しをもっている。</p> <p>○環境問題や人権問題が自分や家族、射会の人、一人一人の考えや取り組みと深く関わっていることを理解している。</p> <p>○自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組もうとしている。</p> <p>○自分と社会との関わりや自分の生き方に気付き、未来のために自分ができることを考えようとしている。</p> <p>○環境問題や人権問題が自分や家族、社会の人、一人一人の考えや取り組みと深く関わっていることを理解している。</p> <p>○収集した情報を関連付け、自分たちにできることを考えるために活用している。</p> <p>○SDGsの「17の目標」と自分の生活</p>	<p>①新たな課題の設定</p> <p>「よりよい未来を創るために、『持続可能なひのいちづくり』を計画実行しよう」</p> <p>○イメージマップを作り、テーマや自分たちにできる取り組みについて再確認する。</p> <p>②情報の収集</p> <p>○イメージマップを基に、収集した情報を分類したり根拠付けたりしながら、「ひのいちづくり計画書」を構想する。(1時間)</p> <p>③実行・創造</p> <p>○「今の自分が何をしなければいけないか」「今の自分に何ができるか」。<b>自分事を視点に</b>、「ひのいちづくり計画書」を作る。(4時間)</p> <p><b>本時</b></p> <p>④整理・分析</p> <p>○<b>テーマ別グループ間の交流をし、課題や解決策は「自分たちの力で実現可能であるか」という視点で意見交換する。&lt;検討会②&gt; (1時間)</b></p> <p>③実行創造</p> <p>○1人1人にできる取り組みを身近な生活と関連づけながら体験するための活動の準備に取り組む。(2時間)</p> <p>○体験を通して、よりよい未来を創るための「持続可能なひのいちづくり」を実践する。(4時間)</p> <p>③④まとめ・表現・実行</p> <p>○収集した情報や取り組みに向けた体験活動を具体的な根拠にしながら、ポスターセッション(スライド)の準備をする。(4時間)</p> <p>○ポスターセッション(スライド)を行い、SDGsの必要性について、根拠や理由を基に自分たちの考えを伝える。(2時間)</p>	<p>・ Edutown SDGs</p> <p>・ 17の目標のカード</p> <p>・ ワークシート</p>



	とのつながりやこれからの行動について理解している。	⑤振り返り ○SDGs についての学びを振り返り、これからの生活の中で自分たちにできる行動について、意見交換する。(1時間)  【他教科との関連】 社会科「世界の中の日本」 理科「生物と地球環境」	
7. 本時の展開「第3次」(6時間目) 本時のねらい: 自分と異なる意見や考えを活かしながら、協働的に探究活動に取り組もうとしている。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
<b>導入</b> (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時を振り返りながら、本時の課題を確認する。</li> <li>前時の振り返りを数人分紹介する。</li> <li>本時の授業の流れを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返りの中から本時の課題につながる内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>ひのいちづくり計画書</li> </ul>
<b>展開</b> (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ別グループに分かれ、意見の交流をする。「自分たちの力で実現可能であるか」「持続可能なものか」という視点で意見交換する。</li> <li>1グループだけでなく、他のグループとも交流し、意見交換する。</li> <li>自分のグループに戻り、どのような意見が出たか意見交換をする。</li> <li>実現をするためにどのようなことが必要か、良かった点や改善点をまとめ、振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの人数が多い場合は、少人数に設定し、一人一人が意見を出せるように設定する。</li> <li>様々な意見と交換することで、協働的に活動ができるようにする。</li> <li>本時の話し合いについて自分の思いを書くように伝える。</li> </ul>	
<b>まとめ</b> (10分)			
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 活動の様子・ワークシート			
9. 学習方法及び外部との連携 フィールドワークやクロムブックを使った協働学習。児童から意見が出た場合は、外部との連携を行う。(日野用水を綺麗にするために、日野の環境課に連絡するなど)			
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 1月に行われる校内研究にもつながる取り組みのため、自分事として考える児童が一人でも増えるよう高学年ブロックの先生方に助言をいただきながら、授業を実践していく。			



【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修での学びをどのように授業と結び付けるか。</li> <li>・自分事として捉えさせるためにどのような授業づくりをしたらよいか。</li> <li>・一度のみの実行だけでなく、持続可能にするためにどのようにしたらよいか。</li> <li>・児童が主体的に課題を設定し、情報の収集や実行・創造、整理・分析をするためにどのように声をかけたり、計画を立てたりしたらよいか。</li> </ul>
<p>12. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「SDGs」という言葉を大々的に掲げてしまった点。研修を受けてから SDGs はツールとして使うのがよいと学んだ。6年生ということもあり、自分たちの学びが SDGs につながっていることや、日常生活にも SDG が関わっていることに気付かせることができなかったこと。</li> <li>・児童が「あれしたい!」「これしたい!」という思いをもち、計画を立てられることができなかった。教師が敷いたレールに乗り、やらされている感が出てしまったこと。</li> </ul>
<p>13. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校周辺をフィールドワークしたことで地域の良い点や改善点などを目で見つめ、まとめることができた。</li> <li>・実践するにあたり、「自分たちの力で実現可能であるか」、「持続可能であるか」の2つの視点をもちながら、計画書づくりを行った。そのため、児童の意見から「これは1回で終わっちゃう取り組みだよな。」や「これってできたらすごいけど、もっと身近なものから考えたほうがいいんじゃない。」などの意見が出た。自分たちの日常生活から課題を見つけ、取り組むことができた。</li> <li>・SDGs を事前に学習していたことで、ゴミを少なくするために「チラシを作ろう」という意見が出た際に、「もらった紙を捨ててしまう人もいるし、捨てられたらまたゴミになってしまう可能性があるよ。もったいないよ。」という意見が出た。SDGs と関連付けながら考えさせることができた。</li> <li>・地域住民の方が日野市をよりよくするためにに行っている取り組みを実際に教室に来て話してもらった時間を設けたことで、児童がより一層イメージを膨らませることができた。</li> </ul>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>私は、地域や学校でのポイ捨てや環境の手入れの足りなさ、落書きなどが問題だなと感じました。(問題点、課題を書く。)</p> <p>そのためには、自分たちがまず問題点のような行動をやめたり、環境に配慮するポスターなどを作ることが必要だと思います。(改善するために必要なことを書く。)</p> <p>↑課題の設定</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>11月29日(火) ①今日の活動はどのようなことをやったか、 ②今日の活動を通しての感想、次こうしたいなど。(提出ボックス3に提出)</p> <p>①計画書を完成させました。 落書きは、やることが大変や難しいとかが、理由で落書きは時間が空いたらにして、ゴミ拾いを優先にします。 ②もっとゴミ拾いのことについてみんなで話して未来につながるようにしたいです。</p> <p>↑計画書づくりを通して</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>ポロポロでツタなどが絡みついている家があること 水を観察できる場所に水が溜まったこと(増水して) 「タバコを吸わないでください」と書かれてあるのにタバコ のゴミがあること 植物に溢れすぎてトンネルの中の上までにも植物が溢れていること 柵や階段などに傘や瓶のゴミがあるところ 壊れていて触ったら怪我をしそうな看板があること 根っこが大きすぎて道が崩れている場所があるところ</p> <p>←フィールドワークを通して気付いたこと</p> </div>

	<p>↓フィールドワークを通して気付いたこと</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>今回初めて参加させていただいたが、様々な視点から見ることで学びが深まったと感じる。SDGs 1つとってもたくさんの学び方があり、知識の得かたがあった。クルドの方から実際に話を伺ったり、東日本大震災で被災された地に実際に足を運んだりしたことで、共生文化や防災教育について考えを深めることもできた。</p> <p>実際に話を聞いてみて分かったこと、足を運んでみて気付いたこと、様々なことを学ばせていただいた研修であった。「学び続ける教師」を大切に、今後もこの学びを活かしながら教育活動に取り組んでいきたい。</p>

参考資料：教員のための SDGs 研修「JICA 東京」

未来の授業・私たちの SDGs 探究 BOOK「宣伝会議」

総合的な学習（探究）の時間のアイデア集「JICA 東京」

## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	八木 ゆかり	学校名	新潟 都・道・府・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">県</span> 糸魚川市立能生中学校
担当教科等	国語科	対象学年（人数）	1 学年（5 9 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2022年11月（6時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：国語科		
2. 単元(活動)名：価値を見いだす「『不便』の価値を見つめ直す」川上浩司		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「発想を転換し、身近なものの新しい側面に光を当てる」 単元目標：一般的な考えを別の視点で捉え直し、新たな価値を生み出す。 関連する学習指導要領上の目標：第1学年目標（2）筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見と根拠の関係に着目して、必要な情報を取り出し、整理している。(2)ア</li> <li>・情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ</li> </ul>
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報に着目して筆者の主張を要約し、内容を解釈している。C(1)ウ</li> <li>・文章から理解したことに基づき、自分の考えを確かなものに行っている。C(1)オ</li> <li>・根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。B(1)ウ</li> </ul>
	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に必要な情報に着目し文章の内容を理解したり、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしていたりしている。</li> </ul>
5. 単元設定の理由・単元の意義  (児童／生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>生徒はこれまで説明文を読む学習において、段落の役割（問い、答え、具体例、まとめ等）と段落どうしの関係に着目して、文章の構成（序論・本論・結論）を捉える学習を行った。2 学期は、意見と根拠を読み分け、これらの関係を踏まえながら筆者の考えを読み取る力の育成を目指している。また、説得力を高めるために根拠を明確にして自分の意見を書く力も身につけさせたい。そこで今回は、具体的な事例を根拠として示す筆者の論の進め方に学び、根拠となる事例が自分の意見を支えるものなのかを適切に判断し、説得力のある文章にまとめる力が身につくことを期待する。</p> <p><b>【単元の意義】</b></p> <p>筆者は固定観念に疑問をもち、視点を変えてみることで、新たな価値を見出せる可能性について論じており、多角的・多面的な視点を養うのに適した単元であるといえる。「不便益（不便の価値）」という筆者の考え方を指標とし、一般的な考えを別の視点で捉え直し、価値基準を明確にしなが評価したり判断したりすることで新たな価値を生み出そうとする力を育成する単元としたい。</p> <p><b>【児童／生徒観】</b></p> <p>本校がある新潟県糸魚川市は人口減少が著しく、少子高齢化が顕著である。さらに、高校卒業後には約半数が市外に転出してしまうという若者の流出も課題である。こう</p>	

<p>した地域に住む子どもたちだからこそ、地域の課題に目を向け、主体的に課題解決に向かう態度を身に付けてほしいと考えている。そこで、一見課題だと思えることも、視点を変えてみると、必ずしもそうではないという気づきを学びにつなげていきたい。また、書くことに苦手意識をもっている生徒が多く、筆者の論の進め方に学ぶことで、説得力のあるわかりやすい文章を書く力が身につくことも期待する。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>本単元では、国語科で育成を目指す資質・能力を踏まえ、次の3つの学習過程に重点を置いた。まずは、課題について自分で考える時間を設ける。これにより、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。次に、グループで意見交流する時間を設ける。自分の考えを深めるために、様々な視点から考えを再構築する学習過程が必要であり、そのためのグループ学習である。最後に、再構築した自分の考えを他者に伝える。学習の定着を図るために必要なアウトプットを、本単元では「書くこと」で行う。</p>				
6. 単元計画（全6時間）				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
	講演「持続可能な社会のために」	地元企業の取組を知り、多様な価値観に触れる。	・株式会社アオの取組に関する講演を聞き、持続可能な社会のために必要なことについて考える。	・株式会社アオ ・いといがわコットンプロジェクト
1	「不利益」の定義	文章の内容を捉え、「不利益」の定義を確かめる。	・日常生活で「不便」だと感じる物事を想起させ、『「不便は悪いこと』という価値観』が一般的であることを確認する。 ・本文を通読し、段落番号を振る。 ・「不利益」の定義が書かれている部分に線を引き、内容を簡潔に付箋紙にまとめる。「不便」の定義についても同じく行う。	・国語教科書 ・付箋紙 ・Google Forms
2	文章構成の確認	段落を序論・本論・結論に分け、各まとまりの中心となる文に着目する。	・文章全体をグループで通読し、各段落の中心となる文を選び、線を引く。 ・序論・本論・結論に分ける。 ・グループで意見交流し、序論と結論で必要となる情報を絞り込み、内容を簡潔に付箋紙にまとめる。	・国語教科書 ・付箋紙 ・Google Forms
3	「不利益」の事例	「不便のよい面」と「便利の悪い面」について考え、筆者の主張を読み取る。	・本論から「不利益」の具体例を3つ確認し、内容を簡潔に付箋紙にまとめる。 ・説明する型（○は△だが、□ことがよい。）を示し、具体例の1つを説明する文を書く。 ・本文中から「便利の悪い面」の事例を探し、説明する文を書く。書いたものをもとにグループで説明し合う。	・国語教科書 ・付箋紙 ・Google Forms
4	筆者の考えを要約する	この文章を読んだことのない人に説明するつもりで、筆者の考えを要約する。	・付箋紙の内容を結び付けて、200字程度で要約する。 ・筆者の主張に賛成・反対どちらの立場か、自分の考えを付箋紙に書く。	・国語教科書 ・ワークシート ・付箋紙 ・Google Forms
5 本時	発想を転換し、身近なものの新しい側面に光を当てる	身近な物事を「便利」と「不便」の両側面から捉え、見落としていた価値に気づく。	・棚田を例に物事には「よい面」と「悪い面」があることを確認する。 ・「持続可能な社会に必要なものは何か？」という問いについてジグソー法を用いて考える。【エキスパート活動】	・国語教科書 ・ワークシート ・付箋紙 ・Google Forms ・沢尻の棚田、能生の棚田
6	自分の意見をまとめる	立場や根拠を明確にして、筆者の主張に対する	・「持続可能な社会に必要なものは何か？」という問いについてジグソー法	・いといがわコットンプロジェクト ・マリプロジェクト



	自分の意見をまとめる。	を用いて考える。【ジグソー活動】 <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を振り返り、筆者の主張に対する自分の意見を確認する。</li> <li>自分の意見を次の条件で文章にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 賛成か反対か、立場を明確にする。</li> <li>(2) 筆者の文章の何に対する意見であるかを、要約や引用で明確に示す。要約や引用と自分の意見は分けて書く。</li> <li>(3) 自分の考えの根拠となる事例を挙げる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>糸魚川ジオパーク</li> <li>マリンドリーム能生</li> </ul>
--	-------------	---	---

## 7. 本時の展開（5時間目）

本時のねらい：

身近な物事を「便利」と「不便」の両側面から捉え、見落としていた価値に気づく。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
<b>導入</b> (5分)	・前時の振り返り	・文章の要約を読み返し、筆者の主張を再確認させる。	
<b>展開</b> (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の棚田を例に、物事には複数の価値があることを想起させ、「よい面」と「悪い面」の両方があることを確認する。</li> <li>「持続可能な社会に必要なものは何か？」という問いについてジグソー法を用いて考える。</li> <li>① 次の3つについて、持続可能な社会に必要なか否か自分の考えをノートに書く。(5分) <ul style="list-style-type: none"> <li>A: ファストファッション</li> <li>B: プラスチック製品</li> <li>C: 観光化</li> </ul> </li> <li>② 3つのエキスパートグループに分かれ、資料を読み、「よい面」と「悪い面」を付箋に書き出す。(25分) <ul style="list-style-type: none"> <li>各自、初めの考えとは別の視点で捉え直した結果、気づいた新たな価値を説明する文を説明する型(○は△だが、□ことがよい。)を用いて書く。(5分)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「便利・安価・活気がある＝よい面」「不便・高価・活気がない＝悪い面」という一般的な価値観からまずは捉えさせる。</li> <li>一般的な価値観とは別の見方で捉え直させる。</li> <li>消費者から生産者など、立場を変えて捉え直させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>棚田</li> <li>いといがわコットンプロジェクト</li> <li>マリプロジェクト</li> <li>糸魚川ジオパーク</li> <li>マリンドリーム能生</li> <li>ワークシート</li> <li>付箋紙</li> <li>Google Forms</li> </ul>
<b>まとめ</b> (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習内容を踏まえ、「持続可能な社会に必要なものは何か？」という問いについて、自分の考えを付箋紙に書く。</li> <li>Google Forms に本時の振り返りを入力する。</li> </ul>	・筆者が指摘している固定観念にとらわれることで新たな価値を見落とす危険性を想起させる。	

## 8. 評価規準に基づく本時の評価方法

①知識及び技能	授業中の観察、ワークシート、ノート
②思考力、判断力、表現力等	授業中の観察、ワークシート、ノート
③学びに向かう力、人間性等	授業中の観察、振り返り

## 9. 学習方法及び外部との連携

### 教科横断的な学習の実践

既習事項や体験と本単元を結び付けることでより深い学びを引き出し、多角的・多面的な視点の育成につながる考えた。

### 【関連付けた教科と題材】

総合的な学習(ジオエリア学習<sup>\*1</sup>/職場訪問<sup>\*2</sup>/いといがわコットンプロジェクト<sup>\*3</sup>) 道徳(自然



愛護) 技術・家庭科 (衣服の活用と選び方/材料の性質)

※1 糸魚川ジオパークの「神道山エリア」を散策し、能生川の水循環や防災について学ぶ活動。

※2 道の駅「マリンドリーム能生」で働く人にインタビューし、働くことについて学ぶ活動。

※3 糸魚川でサステイナブルファッションに取り組むブランド「ao」(株式会社アオ)が行う糸魚川に生まれた赤ちゃんにベビー肌着をプレゼントする活動。オーガニックコットンの栽培で協力。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・ JICA エッセイコンテストへの応募
- ・ 図書室内に SDGs コーナーを設置

### 【自己評価】

11. 苦勞した点

#### ・ジグソー法の時間配分

エキスパート活動とジグソー活動の両方を1時間(50分)の授業で行うのは難しいと考え、2時間に分けた。そこで、2つの活動のつながりを取り戻すためにジグソー活動の導入で前時のエキスパート活動の振り返りを丁寧に設けた。その結果、情報収集するエキスパート活動に多くの時間を費やしてしまい、考えを共有するジグソー活動に十分な時間を割くことができず、担当した学習内容以外への生徒の関心が薄かった。

#### ・エキスパート活動で配布する資料の工夫

限られた時間でより理解を深める情報収集につながるだけでなく、多角的・多面的な視点を養うという単元の性質上、生徒から多様な考えを引き出すきっかけとなる資料が必要であり、その提示に苦勞した。

12. 改善点

#### ・学習内容の焦点化

「持続可能な社会に必要なものは何か?」という学習課題に対して、1回目の実践では次の3つの学習内容を提示した。

A: ファストファッション B: プラスチック製品 C: 観光化

しかし、具体的にイメージできずに悩んでいる生徒の様子が見られたので、2回目の実践では次のように提示した。

A: 選ぶなら コットン製品 or ポリエステル(化学繊維)製品

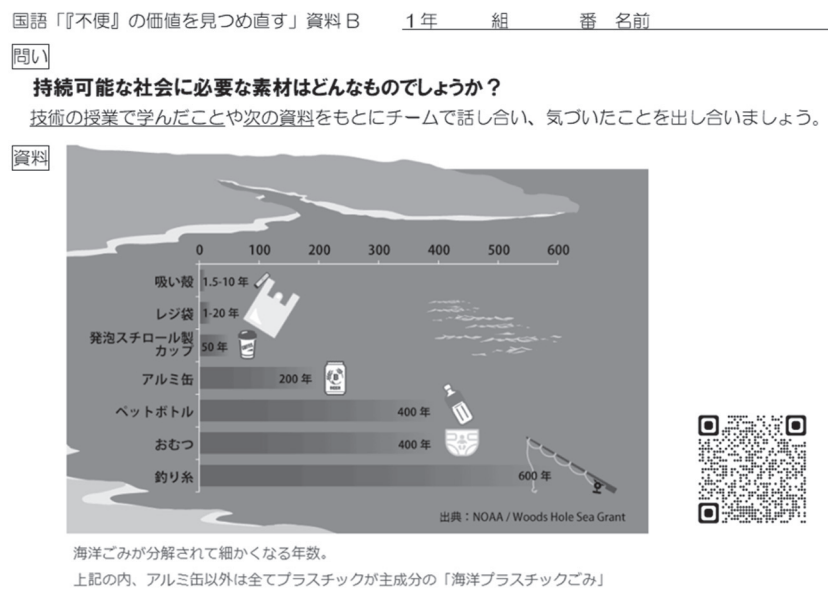
B: 使うなら エコバック or レジ袋

C: 住むなら 観光地 or 住宅地

焦点化し、具体的な選択肢を示したことで、生徒は自分の考えを明確に持つことができるようになった。初めに自分の考えを明確にすることで、エキスパート活動やジグソー活動を通して、生徒は他者との考えの違いや、自分の考えの変容に気づくことができた。

#### ・配布資料の見直し

1回目の実践では、生徒から多様な考えを引き出すことを重視し、エキスパート活動で配布する資料を関連する複数のグラフにした。(資料1)



(資料1)1回目の実践でプラスチック製品について考えるグループで使用した資料の一部

しかし、生徒の中にグラフから「よい面」「悪い面」を読み取ることに苦戦している様子が見られた。また、グラフの読み取りの手がかりとしてQRコードを添えたことでインターネットでの情報収集に集中してしまい、グループ内の対話が少ないようにも感じた。

そこで、2回目の実践では「よい面」「悪い面」の両方が分かりやすく読み取れる資料を提示した。**(資料2)** インターネットでの情報収集が不要になったことでグループ内での対話が生まれ、生徒が他者や自分の考えを客観的に捉えることにつながった。

国語「『不便』の価値を見つめ直す」資料B 1年 組 番 名前

**資料**

レジ袋の有料化もあり、多くの人が環境のことを考えてエコバッグを利用するようになりました。エコバッグはデザインも様々で、素敵なものを見つけるとつい買いたくなります。また、商品やお店のキャンペーンでもらうこともあります。だから、エコバッグをたくさん持っている人も多いことでしょう。

「ライフサイクルアセスメント(LCA)」という手法があります。LCAとは、材料の調達から製造、流通、廃棄までの全過程(ライフサイクル)における環境負荷を総合して評価する手法です。

これによると、1枚当たりの環境負荷が最も少ないのはレジ袋です。さらに、そのレジ袋を1回再利用すると新しく1枚レジ袋を作る時の環境負荷をカバーできます。一般的に使われているポリエステルのエコバッグは35回使って、ようやく環境負荷をレジ袋よりおさえられます。オーガニックコットンバッグの場合は、20,000回利用しなければ環境に良いとは言えないというデンマークの研究結果もあります。

**(資料2)見直し後、2回目の実践で使用した資料**

13. 成果が出た点

- ・本単元の資料を既習事項や体験と結びつけながら読み取ろうとする姿や、インターネットで積極的に情報収集する姿など、主体的な学びの姿が多くみられた。
- ・様々な立場や状況を想定して考えることで、一般的な価値観とは異なる価値を見出し、考えが変化する生徒もいた。
- ・1回目の実践を受けて、資料の見直しや視点の焦点化といった改善を行った2回目の実践では、より活発に意見交換する生徒の様子が見られた。

14. 学びの軌跡

(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

**・エキスパート活動の様子(実践1回目)**



タブレットで情報収集を積極的に行う様子が見られた。集めた情報を「よい面」「悪い面」の両側面から考え、意見を付箋に書き出した。視点を変えるためのヒントとしてSDGsカードを使用している生徒も見られた。一方で、情報収集に集中してしまい、グループ内での対話が少ないようにも感じられた。

**・単元後のスピーチ発表**

単元後には、本単元の最後にまとめた自分の意見を発表するというスピーチを行った。このスピーチは各学期に行っているスピーチテストとして位置づけた。スピーチのテーマは「持続可能な社会のために必要なのは何か?」とし、本単元の学習過程で得た「新たな視点」「新たな価値」を必ず加えるものとした。

筆者の「これまでの常識とは異なる別の視点をもつことで、世界をもっと多様に見ることができるようになるはずだ」という記述を根拠に、多くの生徒が「持続可能な社会のために必要なもの」として「多様な視点」を挙げていた。また、「経済と環境のバランス」「便利と不便の両立」「生活を工夫してバランスよく活用」など、「バランス」「両立」といったキーワードも目立った。

	<p style="text-align: center;"><b>(資料3)生徒のスピーチ原稿の一部</b></p> <p>僕が目にした不利益は、コットンについてです。コットンにはオーガニックコットンと通常のコットンがあります。農薬を使わないオーガニックコットンは育ちにくいという点では不便ですが、環境によく、安心して収穫できるという点では、便利です。一方、農薬を使用する通常のコットンはしっかり育つという点では便利ですが、農薬を使うため環境にも悪く、収穫時に最悪の場合命を落とす人も数多くいます。</p> <p>不便だからこそ得られるよさがあることを認識し、それを活かして新しいデザインを作り出すのが「不利益」の考えです。このことを活かして世界をもっと多様に見て欲しいです。</p> <p>私は、プラスチック製品は環境に悪いため、買い物の際にはレジ袋ではなく、エコバッグを使用するように心がけていましたが、エコバッグはレジ袋よりも1枚当たりの環境負荷が大きく、ポリエステルのエコバッグの場合は35回以上、オーガニックコットンの場合は2万回以上も使用しないと環境負荷をレジ袋よりも抑えることができないと知り、レジ袋を使用する方が環境に良いことがわかりました。</p> <p>さらに、1つのレジ袋を再利用することで、より環境負荷削減に繋がると思い、エコバッグとレジ袋に対する考え方が変わりました。</p> <p>このことから、便利を追求し続けるよりも、少し立ち止まって不便にもメリットがないのか考えてみると、意外にも不便の方が良いかもしれないと考えが変わるかもしれません。そうする事で、自分にも環境にも良いことが増え、持続可能な社会に繋がっていくと考えます。</p> <p>外国の人が日本に旅行に来た時の満足度のアンケートをとったところ、90%ほどは、「満足」または「大満足」という意見ですが、10%ほどの人は「良くない」という意見です。わずか10%とはいえ、何か不便な面や問題のある面があるのだと思います。そこを改善せずに、答えてくれた10%の人たちが、日本に良い印象を持ってくれるでしょうか。不便な面に日本をよりよくするヒントがあると思います。</p> <p>持続可能な社会を作っていくためには、「不便は悪いこと」「便利はいいこと」という固定観念にとらわれ便利な方ばかりに注目せず、不便にも目を向けて生活していくことが大切だと思います。</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>「自ら考え、伝え合い、向上する生徒の育成」という本校の研究主題の観点から対話を重視し、本單元にはジグソー法を用いた。言葉で伝えようと努力する姿がみられた一方で、言葉ではなくワークシートの写し合いに頼る姿もあった。思考を深めるためにも対話は重要であり、文字ではなく言葉で伝え合う「対話力」の強化が今後の課題だと感じた。</p> <p>また、「持続可能な社会の担い手」となる子どもたちには「地域の課題に目を向け主体的に課題解決に向かう態度」を身に付けてほしいと願っている。課題に気づき、自ら解決に向けて行動を起こそうとする子どもたちが次に必要となるのは「他者と協働する力」である。そして、子どもの協働性を育むには、やはり「対話力」の強化が不可欠である。</p> <p>多角的・多面的な視点の育成を目指した今回の授業実践で、「対話力」の重要性に改めて気づき、「対話力」の強化が今後の課題であると感じた。この気づきをこれからの実践に活かしていきたい。</p>

使用した教科書・単元名：

川上浩司『『不便』の価値を見つめ直す』、『国語1』光村図書

参考資料：

- ・WWF ジャパン <https://www.wwf.or.jp/>
- ・令和2年度糸魚川市観光統計

※ 過去の本研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどをJICA ホームページに掲載しています。是非ご覧ください！

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>

## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	下井 慈	学校名	長野県 根羽村立義務教育学校根羽学園
担当教科等	国語科	対象学年（人数）	中学2年（3名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和4年10月19日（水）第3校時 10：40～11：30 単元展開の第4時を公開		

### 【実践概要】

1. 実践する教科：国語科 領域（内容のまとまり）：思考力・判断力・表現力（B 書くこと）		
2. 単元(活動)名：SDGs 未来都市根羽村をどのように実現するべきか ～プレゼンテーションの説明文を書く～		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：論理的に考える力 や共感したり想像したりする力を養い，社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする 単元の目標 (1) 知識及び技能 ア 言葉には，相手の 行動を促す働きがあることに気付くことができる。 エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに，類義語と対義語，同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 (2) 思考力・判断力・表現力 書くこと Bーウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり，表現の効果を考えて描写したりするなど，自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる		
4. 単元の 評価規準	①知識及び技能	両極端な意見の言葉ではなく、歩み寄るための言葉に相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。 「共存」と「共生」という2つの類義語の違いを明確に理解し、適切に使うことができる。
	②思考力、判断力、表現力等	「共存」と「共生」の違いについて具体的な例を挙げて説明する文章を書くことができる。
	③主体的に学習に向かう態度	「共存」と「共生」の意味用法の違いを理解し、進んで説明する文章を書くようとしている。対義語・類義語・多義語について学習した生徒達が、「共存」と「共生」の違いを説明する文章を書く場面で、森林と人間が共に関わり合っている事を取り入れながら、より適切な方を選択して具体的な例を挙げながら説明しようとする。



<p>5. 単元設定の理由・単元の意義</p> <p>(児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>新しい言葉を知っても、辞書的な意味の理解で留まっている生徒に、「共存」と「共生」という2つの類義語の使われ方の違いを、社会の出来事と結びつけて具体的に考えることにより、言葉の意味を明確に理解し、適切に使えるようになると考え、本単元を設定した。</p> <p><b>【単元の意義】</b></p> <p>SDGs 未来都市に認定され、持続可能な村づくりを始めた根羽村において、自然との共生、多文化異文化圏の人々との共生、世代間のある人々との共生について深く考え、自分事として捉えて行動していく力は、根羽村に育つ子どもたちが身につけていくべき重要な力である。</p> <p><b>【児童／生徒観】</b></p> <p>自然豊かな村で育つ生徒にとって、多くの山々、美しい水が流れる川があることが誇らしく、この環境を守っていききたいという思いを、当たり前のように持っている。逆に言えば「自然と共生する」「生き物と共存する」ということの難しさや世界的・今日的課題には気づきにくい。また、自然や環境を守る事が、「村のため」という狭い視野に留まりがちである。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>上記のような生徒に対して、SDGs 未来として根羽村が取り組んでいこうとしていることを理解したり、自然と人間が「共存」「共生」していくために、日本や世界で取り組まれていること調べたりする中で、より広い視野から「共存」や「共生」について捉え、適切に使えるようになってほしい。</p>
---	--

6. 単元計画 (全 7 時間)				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	SDGs 未来都市って何?	単元の目標を明確にできる。	①根羽村がSDGs 未来都市に選ばれた新聞記事を読み、感想を伝え合う。 ②根羽村が作成した提案書を読み、根羽村が未来のために森林を守ることと脱酸素社会を実現しようとしていることを知る。 ③根羽村の一員として、自分には何ができるか考え、プレゼンテーションをするという学習活動のゴールを伝える。	新聞記事 根羽村の提案書
2	森林と人間の関係は、「共存」か「共生」なのか。	森林が失われていく理由やそれによる影響を、説明文から読み取り、森林が文明を守る生命線だと理解できる。	①説明文「モアイは語るー地球の未来」を読む。	説明文「モアイは語るー地球の未来」
3			②森林はどのように失われていったか読み取る。 ③森林が失われたことで人々にどのような影響があったか読み取る。 ④森林と人間は「共存」するとあらわすべきか、「共生」すると表すべきか、根拠をもって説明する。	

4	森林を守る事と脱炭素社会の実現は両立できるか。	根羽村が目指している森林を守ることと、脱炭素社会の実現は、両立できるかどうかという問に対して自分の考えを持ち、立場を明らかにして説明することができる。	①丸森町の人々が太陽光発電所建設に対して賛成反対に分かれている現状を知る。 ②賛成・反対それぞれの立場の考え方について調べたり、想像したりする。 ③根羽村が脱炭素社会を実現するためにメガソーラーシステムを建設したら、賛成か反対か討論する。	丸森町の太陽光発電所建設に対しての看板の写真  メガソーラーシステムの航空写真
5	SDGs 未来都市根羽村を目指して私たちが取り組むこと	森林と人間が「共存」あるいは「共生」する未来の根羽村のために、太陽光発電に反対している人たちに対してどのように説明すればいいか考える。	①根羽村が目指す脱炭素社会を実現させるために、太陽光発電施設建設に反対している人々に対して、どのような説明が必要か、理解してもらうための説明を考える。 ②お互いの発表を聞いて、内容の良さや話し方の良さを見つける。	iPad
6 7	プレゼンテーション	SDGs 未来都市根羽村にある根羽学園生徒会として、SDGs に関わる新たな取り組みを考え提案する。	①今までの学習を活かして、根羽学園生徒会としてSDGs に関わる新たな取り組みを考える。 ②自分が考えた取り組みの良さをしってもらうためにプレゼンテーションをする。	iPad

7 本時案				
段階	学習活動	予想される生徒の姿	指導・評価	時間
	学習問題 脱炭素社会どのように実現させたら良いだろう。			
導入	1 宮城県丸森町が抱えている問題を把握する。 ①丸森町について簡単な説明を聞く。  ②太陽光発電施設建設に関わっての看板をみる。 ・賛成の看板 ・反対の看板	・根羽村と同じように森林に囲まれた自然豊かなところだな。 ・人口が減少しても持続可能な地域作りをしているところも似ているな。 ・やっぱり脱炭素社会を実現するために丸森町も太陽光発電施設を作ろうとしているんだ。 ・住民のみんなが賛成しているわけではないんだな。 ・どうして反対するのだろうか。 ・意見が2つに分かれていたら、脱炭素社会が実現できないな。	・8月の研修で訪れた丸森町で、太陽光発電施設の建設を巡って住民の意見が分かれていることを説明する。  「2つの看板を見て、どう思いますか。」	5分

学習課題

根羽村が目指す脱炭素社会を実現させるために、太陽光発電施設建設に反対している人々に対して、どのような説明が必要か、理解してもらうための説明を考えよう。

<p>2 もしも、自分が村長（役場の職員）だったら、反対住民にどのように説明し、理解してもらうか、5分間程度の説明を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反対している人の理由を、整理しておくのが大事だな。</li> <li>・反対している人の不安を取り除くにはどんなことが必要かな。</li> <li>・太陽光発電の良さを伝えたいと思う。</li> <li>・話の仕方も、反対している人の意見も理解できるという言い方にした方がいいな。</li> </ul> <p>ペア①渚月と悠晟は、渚月が主導しながらも、悠晟の考えを取り入れながら説明を考えるだろう。反対住民の理由に対する反論を考えて説明するだろう。</p> <p>ペア②積志と親子留学生は初対面だか、積志が積極的に声を掛けて学習を進めるだろう。キーノートを使い画像を効果的に使いながら説明することを考えるだろう。太陽光発電の良さを強調する説明をするだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えを整理するための学習カードを配布する。</li> <li>・二人一組で考えるように指示する。</li> </ul> <p>ペア</p> <p>①渚月・悠晟 ②積志・親子留学生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キーノート等で視覚的なものを使って説明しても良いことを伝える。</li> <li>・説明する内容のメモや原稿を書かせる。</li> </ul>	<p>20分</p>
<p>3 それぞれのペアで考えた反対住民への説明を発表する。</p>	<p>自分たちが考えた説明を堂々と発表するだろう。</p> <p>お互いの説明の良さに気づきながら聞くことができるだろう。</p>	<p>①②お互いの説明の内容や説明の仕方良かったところを認め合わせる。</p> <p>生徒が発見した説明の良さ板書に整理する。</p>	<p>15分</p>
<p>4 学習の振り返り 脱炭素社会を実現させるためにどのような事が必要かまとめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の思いも理解し尊重しながら、お互いに納得できる話し合いをしていくことが大事だと分かった。</li> <li>・相手の意見をすべて否定するのではなく、良いところ課題となるところを整理しながら話し合っていくことが大事だと分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明の仕方の良さ、国語的に価値のあった部分について言葉で生徒に評価を返す。</li> </ul>	<p>10分</p>

<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p>	<p>【知識及び技能】 賛成・反対という両極の意見ではなく、双方が歩み寄るような話し合いにより、森を守る事と脱炭素社会の実現が両立できるということに気付くことができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】 太陽光発電の長所と短所を踏まえた上で、森林を守ることと脱炭素社会の実現を両立するための方法や鍵になることを想像し、自分の考えを書くことができる。</p> <p>【学びに向かう人間性等】 進んで太陽光発電の長所や短所を調べたり、考えたりして、問いに対する答えを書こうとしている。</p>
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ iPad を活用した調べ学習</li> <li>・ メタモジ classroom を利用したグループ学習</li> <li>・ 賛成反対の立場に分かれた意見交換会</li> </ul>
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内教科研修会での実践授業参観</li> <li>・ 校内研修会</li> <li>・ 信州ESDコンソーシアム成果報告会での発表</li> </ul>

【自己評価】

<p>11. 苦労した点</p>	<p>国語としてつける力を明確にして授業を仕組むこと。総合的な学習の時間や道徳のような授業にならないよう、集めた情報をもとに自分と違う考えを持っている相手に、どのように伝えるかということを考えさせ、言葉や資料の選び方、話し方など試行錯誤させるような授業になるように工夫した点。</p>
<p>12. 改善点</p>	
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>①「共存」と「共生」という類義語を明確に区別して使えるようになった。</p> <p>②自分と反対の意見を持っている相手に、自分の考えを理解してもらうための説明の仕方を工夫できるようになった。</p> <p>③根羽村が目指していこうとしていることを理解し、SDGsに関わって特に環境との共生に関する課題を、自分事として考えられるようになった。</p>



14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

森林と人間は（共存・**共生**）していく  
 どちらの方がふさわしい言葉だと思いますか。どちらかを選んで理由を書きましょう。

人間も森林のあんりをするし、資源もモゾウので共生の方が  
 ふさわしいと思ふ。あたがいにいいてころを使いあつて  
 生きていくのがいいと思ふ。

共に生きるだけでなく、

人間も社会をより良くしていくために成長していかなければ  
 ならないし、森林（自然）環境も大切にしながら共に成長  
 して 生きていく必要があるから。また、共生というと、

人間・自然のどちらかが片方がいないとバランスが保たない→互いに

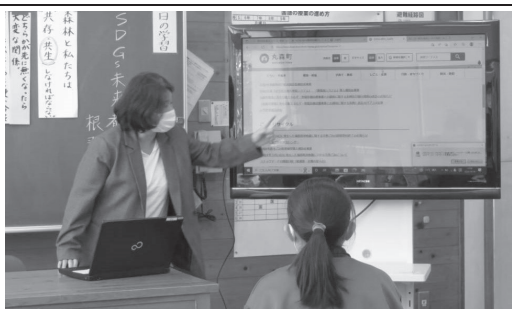
単元の展開 第3時

3人の生徒全員が「森林と人間は共生する」と表現する方が相応しいという結論にいたった。生徒は共生という言葉の意味を明確に理解し、お互い良い部分を使い合っていける関係やお互いを大事にし、ともに成長していく関係という具体的な状態を挙げて説明することができた。

単元の展開 第6時

学習課題

「根羽村が目指す脱炭素社会を実現させるために、太陽光発電施設建設に反対している人々に対して、どのような説明が必要か、理解してもらうための説明を考えよう。」



学習の振り返り

「正反対の意見をもっている人に説明するとき、どのように説明するとい  
いと思いましたか。」という振り返りに対する生徒の記述

正反対の主張をしている人の靴をはいてみて、どんな所に不安があるのか、何を問題視しているのかと

まず、理解することが大切だと思った。また、メリットデメリットのどちらも伝えながら対策と共に言うことで、

安心させられると思った。今回は時間がなくて数値や案を一つしか上げられなかったが、より相手をなごく、共感

させるには、それがあると思う。話し方は、相手により添えること、座、椅子よみは絶対にはいりだと思

・相手が不安だと思いうことを考えてから説明することで、あーなるほどと思ってもらえる。

し、質問されるといのは、説明が足りなかつたと思うので、対策をすることが大切だと思

う。

単元展開 6・7 時間目

「SDGs 未来都市根羽村にある根羽学園生徒会として、SDGs に関わる新たな取り組みを考え提案する。」

生徒が作成したプレゼンテーションの資料 URL 参照

[https://drive.google.com/file/d/1aLGd7bHtNuZJ3kFkx\\_5f-2SC0sSZYPAX/view?usp=share\\_link](https://drive.google.com/file/d/1aLGd7bHtNuZJ3kFkx_5f-2SC0sSZYPAX/view?usp=share_link)



これまであまりSDGsとは関係がなかったと思っていたけど、自らができることなんだ、と目覚めた。SDGsの勉強をすることで、来年は会長候補にも立候補して、TOPの内の一人になるのが、あのけいけんをいまして、根羽学園を盛り上げたいです。

その日の学習で、これから<sup>セキ</sup>の未来は、<sup>セキ</sup>あまり考えなかつたけど、考えこめること、<sup>セキ</sup>の<sup>セキ</sup>が<sup>セキ</sup>どんな状況なのかとか分かった。太陽光発電のプロジェクトだった。若杉会での新しい取り組みについて、プレゼンテーションをしたら、キリしままの方か、が出来るようになった。

根羽村がどのようなことを目指しているのか、実際にどのようなことを行っているのかを学習したり、根羽学園内だということにも結びつけて調べたりしたから、SDGsがより身近になった。また、イースター島の事例からも、地球がどう変わっていくのかを想像したため、SDGsが大切だとより分かった。若杉会での活動として、三人それぞれ環境やSDGsにつながる活動を分かりやすく伝えられて良かった。プレゼンテーションの学習では、「人に伝える」ためには、話す順番や内容、話し方を工夫していくことが大切だと分かったため、社会などで報告書や提案書、レポートを作ったり、人に説明するときには生かしていきたい。

SDGs を題材とした単元の振り返りの生徒の感想から成果と課題  
 ○SDGs を自分事と考え、より身近なものと考えられるようになった。  
 ○プレゼンテーションの学習として、話す内容や話し方について深く考える。  
 ▲単元の展開に世界の人々とともに生きていく、地球の環境をよくしていくという視点の学習活動もいれられるとよかった。

<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>8月には、多文化共生ということテーマに多くのことを研修させていただいた。その中で学んだことを活かして行った授業は①「共生」と「共存」という言葉を比較し、違いを明確にして使うことができる論理的な思考力を高めるための学習活動と、②様々な背景や文化をもつ人たちと「共生する」ためには、どのように対話していくことが必要かという論理的思考力を高める学習活動である。SDGs の研修を活かして行われる授業実践は、社会や学級活動、総合的な学習の時間などが多い中、「国語の目標（つける力）」を見失うことなく授業を構想するのはなかなか難しかった。今回は初めての実践で教師主導の部分も多々あったので、これをさらにバージョンアップさせ子どもたちが主体的に追究でき、協同的・対話的深い学びになるような授業づくりをしていきたい。</p>
-----------------------	--

使用した教科書・単元名：光村「モアイは語るー地球の未来」「魅力的に伝える～プレゼンテーション～」

参考資料：

丸森町の太陽光発電所建設に対しての看板の写真

メガソーラーシステムの航空写真

YouTube 「KBH 東日本ニュース」

宮城・丸森町の大規模太陽光発電所計画 住民が環境への悪影響を懸念 (202107070A)

JICA ホームページに掲載しています。是非ご覧ください！

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>



## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	高橋 絵理	学校名	私立 白百合学園小学校
担当教科等	英語科	対象学年 (人数)	6年桜組 (20名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2022年 10月19日(水)4校時 本時実施		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：英語科		
2. 単元(活動)名：The Happy Prince ～My Happiness, Your Happiness～		
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：「The Happy Prince (幸福の王子)」 単元目標： <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した文字と音の関係に関する知識を使って、“The Happy Prince”を読むことができる。</li> <li>・接続詞whenの用法を理解し、書いたり話したりして表現できる。</li> <li>・“The Happy Prince”を通して、自分や他者の「幸せ」について考えることができる。</li> </ul> 関連する学習指導要領上の目標： <b>【読むこと】</b> イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。 <b>【話すこと(やりとり)】</b> イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。 <b>【話すこと(発表)】</b> イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。 <b>【書くこと】</b> イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	・接続詞 <b>when</b> の用法を理解できる。
	②思考力、判断力、表現力等	・接続詞 <b>when</b> を使って、文を書いたり読んだりすることができる。 ・オリジナル誕生石のスピーチでは、堂々と紹介することができる。
	③学びに向かう力、人間性等	・理解できないことがあったり、難しいと感じたことがあったりした場合は、自分から友達や先生に声をかけることができる。 ・困った友達にはヒントをあげたり、言葉を補ったりするなど、相手とコミュニケーションを続けるための工夫をすることができる。
5. 単元設定の理由・単元の意義  (児童/生徒)	<b>【単元設定の理由・単元の意義】</b> “The Happy Prince” (幸福の王子)は、町に聳え立つ王子像が、ツバメの力を借りて、苦労や悲しみの中にある人々のために、自分の持っている宝石や自分の体を覆っている金箔を分け与えていくという物語である。自己犠牲的ではあるものの、このお	

観、教材観、  
指導観)

話に込められた思いや心が、本校の建学の精神に沿うものと感じたため授業で扱う題材として採用した。そして、この物語に出てくる言葉や表現をツールに、児童にとっての幸せ、他者にとっての幸せについて考えるきっかけになればという願いのもと、本単元を設定している。これに至った大きな理由としては、SDGs 教師国内研修中に、様々な背景をもつ方々と出会う度に「幸せ」について何度も思いを巡らせたからである。特に、クルド人のタシくんとジアンさんや朝鮮学校のピ先生の存在はとても大きい。世界に目を向けると、国内紛争、国家間の戦争、環境問題によって人道危機に直面している方々が多くいる一方で、日本国内にも、それらの問題が複雑に絡み、「当たり前」の日常や人権が保証されていない方々が多くいることを知った。グローバル化が進み、ますます先の見えない時代を生きる次世代に求められる「幸せ」とはいったい何か、他者と豊かに暮らしていくための幸せの価値観はどんなものなのか、まずは目の前の児童が感じている幸せを切り口に、安心感のある雰囲気の中で、少しずつ思考を広げていきたい。もちろん、英語という教科内で、このような曖昧なテーマについて深く考えを巡らせるには限度があると感じている。しかし、英語を通して児童が自分の内面を見つめ、そして、様々な背景をもつ人々と出会うような時間を少しでも設けることは、学校現場で行う英語教育の責務であると感じている。

## 【児童／生徒観】

- ・本校は私立の小学校(女子校)であり、経済的にも恵まれた家庭で育った児童が多く在籍する。英語を外部で習っている児童も多いが、そうでない児童も含めて、英語学習に対して前向きで、目標の語彙や表現などをすぐに吸収し、使う能力がある。高学年になってもスピーチやプレゼンテーション等の活動に積極的な姿勢を見せるので、気持ちのよい雰囲気の中で授業を進められる。

- ・長引くコロナ禍で、家庭や学校双方の生活様式が制限され、少なくともストレスを抱えて小学校生活を送ってきた。自分の居場所に不安を抱えたり、家族や友人との関係に悩んだりしながら、日々を過ごしてきたであろう。今まで当たり前だったが、そうとも言い切れない未来を生きていく児童には、出来事を客観的に捉え、他者と協力しながら、自分なりの幸せを見出してほしい。

## 【指導観】

本単元において、児童が幸せと感じる瞬間を言語化することで、今ある日常がかけがえのないものであることを再確認したい。その際には、どんな考えが出たとしても、温かく受け入れられるような雰囲気づくりを心掛ける。また、友達と意見を伝え合ったり、異なる背景をもつ人々の「幸せ」に触れたりする場を設けることで、未来を豊かに生きるための気づきを促す場としたい。

第3時には、オリジナルの誕生石を作成し、発表する。自身の思う色や意味を宝石に加えていく作業を通して、時には友達と言葉を交わしながら、自己の内面を見つめ、より自分を好きになるための一助となることを期待したい。

6. 単元計画 (全3時間)				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 本時	When do you feel happy?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「幸福の王子」のお話を知る。</li> <li>・ Prince/Princess happy/swallow などの基本的な語彙に親しむ。</li> <li>・ When S V の用法を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①“The Happy Prince” Part 1 を読む。 ALT の読み聞かせを聞き、お話を想像した後に、Part1 を音読する。</li> <li>②when S V 構文の練習をする。</li> <li>③“When do you feel happy?” “I feel happy.”のやりとりをする。 ・友達と紹介し合い、共感できたらリアクションする。</li> <li>④ “For Every Child, A Better World” ・教員は数ページ紹介する。 ・2 つの絵を比較し、Every Child Needs... について考える。</li> </ul>	<p>“The Happy Prince”</p> <p>ワークシート</p> <p>絵本 “For Every Child, A Better World”</p>
2	When do you feel happy?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Part 2 の内容理解</li> <li>・ 接続詞 when を使って表現できる。</li> <li>・ 自分の誕生石とその意味を英語で知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①“The Happy Prince” Part 2 を読む。 ALT の読み聞かせを聞き、お話を想像した後に、Part 2 を音読する。</li> <li>②when S V 構文の応用 I feel happy when .... I feel sad when I feel comfortable when... ・スライドを1枚作成し、プレゼンテーションを行う。</li> <li>③”Happy Moments” movie ・ JICA のベトナムコース「幸せとは何か」の動画を見る。 ・ 共感したものを記録する。</li> <li>④Birthstone の導入 ・ 意味を知る。 ・ “My birthstone is..... It means....”を使ってまとめる。</li> </ul>	<p>“The Happy Prince”</p> <p>ワークシート</p> <p>ロイロノート</p> <p>JICA のベトナムコース「幸せとは何か」の動画</p> <p>誕生石の意味(英語版)一覧表</p>
3	Let’s make my own birthstone!	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Part 3 の内容理解</li> <li>・ オリジナルの誕生石を作ることを通して、自分の内面を見つめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①“The Happy Prince” Part 3 を読む。 ALT の読み聞かせを聞き、お話を想像した後に、Part3 を音読する。</li> <li>②My Original Birthstone を作る ・ ペアで My birthstone を紹介し合う。 ・ 何名か、全体で共有をする。</li> <li>③when S V の復習をする。</li> </ul>	<p>“The Happy Prince”</p> <p>ロイロノート</p>

<p>7. 本時の展開 (3 時間中 1 時間目)</p> <p>本時のねらい：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接続詞 <b>when S V</b> の用法を理解できる。</li> <li>・接続詞 <b>when</b> を使って、幸せを感じる瞬間について友達や教師とやりとりすることができる。</li> </ul>			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<p><b>導入</b></p> <p>(10分)</p>	<p>1. あいさつ</p> <p>2. "The Happy Prince" Part 1 を読む。 ①ALT の Reading を聞き、お話を想像する。 ②Part1 を音読する。</p>	<p>□机間巡視をし、会話を詰まっている様子があれば、言葉を補う。</p>	<p>絵本 "Happy Prince" (PPT 資料提示)</p>
<p><b>展開</b></p> <p>(25分)</p>	<p>3. "When do you feel happy?" ①担任の先生の Happy Moments を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>When do you feel happy? (あなたにとっての幸せの瞬間は?)</p> </div> <p>②"I feel happy when I...."の表現を練習する。 ③友達と紹介し合い、共感できたらリアクションする。</p>		
<p><b>まとめ</b></p> <p>(10分)</p>	<p>④"For Every Child, A Better World" ・教員は数ページ紹介する。 ・2つの絵を比較し、Every Child Needs...について考える。</p>		<p>絵本 "For Every Child, A Better World"</p>
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <p><b>【知識・理解】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童のワークシート上の記録から、<b>when S V</b> 構文の用法を正しく理解しているか確認する。</li> <li>・教師の発問に対して、<b>when S V</b> を使って思いや考えを伝えられているか確認する。具体的には、教師の発問に対し <b>when S V</b> 構文を使って意思を伝えられた児童は名簿上で記録する。また、児童同士が会話する際には発言に耳を傾けて、やりとりをすることができているか見取る。</li> </ul>			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国連出版の絵本</li> <li>・JICA の過年度研修を受けた教員の作成した動画</li> <li>・ロイロノート(クラウド型授業支援アプリ)</li> </ul>			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生からフランス語、3年生からは英語を学習し、複言語教育を行っている。フランス語では、フランス語圏の国の方と交流したり、フランスの文化を体験できたりするような授業がある。英語では、年に1、2度ほどではあるが、インドネシアやベトナムと文化交流する機会がある。</li> <li>・昨年度、SDGs の調べ学習を総合学習で行い、法政大学の教授がアドバイザーとして参加した。</li> <li>・教員研修で、学年ごとに、年間カリキュラム上での SDGs との関連性を確認した。</li> <li>・国際交流の一環として、カナダやベトナム、ヨルダンなど、数カ国の現地の方や在住日本人の方と ZOOM で交流した。現地の教育事情や文化について話を伺った。</li> <li>・ズームを通して、フランスやニューヨークの美術館職員と交流し、アートについて理解を深めた。</li> </ul>			



【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・"For Every Child, A Better World"の本の扱い方に最も悩んだ。子どもたちが他人事と思わず、自分事として積極的に思考するにはどうアプローチすればよいのか、当日まで考えていた。"Every child needs to think, feel and decide." という文に込められた思いが大きく、また、英語の時間で背景を紐解くにはあまりにも複雑であったので、授業中に提示するかどうか決められないまま授業に臨んでしまった。</li> <li>・子どもたちの学習した少ない言語材料で、どれほど自分の"I feel happy when....."を表現できるか不安であった。</li> </ul>
<p>12. 改善点</p>	<p>【本時終了後、ご助言・ご指導を受けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・翻訳サイトを使って自分の表現の幅を広げてくれたらと願う一方で、翻訳サイトで出てくる表現はあくまで与えられた言葉であるうえに、教員との会話の頻度も減るといご助言をいただいた。この視点をもって、いつ、どういうルールのもとで使用するのかという点を今後考えていきたい。</li> <li>・"I feel happy when...."を書くにあたって、テンプレートがあることの指摘があった。Because....の部分でもう少し表現の幅を広げてあげたらよかったかという反省が残る。できるだけ学習した言葉で子どもたちが精一杯表現できるように、ワークシートを工夫することを次年度に行いたい。</li> <li>・ALT との連携がうまくとれるようになってきた一方で、その授業のテンポのせいで取り残されてしまう児童がいるかもしれないことに常に気を配っていく。SDGs の大切としている「誰一人取り残さない」姿勢と雰囲気授業でも大切にしたい。</li> <li>・40 人の一斉授業にて全員の意見を反映させる際には、書き言葉や話し言葉だけでなく、打ち言葉を活用する方法もあることを知った。読み書きの発達段階を見極めつつ、導入できそうな場面があったらチャレンジしたい。</li> <li>・授業を見学してくださったスタッフやインターンの方のご助言を受けて、"For Every Child, A Better World"の展開で改善すべき部分が見えてきた。まず、各ページの各文言に動画や写真をつけて、より具体性をもたせたい。例えば、"Every child needs clean water to drink."のページでは、実際に水を求めて歩く人々の動画を提示するなどして工夫する。また、最初に子どもたちから"Every child needs...."に続く言葉を自由に考えてもらい、その後、本の読み聞かせを行う代案をいただいた。そうすることで、子どもたちが自分の言葉で考え、その状況を十分に想像する余地を残せるかもしれない。</li> </ul> <p>→実際に、単元計画の第2時実施前に1時間分設け、このアイデアを生かした。児童はグループになり、マインドマップ式にそれぞれの思う"Every Child Needs...."を自由に記述するような流れにした。思った以上に多くのアイデアが出てきたと同時に、はっとさせられるような発言が多く出た。さらに、共有することによって、「私の生活にはそれが欠けているかも」や「確かにそれは必要だね」というつぶやきが聞かれ、児童なりに思考を深めている様子が伺えた。これについては、添付資料として載せている。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが生き生きと自分の幸せな瞬間を英語で語り、また、友達の幸せな瞬間にも積極的に耳を傾けていた姿に感動した。当たり前前日常に喜びを見出し、それをクラスで共有できたことに価値を感じている。</li> <li>・Birthstone の活動では、こちらが宝石の形を何パターンか用意していたにも関</li> </ul>

わらず、児童は自由に宝石をかたどり、自分の選んだ色で塗っていた。漢字に「羽」がついている児童は、自分の宝石に羽をつけてみたり、自分の性格を書き出し、それに合わせて色を付けていたり、工夫する児童が何名かいたのが印象的であった。それを言語化し、発表し、周囲に認めてもらう機会を作ることができたことは1つの成果であると感じている。

14. 学びの軌跡  
(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

●本時 "I feel happy when..."児童の記録

The Happy Prince (1)  
6 5

「ロイロノート→6年O組資料箱→2学期資料→動作のことば」も参考にしよう!

Q. When do you feel happy?  
I feel happy when I talk with my friends.

例) I feel happy when I eat snacks.  
I feel happy when I'm with my friends.

Q. Why?  
Because it is fun.

例) Because it's fun. / Because I like.....

The Happy Prince (1)  
6 5

「ロイロノート→6年O組資料箱→2学期資料→動作のことば」も参考にしよう!

Q. When do you feel happy?  
I feel happy when I'm with my turtles.

例) I feel happy when I eat snacks.  
I feel happy when I'm with my friends.

Q. Why?  
Because I love my turtles.

例) Because it's fun. / Because I like.....

The Happy Prince (1)  
6 5

「ロイロノート→6年O組資料箱→2学期資料→動作のことば」も参考にしよう!

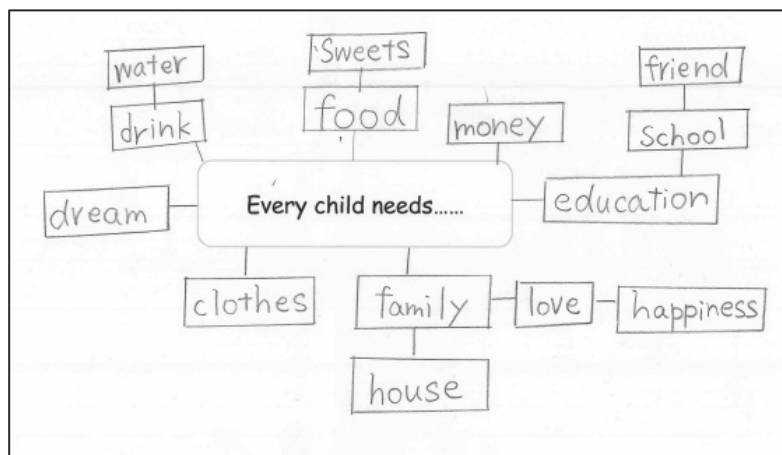
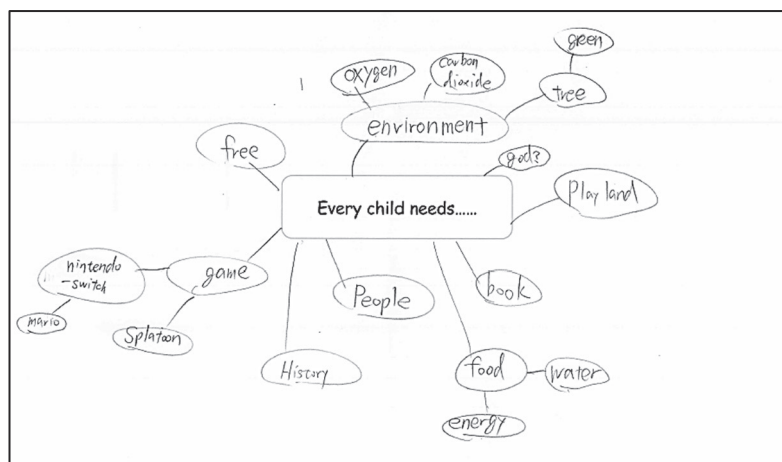
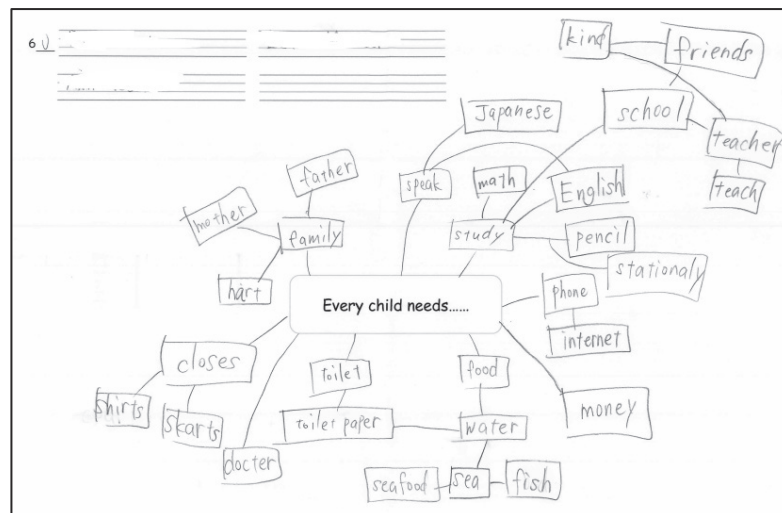
Q. When do you feel happy?  
I feel happy when I eat sweets.

例) I feel happy when I eat snacks.  
I feel happy when I'm with my friends.

Q. Why?  
Because it's so delicious.

例) Because it's fun. / Because I like.....

●第2時 "Every Child Needs..."の児童の記録



15. 授業者による自由記述

授業を終えてみて、英語という教科の目標・目的を踏まえたまま、今回のSDGs教員研修で得た学びを扱い、深めることを改めて難しく感じた。今回は、自分を中心に幸せについて語り合ったが、他教科(特に社会や国語)と連携することが必須で、これにより自己を超えて他者に目を向けるチャンスが作れるのではないかと確信している。単教科のみであると、得られる知識も浅く、思考の広がりには欠ける。専科担任制をとる本校だからこそ、普段から他教科教員と密に話し、他教科の学習内容にアンテナをはる大切さを学んだ(自身の今後の最重要課題かもしれない)。

使用した教科書・単元名："The Happy Prince(幸福の王子)"を読もう！

参考資料：Kermit the Frog (1993). "For Every Child, A Better World" . Muppet Press・The United Nations  
SK. Liu・Wendy Lee 他(2007). 『Ready, Action! 2<sup>nd</sup> Edition』 シリーズ, A\*List  
Oscar Wilde (2018). 『The Happy Prince』 .Thames & Hudson.  
アレン玉井光江(2011). 『ストーリーと活動を中心とした小学校英語』 .小学館集英社プロダクション.

※ 過去の本研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどを  
JICA ホームページに掲載しています。是非ご覧ください！

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>



## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	土井真智子	学校名	千葉大学教育学部附属小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	4～6年4組（帰国児童22名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2022年9月～11月（3時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：道徳		
2. 単元(活動)名：地球の未来を考えよう		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：あなたならどうする 単元目標：正解のない問いに対して自分の意見を持ち、話し合いを通して多様な価値観の中で物事を多面的・多角的に考え、自分はどうしていきたいかを自ら考え続けること。 関連する学習指導要領上の目標：自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。		
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	道徳的諸価値についての理解を深める。
	②思考力、判断力、表現力等	自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めたり、他者に伝えたりする。
	③学びに向かう力、人間性等	社会的な差別や不公平さなどの問題に考えを巡らせ、自分はどうしていきたいかを考えることができる。
5. 単元設定の理由・単元の意義  (児童/生徒観、教材観、指導観)	<b>【単元設定の理由】</b> JICA 教員のための SDGs 研修で、「正解のない問いと共に生きる時代」であることを学んだ。国内視察研修で現場を見学させていただきながら、今、私たちの前にある問題は、いずれも環境、社会、経済が相互に影響し合う複雑な問題となっていることを実感した。佐藤（2020）は、「SDGs（Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標）時代、VUCA（Volatility 変動性、Uncertainty 不確実性、Complexity 複雑さ、Ambiguity 曖昧さ）世界では、常に変化しつづけることを前提に、情報や知識の捉え方が人によって違っていること、さらに情報や知識は固定的ではなく正しさが変化し続けていることを受け入れることが大切」としている。また、「他者とのコミュニケーションが、問題の理解から始まり、自分にも他の人にも望ましい未来を描くのに、その実現の過程においても本質的に大切」としている。そこで、現在進行形の問題を扱い、友達と話し合うことで多角的・多面的に物事を捉え、いかに生きるべきかを考え続ける道徳授業ができないかと考え、本単元を設定した。  <b>【単元の意義】</b> 第一次では、道徳の主な内容項目を C-(17)伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度とし、関連する内容項目を D-(19)生命の尊さ、D-(20)自然愛護とする。二つの概念が互いに矛盾、対立しているという二項対立の物事を取り扱い、物事を多面的・多角	

的に考えることができるようにすることに本単元の意義があると考え。

第二次では、主な内容項目を C-(13)公正、公平、社会正義とし、関連する内容項目を C-(18)国際理解、国際親善、B-(11)相互理解、寛容とする。自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを確かに想起することができ、自己の生き方についての考えを深めることに本単元の意義があると考え。

#### 【児童／生徒観】

本学級の児童は、日本国籍を有し、海外の現地校もしくは海外のインターナショナルスクールに2年間以上在籍していた児童である。4年生10名、5年生6名、6年生6名であり、国語、算数、理科、社会の主要4教科は学年別の少人数で学び、主要4教科以外の学習は、4～6年生の合計22名と一緒に学んでいる。小学校低学年の時期に日本語で授業を受けていないため、日本語を得意としない児童も在籍している。滞在国や滞在年数がそれぞれであり、自分の意見をはっきりと表現することが得意な児童もいれば、自分の意見を人前で表現することが苦手な児童もいる。言語習得状況もさまざまであり、英語の方が得意な児童もいれば、日本語の方が得意な児童もいる。話すことが得意で書くことが苦手な児童もいれば、話すことが苦手で書くことが得意な児童もいる。学級内の児童の経歴が多様なので、多様性に関しては寛容さがみられる。昨年度はSDGsに関して外国語の授業の中で扱ってきたので、SDGsに関して関心の高い児童が多い。これまでの児童の経験や学習歴を生かして、学びに向かうようにしたい。

#### 【指導観】

第一次では、防潮堤やメガソーラーの設置について「賛成」か「反対」かを考える活動をする。「賛成」「反対」の2択ではなく、スケールを用いて「どちらでもない」を0とし、賛成反対のそれぞれ3段階のスケールをワークシートと黒板に用い、黒板にネームプレートを貼ることで、自分の意見や友達の意見がどのくらい賛成なのか反対なのか、どちらでもないのかを視覚的にわかりやすくする。賛成意見も反対意見もどちらの意見も聞いて再度考え直すことで意見が変わった時はネームプレートを移動させ、考えが変化したことを視覚化し学級全体で受け入れやすくする。さらに、最終的な自分の意見に関係するSDGs17の目標シールをワークシートに貼る作業をすることで様々な地球規模の問題が関わっていることを視覚的にわかりやすくしたい。

第二次では、娘さんが知らない外国人に声をかけられて「怖い」と思ったことがきっかけで、クルド文化教室主宰になった中島さんの実話を教材とし、言葉の壁や心の壁があることに気付かせたい。本学級の児童は国境を越えての生活経験があるため、言葉の壁や文化の壁は感じたことがあるだろうと考える。自分たちも不便を感じたことがあることを想起させ、さらに言葉や文化の壁以外に心の壁はないかについて考えることで自己を見つめ、物事を多角的・多面的に考え、自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにしたい。さらに、日本人同士の中にも心の壁がないかを考える。そして、そのような差別や偏見、傍観的立場がいじめなどの問題につながることを理解し、今後自分はどうしていきたいのかを考える。自分とは異なる立場の人を思いやることの大切さに気付かせたい。

6. 単元計画 (全3時間)					
次	時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1次	1	防潮堤の設置に賛成？ 反対？	<p>○千葉県に防潮堤設置の賛否を考える活動を通して、「生命の尊さ」と「自然愛護」について多面的多角的に考える。</p> <p>◎賛成意見にも反対意見にも共通する思いや願いを考えることを通して、人々の郷土を大切にしたいという思いや願いに気づき、自分の住んでいる郷土を大切にしようとする態度を育む。</p>	<p>①海のイメージを話し合う。</p> <p>②宮城県仙台市の防潮堤の写真や、岩手県釜石市の防潮堤の写真を見て、なぜ設置されたかを考える。</p> <p>③動画を視聴する。</p> <p>④千葉県に防潮堤設置は賛成か反対かを考え、黒板にネームプレートを貼る。理由をワークシートに記入する。</p> <p>⑤なぜそう考えたのかを発表し合い、話し合う。</p> <p>⑥話し合いを通して最終的に賛成か反対かを考え、理由をワークシートに書く。考えが変わった場合は、黒板のネームプレートを移動させる。</p> <p>⑦自分の意見に関するSDGs17の目標シールをワークシートに貼る。</p> <p>⑧Teamsにふりかえりを書く。</p>	<p>①千葉県の海の写真</p> <p>②宮城県仙台市の防潮堤の写真、岩手県釜石市の防潮堤の写真</p> <p>③【防潮堤】高さ9.7m "海が見えなくなった町"に新たな魅力を！ 宮城 NNN セレクション - YouTube</p> <p>④ワークシート、ネームプレート</p> <p>⑦アフリカと生物多様性を守るバナナパー (SDGs シール)</p> <p>⑧タブレット PC</p>
	2	メガソーラーの設置に賛成？ 反対？	<p>○耕野地区のメガソーラーの建設について賛否を考える活動を通して、「生命の尊さ」と「自然愛護」について多面的多角的に考える。</p> <p>◎賛成意見にも反対意見にも共通する思いや願いを考えることを通して、人々の郷土を大切にしたいという思いや願いに気づき、自分の住んでいる郷土を大切にしようとする態度を育む。</p>	<p>①本校にソーラーパネルの設置は賛成か反対かを考え、黒板にネームプレートを貼る。</p> <p>②丸森町にメガソーラーを建設する件についてのニュース動画を視聴する。</p> <p>③メガソーラーの建設について賛成か反対かについて考え、黒板のスケールに名前を貼り、理由をワークシートに記入する。</p> <p>④インターネットでメガソーラーについて調べる。</p> <p>⑤友達の意見を聞き、話し合いを通して最終的に賛成か反対か、その他の案はあるのか、自分の意見をまとめる。</p> <p>⑥賛成の人にも反対の人にも共通している思いや願いは何かについて考える。</p> <p>⑦Teamsにふりかえりを書く。</p>	<p>①本校のソーラーパネルの写真</p> <p>②再生可能エネルギー 環境への負荷が小さい小規模な発電が注目集める   khb 東日本放送 (khh-tv.co.jp)</p> <p>③ワークシート、ネームプレート</p> <p>④タブレット PC</p> <p>⑥アフリカと生物多様性を守るバナナパー (SDGs シール)</p>

2次	3 本時	言葉の壁 心の壁を 越えて	○言葉の壁や心の壁に 気づき、自分はどうして いきたいかを考えるこ とができる。	①海外生活や海外の学校生活、 日本に来てから感じた困り 感について話し合う。 ②教材をもとに心の壁につい て考える。 ③自分たちの身近な日常生 活の中に心の壁がないか振り 返る。 ④班で話し合い、議論する。 ⑤意見を発表し合い、ふりかえ りを行う。 ⑥Teams にふりかえりを書く。	①事前に調査したア ンケート結果 ②自作教材「コンビニ での出来事」 PowerPoint 資料 黒板掲示用イラス ト 黒板掲示用写真 ワークシート ⑤アフリカと生物多 様性を守るバナナ ペーパー (SDGs シ ール) ⑥タブレット PC
----	---------	---------------------	---	---	---

7. 本時の展開 (3時間目)

本時のねらい：言葉の壁や心の壁に気づき、自分はどうしていきたいかを考えることができる。

過程・ 時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<b>導入</b> (10分)	①事前に調査した国境を越えての移動に関する困り感についてのアンケート結果をもとに、海外生活や海外の学校生活、日本に来てから感じた困り感について話し合う。 ・自分の経験を思い返し、自分だけではなく困った経験をしている人が他にもいることを理解する。	○学年別、使用しやすい言語別に意図的なグループ編成をする。	①事前に調査したアンケート結果
<b>展開①</b> (15分)	② 自作教材「コンビニでの出来事」の PowerPoint 資料を見ながら、外国人に声をかけられて「怖い」という娘さんが今は「怖くない」に変化したのはなぜかを考え、ワークシートに自分の考えを記入し、班で話し合う。 ・「言葉の壁」の他に「心の壁」があることに気付く	○話の流れがわかりやすくなるように、PowerPoint 資料を提示しながら、黒板にイラストも提示する。	②自作教材「コンビニでの出来事」 PowerPoint 資料 黒板掲示用イラスト 黒板掲示用写真 ワークシート
<b>展開②</b> (15分)	③ 教材をもとに心の壁について考える。 <b>心の壁を低くするにはどうしたらよいだろう</b> ・自分たちの身近な日常生活の中に心の壁がないか振り返る。 ・自分の経験と重ねながら考える。 ・班で考え議論する。 ・班での議論を通して心の壁に対してどう向き合い、今後どうしていきたいのかを考えを深める。	○児童の意見を黒板にまとめる。	
<b>まとめ</b> (5分)	④ 本時の活動を振り返り、何を学んだのか、それぞれの考えを自分の言葉でまとめるようにする。 <b>だれもが過ごしやすくなるために自分にできることは何だろう</b>		アフリカと生物多様性を守るバナナペーパー (SDGs シール) タブレット PC



8. 評価規準に基づく本時の評価方法 言葉の壁や心の壁に気づき、自分はどうしていきたいかを考えることができたか。(発言、ワークシート、Teams への記入)
9. 学習方法及び外部との連携 YouTube に投稿されているニュース動画の利用
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 ・校内授業研究での本時展開 ・ちば国際コンベンションビューローと JICA 東京・千葉デスク共催オンラインイベント「国際理解セミナー」での実践報告

【自己評価】

11. 苦労した点	<p>これまで外国人に全く興味の無かった中島さんがクルド文化教室主宰になるまでの経緯や娘さんの変化に興味深く、道徳教材になると思ったが、日本に住んでいるクルド人について小学生にどう説明したらわかりやすくなるかが難しかった。</p> <p>児童の経験から、「言葉の壁」には強く共感する姿勢や発言が見られたが、児童から「心の壁」という言葉が出てこなかった。児童がこれまで経験的に「心の壁」を感じていなかったのか、日本語の語彙数が少ないために出てこなかったのか、「言葉の壁」の印象が強かったのか、様々な要因が考えられる。</p>
12. 改善点	<p>・ PowerPoint 資料を提示しながら、黒板にイラストも提示して自作教材の説明をしたので、内容把握に時間がかかってしまった。児童が考える時間の確保をしたい。</p>
13. 成果が出た点	<p>アメリカから編入した児童が図書室で寝そべて本を読んでいたことを注意して怒っていた韓国から編入した児童に、「アメリカの図書館は寝そべて本を読むのが普通なのかもしれないよ」と声をかけたところ、しばらく考えて、その児童に注意するのをやめたとき、違う文化で育った仲間を非難するのではなく、受け入れようとする姿が見られた。</p>
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;"> <p>中島さんの宿、華子さんがコンビニの前で声をかけてきた外国人を「怖い」と思っていたのに、今は「怖くない」と思っているのはなぜでしょう。 中島さん、クルド人の人たちが種々となり、クルド人にはある人たちはないことを知ったから。</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>中島さんの宿、華子さんがコンビニの前で声をかけてきた外国人を「怖い」と思っていたのに、今は「怖くない」と思っているのはなぜでしょう。 外国人のことを知ることで、わるいことをしようとしているわけでもないし、かわいい人でもないということも知ることができたから。</p> </div> </div> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; margin-top: 10px;"> <div style="width: 50%;"> <p>心のかべをのりこえるためには よたかひのことわりがほしい。全員おあるい人ではないということを考える。</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>心のかべをのりこえるためには 相手のこともよく知ってうけいれることで心のかべをのりこえることができると思います。</p> </div> </div> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; margin-top: 10px;"> <div style="width: 50%;"> <p>これから自分は、たれが知らない人に声をかけられたりしたら、あいさつやへんしをして、相手のことを考える。</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>これから自分は、他の人やことをよく知ることができるようになりたいです。 あと、その人がどんな人かを知ったり、しじょうがわかってから決めたいです。</p> </div> </div>

中嶋さんの猫、藤子さんがコンビニの前で声をかけてきた外国人を「怖い」と思っていたのに、今は「怖くない」と思っているのはなぜでしょう。  
 外国人が日本人に対してあまり親切にしてくれなかったり、外国人が日本人と仲良くしたり、その違いについてもっと知ることができたらいいな。



心の壁をのりこえるためには  
 そのことについてよく理解し、なにより自分自身の気持ちを受け取ることが大事です。



これから自分は人が言ったこと、したことを受け取れるのではなく、  
 しっかり理解しおたがいをやり取りできるようにしたいなと思います。



中嶋さんの猫、藤子さんがコンビニの前で声をかけてきた外国人を「怖い」と思っていたのに、今は「怖くない」と思っているのはなぜでしょう。  
 中嶋さんが外国人と一緒に料理をしているから、藤子さんはお母さんが大のういぐわがわがしたのじやうに思ったから。外国人の人の気持ち。



心の壁をのりこえるためには  
 相手の気持ちを考える  
 気持ちを閉く



これから自分は、外国をどう受け取れるか、言葉もわかる。

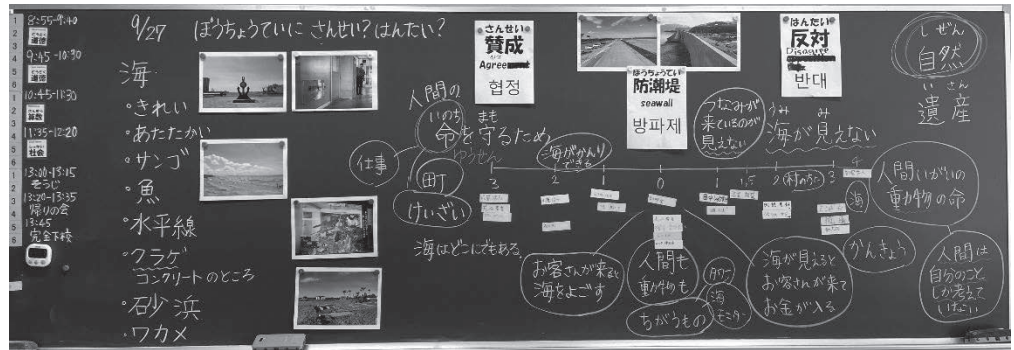


### Teams へのふりかえりの記入

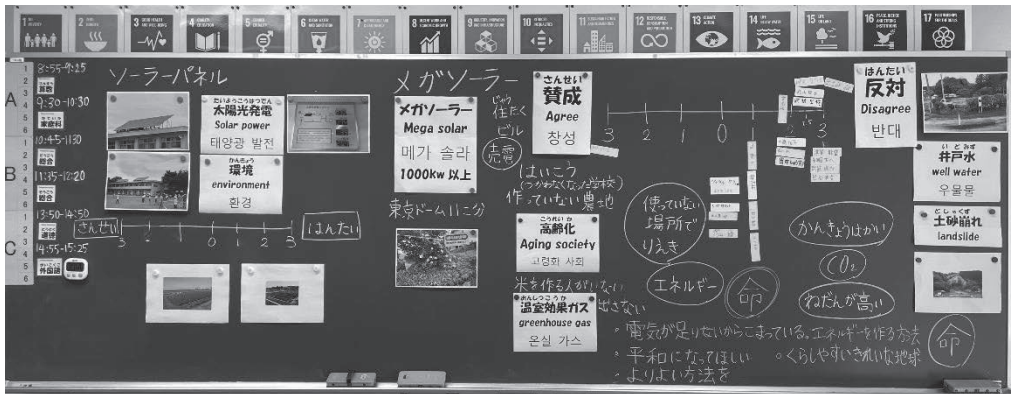
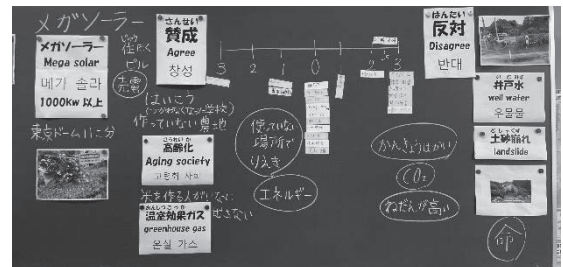
- ・急に外国人におかえりと言われると僕でもちょっとぞっとします。なぜなら顔の怖い人いきなり言われたらちょっと怖いんです。ですけど向こうが友だちになりたいということや困ってるということはわかるのでもし言われたら「ただいま」と僕は言います。
- ・私が夜遅くに声をかけられたら怖くなると思います。でも、きょうこさんの家族の人がそのお帰りといった人のこと、その国を調べて事情などが分かったら私も怖くなくなると思います。心の壁を乗り越えるためには何をすればいいのかを考えたときには、私は一番その人と向き合うことが大事だと思いました。
- ・After reading the story I understood what she might have felt. I also have once experienced a stranger saying hi for no reason at all. I thought that he might be dangerous so I also was scared. But I found out that he was a stranger that found out that I spoke English. After I realized that I became not scared.
- ・私もきょうこさんのように知らない外国人に話しかけられたら怖がっていたかもしれませんが、日本とブラジルでは言葉や文化の壁がありますが、同じようなところもあったりするので、面白いと思いました。これからいろいろな壁を乗り越えていきたいです。
- ・Today we talked about how we have a wall that separates our traditions in our culture. In Japan we are really 人見知り and don't talk to strangers but in America, we would say Hi and have a great day or something like that. I have experienced this a lot. Now because I'm living in Japan I, got used to the Japanese culture and when a 外国人 smiled at me I was kind of scared and especially because nobody was around me that I knew. I get how this little girl felt in our lesson.
- ・私は特に人と人の間に壁があるとは思いませんが、距離を感じる人もいるんだなと思いました。これからも今まで通り、みんなと平等に接したいと思います。

15. 授業者による  
自由記述

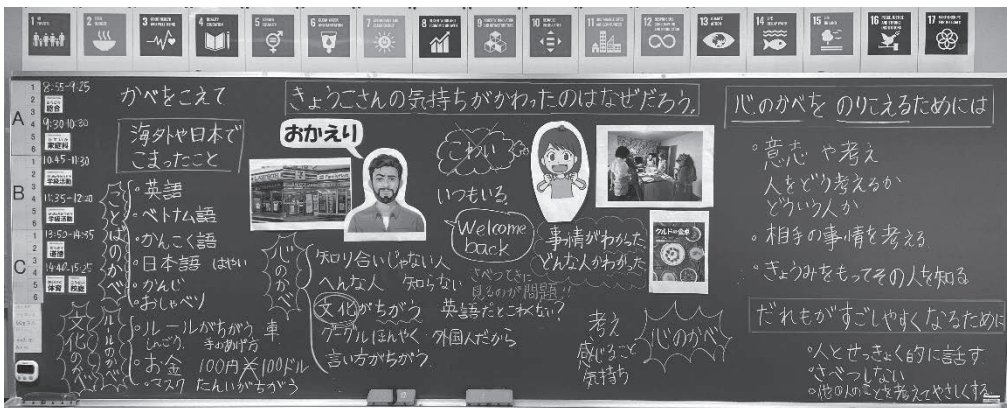
正解のない問いを子どもたちと一緒に考えていくのは私自身の学びになった。また、仲間と共に話し合ったり議論したりする中でより良い考えが生まれるということが子どもたちも実感できたと思う。これからも子どもたちと共に学び続けていこうと思う。



防潮堤設置に賛成?反対?板書



メガソーラー設置に賛成?反対?板書



言葉の壁、心の壁を越えて 板書

使用した教科書・単元名：

参考資料：文部科学省（2017）「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編」（文部科学省）  
佐藤真久・広石拓司（2020）「SDGs 人材からソーシャル・プロジェクトの担い手へ」  
佐藤幸司（2022）「とっておきの『ニュース de 道徳』」  
諸富祥彦・土田雄一（2020）「考えるツール&議論するツールでつくる小学校道徳の新授業プラン」  
NHK for School ココロ部！「ぼくらの村の未来」  
諸富祥彦・永田繁雄・土田雄一・山田誠・林泰成（2008）「NHK 道徳ドキュメントモデル授業」（図書文化）  
NHK DVD 教材（2007）「道徳ドキュメント第 3 期 使いやすさを広めたい」

※ 過去の本研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどを  
JICA ホームページに掲載しています。是非ご覧ください！

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>



JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	吉田 祥子	学校名	東京都江戸川区立 清新ふたば小学校
担当教科等	全科	対象学年（人数）	1年（94名） （3クラスで実施）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和4年9月～2月（22時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：生活科、体育、図工、音楽		
2. 単元(活動)名：〇〇で世界を旅しよう！出発！		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「異文化理解と異文化の中に見られる同質性」 単元目標：友達の様々な文化的背景を学習する活動を通して、共通点や相違点に気付き、違いをよさとして認め、受け入れることができる。一人一人が自分に自信をもち、思いや願いを表現する力を高める。 関連する学習指導要領上の目標 道徳科 C-18 国際理解、国際親善 他国の人々や文化に親しむこと。 生活科 学校家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えることができ、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気付き、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。 図工科 楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。 体育科 軽快なリズムの音楽に乗って弾んで踊ったり、友達と調子を合わせたりして即興的に踊ること。 音楽科 楽しく音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りのさまざまな音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。		
4. 単元の 評価規準	①知識及び技能	世界には様々な言語や生活、文化があることを知り、その面白さや素晴らしさ、よさに気付いている。
	②思考力、判断力、表現力等	様々な文化の良さを考え、表現している。
	③学びに向かう力、人間性等	学習を通して得た気づきや思い、願いを楽しみながら表現し、伝えようとしている。
5. (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 本校では、外国につながる児童が全校児童の約2～3割を占めている。1年生だけ見ると、各クラスに8名から10名ほど在籍している。外国につながる児童の入学者数は年々増加しており、来年度は日本語教室が開設される予定である。また、本校が位置する江戸川区は在日外国人の数が埼玉県川口市に次いで多い市区町村である。本校の児童は、学校でも地域でも多様な文化的背景をもつ人々が身近に感じられる地域に住んでいるといえる。そのため、見た目や言語、文化的背景などが自分と異なる人々が存在していることを当たり前と感じている児童も多い。しかし、見た目や言語というわかりやすい違いばかりに注目してしまい、自分と外国につながる児童とを無意識に線引きをしている児童も少なくない。違いはあれども、もとを辿れば同じ人間であり、美味しいものを美味しいと感じる心や楽しい時は声を上げて笑う行為などは万国共通であ	

る。違いをポジティブに受け入れながらも、そのような情意面での同質性に注目してこそ、児童がより共感的に異文化を学ぶことができると考える。

**【単元の意義】**

国内研修にて自らが受けた差別体験を語ってくださったクルド人大学生が「もっと多くの子どもたちが、外国の文化や習慣を知る機会があればいいのに。」と我々教員に訴えかけていた。この言葉を受け、「小学校低学年という小学校課程でも早期のうちに、様々な文化への理解や外国の人々との情意的な同質性について気付くことで、異文化を受容する態度を醸成したい。」と考えた。また、外国にルーツをもつ児童が多く在籍する本学年において、指導者がそれらの児童の実態を把握した上で、個別の文化的背景に注目した学習を展開することにより、ステレオタイプ化された文化理解からの脱却を図る。児童にとっても、身近な友達の文化について知ること、肯定的に友達の文化的背景を受け入れることができるであろう。

**【児童／生徒観】**

本学級の児童は、新しいことや知らないことへの知的好奇心が非常に旺盛で、疑問をもち、本などで調べる活動を楽しむ児童が多い。外国にルーツをもつ子が多く在籍する中で、インド国籍の児童が頭に被っているヒジャブを指して「それは何?」「どうしてかぶるの?」や宗教対応の給食を見て、「なんでみんなと同じじゃないの?」「なんでお肉を食べちゃだめなの?」など様々な関心や疑問をもつ児童も少なくない。一方で、集団生活が基本の学校では、外国にルーツをもつ児童との違いが、異質なものであるとしてネガティブに捉えられることもしばしばある。入学時から多様なルーツが学級の中に混在しているため、違いは当たり前のものとして児童の中に受け入れられつつある。しかし、言葉や文化的背景の違いが障壁となり、外国にルーツのある児童のことを「お客さま扱い」し、自分と対等な存在と見做さない場面も少なからずある。マジョリティである児童らには、異なる言語や異なる生活習慣が存在する環境に身を置くことの大変さを理解し、マイノリティの児童に寄り添って共感する態度や異なる文化をもつことの素晴らしさに気付き、受容する素地を育てたい。

**【指導観】**

1年生は、発達段階的に物事を多面的や客観的に捉えることが難しい。それゆえ、文化について学習する際、ポジティブなものよりもネガティブでショッキングなものの方が記憶に残りやすくなってしまふ。異文化を自分とは異なる異質なものであるとして拒絶することのないように、本単元では、異文化のポジティブな側面や同質性、類似点などに着目して授業を展開していく。

また、ステレオタイプ的な文化理解に陥らないようにするために、児童の保護者から教わる文化については、「〇〇さんが住んでいた地域」というようにその保護者や児童に関係する特定の地域であることを強調して、伝えるようにする。日本もそうであるように、同じ国でも地域によって食文化や言葉、習慣が異なる。そのようなことも認識できるように、文化の多様性、受容し、尊重することの大切さも同時に伝えていきたい。

6. 単元計画 (全 時間)

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など	関連する教科
1	音楽で世界を旅しよう。	日本、中国、インド、ブラジル、ザンビアの楽器や音楽に親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各国の楽器や音楽に関するクイズを通して、楽器の音色や音楽について知る。</li> <li>各国の音楽やダンス映像を元にイメージを膨らませる。</li> </ul>	GoogleEarth スライド①	音楽

2～7	ダンスで世界を旅しよう	日本、中国、インド、ブラジルの音楽を体で表現する。	・日本、中国、インド、ブラジルの音楽を体で表現する。	尺八 カリンバ ジャンベ	体育
8	衣装で世界を旅しよう	各国の民族衣装の特徴や良さを知る。	・日本、中国、インド、ブラジル、ザンビアの民族衣装について、クイズを通して、知る。	スライド② 実物の民族衣装	学活
9～11	衣装で世界を旅しよう	オリジナルの民族衣装を作ることを通して、作り出すことの喜びを味わう。	・オリジナルの民族衣装を作る。 ・友達が製作した衣装を鑑賞し、相互評価を行う		図工
12	あいさつで世界を旅しよう	世界の様々なあいさつについて考えることを通して、あいさつの大切さに気づき、進んで他国の人々とのコミュニケーションをとろうとする実践意欲と態度を育てる。	・世界の様々なあいさつについて知っていることを発表する。 ・その国の人になりきって、挨拶をする。 ・教室を歩き回って、挨拶カードに書いてある国の挨拶をいろんな友達にする。	世界旅行ゲーム あいさつカード	道徳
13	歌で世界を旅しよう	世界のあいさつが歌詞になっている「世界中が友だち」を歌うことを通して、世界のあいさつの面白さに気づく。	・道徳「世界のあいさつ」の学習を想起する。 ・「世界中が友だち」の歌詞にある挨拶を練習する。 ・「世界中が友だち」を歌う。	世界地図	音楽
14～18	友達の住んでいた場所を旅しよう	外国にルーツのある友達の文化について知り、類似点や相違点に気づき、違いを良さとして認める態度を育てる。	・学級の友達が住んでいた場所の食べ物、動物、通貨・服装・学校生活について知る。 (外国にルーツをもつ子どもやその保護者を先生とする。) (インド、中国、アメリカ、フランス、ブラジルについて実施する。)	通貨 ※可能な限り具体物を用意する。	生活朝の会
19 本時	弁当からミックスプレートへ	日本で馴染みのある料理の中には、様々な食文化が融合したものがあることを知り、様々な文化が掛け合わさることの良さに気付く。	・好きな食べ物を発表する。 ・ランキングの上位が、元々は他国発祥であることを知る。 ・日系移民やミックスプレートのことを知る。 ・様々な食文化が掛け合わさることの良さを考える。	移民紙芝居 ミックスプレートの見本	道徳
16～17	料理で世界を旅しよう	自分が思い描いたミックスプレートを表現する活動に	・どんなミックスプレートを作りたいか考える。 ・色や形を考えながら、紙粘土で料	ミックスプレートの見本	図工

	世界の「美味しい」をごちやまぜ!	取り組み、表したいことを見付けたり、いろいろな色や形を考えたりしながら表現する力を養う。	理を作ったり、プレートに盛り付けたりする。 ・グループで1つのミックスプレートを作る。 ・出来上がったミックスプレートを鑑賞し、よさを伝え合う。		
18～20	遊びで世界を旅しよう	地域の人に昔から伝わる遊びを教わったり、一緒に遊んだりする中で、地域の人と関わったり触れ合ったりすることのよさに気づき、進んで触れ合い、交流しようとする態度を育てる。	・地域の人を招待して、昔から伝わる遊びを教わり、一緒に遊ぶ。 ・外国籍の保護者を招待して、出身国の昔から伝わる遊びを教わり、一緒に遊ぶ。		生活
21～22	世界の友達を日本に招待しよう	外国の人々に日本の遊びや学校生活の様子を紹介する活動を通して、日本のよさや交流することの楽しさを味わわせる。	・日本の遊びや学校生活の様子を紹介する動画を作成する。 ・外国に住む人に紹介動画を送り、交流する。		生活

#### 7. 本時の展開 (19 時間目)

本時のねらい：文化的背景の異なる人々が互いの文化の良さを認め合うことにより、文化がより豊かになり、交流が深まることに気付く。

過程・時間	学習活動 ( ) 学習形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を振り返る。(全体)</li> <li>T: 今までクラスの友達の国を学習して、運動会で踊ったり、アートフェスタで歌ったりしてきましたね。</li> <li>C: いろんな国を知れて楽しかった。</li> <li>C: その人の国のことを知れるから勉強になった。</li> <li>T: いろんなことを学習したけれど、自分と言葉や文化が違う人と仲良くなるために何かしたことはありますか?</li> <li>C: 優しくする。</li> <li>C: 一緒に遊ぶ。</li> <li>C: その国の言葉で挨拶をする。</li> <li>・日本人がハワイに移住した歴史やミックスプレートの成り立ちについて紙芝居を通して知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を想起させるよう関連する写真を提示する。</li> <li>・学級の実態に即した内容になるよう編集を加えた紙芝居を読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した時の写真</li> <li>・「弁当からミックスプレートへ」紙芝居</li> </ul>



<p>展開 (32分)</p>	<p>・日系移民と外国人労働者との交流について考える。  T：外国という知らない土地、言葉も通じない、頼れる人もいない、そんな場所で働く人々は、どんな気持ちだったでしょう。(個人→全体)  C：言葉がわからず、不安。  C：困ったな。  C：大変だな。でも頑張らなきゃ。</p> <p>T：大変な仕事をしながらも、お弁当の時間が何よりも楽しみだった千代さんや惣太郎さん。それは、なぜでしょう。(個人→全体)  C：いろいろな国の人のおかずを食べられた。  C：美味しいと言ってきて、嬉しかった。  C：おかずを交換しあっている人々の気持ちをロールプレイで考える。(ペア→一斉)  T：どんなことを言いながら人々はおかずを交換していたと思いますか？  C：それ、美味しそう。なんて言うの？  C：これ、とっても美味しい。また作ってきてよ。  T：おかずを交換しあっている人々はどんな気持ちだったでしょう。  ・自分と言語や文化が異なる人々と仲良くなるために、大切なことを考える。  T：このお話のように、言葉や文化が違う人とも仲良くなるために、あなたはどうしたらいいと思いますか。  C：その国の良いところを褒める。  C：褒めてあげる。  C：相手が好きなものを知る。  C：好きなものを分け合う。</p> <p>・本時の内容を振り返る。  ・次時の活動を知る。</p>	<p>・紙芝居の絵を時系列に黒板に掲示する。</p> <p>・個人でワークシートに記入してから、ペアでロールプレイさせる。</p> <p>・ロールプレイを行なって得た気持ちに関する気付きをワークシートに記入させる。</p> <p>・導入の発問を振り返った後に、自分の生活や今後について考えられるようにする。  ・導入の発問との関連に気づかせるような板書をする。</p> <p>・次時でミックスプレートを図工の学習で行うことを伝える。</p>	<p>・ミックスプレートの見本  ・ミックスプレートの見本の写真</p> <p>・登場人物のお面  ・見本のお弁当</p>
<p>まとめ (5分)</p>			

	<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・発言や様子の観察</li> </ul>
	<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の保護者</li> <li>・移住資料館</li> </ul>
	<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内研修に関する報告を校内 OJT 研修で実施</li> </ul> <div data-bbox="352 595 794 920" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ザンビアで購入した楽器やチテンゲの展示</li> </ul> <div data-bbox="328 1043 815 1406" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化に関する本の展示</li> </ul> <div data-bbox="331 1487 844 1870" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内での実践を行事や保護者会を通して、保護者に共有</li> </ul>

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p><b>【単元全体を通して】</b></p> <p>(1) 学年との連携          学年の3クラス全て共通の単元を学習していく上で、内容や進捗を確認、調整しながら計画的に進めた。学級担任が授業を行う場合と各担任の得意な教科を生かし、指導者を交換して授業を行う場合とに分け、学習内容に合わせてT1を変えて工夫した。</p> <p>(2) 保護者との連携          外国につながる児童が多く在籍する学級の特性を生かし、外国出身の保護者の方に自国の文化や習慣、出身地域の街の様子、人々の暮らしぶりを聞いた。4カ国の保護者の方々にご協力をいただき、そのうち1カ国の方には出前授業を行っていただいた。ご協力いただける保護者の方を見付けたり、打ち合わせの時間を調整したりすることに苦勞した。</p> <p><b>【本時について】</b></p> <p>(1) 発達段階に合わせた授業          小学校1年生という発達段階を考えながら、国内研修で得た情報を生かした授業を考えるのが非常に困難だった。ある程度想定していたものの、小学校1年生にとって「移民」や「ミックスプレート」に関して、理解することが少し難しかった。また、発達段階的に身近なことや親しみがあるものから気付きを得て「優しさ」「友情」など具体的に捉えがちな児童が多く、児童の感想がねらいからややずれたものになってしまった。抽象的に文化理解、文化交流のよさを捉えることのできる児童は少なかった。ねらいを「文化交流の楽しさに気付く」程度に留めてもよかった。</p> <p>(2) 国内研修の内容との関連性          前述の通り、国内研修の内容をどのように生かすか悩んだ。高学年ならば、研修で学んだ社会課題やそれを解決しようとする人々の取り組みなどについて社会や総合的な学習の時間を中心に展開しやすかっただろう。しかし、身近なことを遊びながら学ぶ要素が多い低学年の授業でどこまで国内研修の内容と関連付けられるか考えることに労力がかかった。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p><b>【教材の簡易化】</b>          本時では、移住資料館が貸し出している紙芝居を活用した。対象年齢が小学校高学年からということもあり、内容が難しく、小学校1年生にとって一度読んだだけでは理解が難しかった。また、様々な予備知識を必要とする内容ゆえ、所々解説を加える必要があり、情報量が多くなってしまった。事前に発達段階に即して、内容を簡略化させて紙芝居を提示したものの、理解が追いつかない児童もいた。そのため、授業前に、ハワイや移民について写真を使って説明する時間をとってよかった。</p> <p><b>【発問の具体化】</b>          抽象的な発問の場合、1年生にとってとても考えづらく、思考が止まってしまう。今回、本地の導入と展開では、児童が自分自身の生活を振り返って考えられるような具体的な発問に変更した。</p> <p><b>【体験的な活動】</b>          保護者の方に文化紹介を行っていただいた際、踊りや歌、楽器、衣装の装着、遊びなどの体験的な活動をあまり入れられなかった。学年全体での授業だったため、人数や時間の関係上、難しかった。しかし、より親しみをもって文化に触れることができるよう体験的な活動は欠かせない。授業時間内などにできなくとも、休み時間や朝の会、帰りの会などを使い、日常的に体験できるか機会を作っていきたい。</p>

<p>13. 成果が出た点</p>	<p><b>【学級内の外国につながる児童への眼差しの変化】</b></p> <p>行事と関連させながら、教科横断的かつ継続的に単元を展開していった結果、児童の意識の変容が見られた。本校では、特に第1学年において、外国につながる児童が多い。学級の児童達も、入学当初からこの状況に慣れており、様々な国の友達がいることは普通であると捉える児童が多かった。しかし、児童のふとした発言の中に外国籍の児童をお客様扱いしたり、自分達とは違うと強調したりする様子が垣間見えた。同じ学級の仲間として対等に接しきれていないところも見られた。そのような中で、本単元を実践することは大変意義深かった。授業を重ねるごとに、外国籍の児童がもつ文化的背景に興味をもち、文化の多様性や素晴らしさを実感し、「すごい。」「いいな。」「楽しそうな国。」というようなポジティブな感情が学級の中に芽生えてきた。ある日の授業で、外国籍の児童に対して「〇〇さんは、ちょっとみんなと違う。」という発言をした児童がいた。それを聞いた周りの児童は、「国や文化は違うけれど、同じ学校の同じクラスの仲間なんだから、私は同じだと思う。」「そもそも、日本人だってみんな全て同じじゃないし。違うことが悪いことじゃないよ。」「僕もそう思う。生まれた場所が違うだけで、一緒に勉強したり、遊んだりする大切な仲間の1人だよ。」と言った。たった数ヶ月の実践であったが、異なる文化を尊重しながらも、同じ学級の仲間として対等に接しようとする児童の姿が非常に嬉しかった。</p> <p><b>【外国や異文化に対する興味の喚起】</b></p> <p>単元内だけではなく、朝の会や帰りの会などでザンビアや児童に関係のある国の話題を挙げて、写真と共に紹介してきた。児童は、自然と海外のニュースに目を向けるようになった。ウクライナとロシアの戦争の話といった世界情勢の話や外食に行った時の外国の料理の話など、様々なことを休み時間に話しにくるようになった。また、同じ1年担任の日系ブラジル3世の先生に、「本にはこう書いてあるけど、本当？これ、見たことある？」と積極的に質問する児童の姿も見られた。</p> <p><b>【行事との関連や教科の横断的な学習】</b></p> <p>今回の単元では、運動会や音楽会とのつながり、そして生活科をはじめとする体育、音楽、図工、道徳などに関連付けた教科横断的な学習を行った。単元全てを通して「〇〇で世界を旅しよう」という言葉の後に児童達が「出発！！」と元気の良い掛け声と共に授業を始めた。そうすることで児童達は、「今日はどんなことをするのか。」「楽しみだな。」とわくわくしながら活動することができた。運動会では、各国のダンスに合うようなオリジナル民族衣装を作成した。実際に作る過程では、「僕は、暑い国のイメージだから太陽のマークを作る。」「私は、川や海がある国をイメージしてて、波の様子がわかるようにひらひらにする。」といったように、自分が表現したいイメージに合わせて一人ひとりがのびのびと制作活動を楽しむことができた。行事と関連させることにより、保護者の方々にも学校での活動の様子や担任のねらいがより明確に伝わり、多くの保護者の方に賛同いただけた。また、教科横断的な視点に立った単元構成により、単独教科の学習では生み出しにくい相乗効果が生まれた。複数の教科をつなぐことにより、児童の思考が深まり、様々な気付きを連続して得ていた。</p>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>(1) 運動会表現についての振り返り</p> <p>①児童の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな国の音楽に合わせて踊るのが楽しかった。</li> <li>・4つの国を本当に行って旅をしているみたいな気持ちになれた。</li> <li>・国によってリズムや振り付けが違って面白かった。</li> <li>・インドのダンスが好きになった。</li> </ul> <p>②保護者の感想</p>



- ・各国のダンスは、楽しくて踊りたくなるほどでした。
  - ・普段はあまり興味をもっていなかった国にも興味をもつようになっていました。
  - ・「ダンスで世界を旅しよう」は素晴らしかったです。人種、国籍を超えてみんな輪になって互いを尊重する姿を見て、とても感動しました。
  - ・それぞれの国にぴったりのダンスで、見ている方も楽しめました。衣装を好きな色で作ったことも楽しかったようです。
  - ・インターナショナルな時代に沿ったテーマであり、クラスの中でも他の国の友達と仲良くできて素晴らしいテーマだなあと感じました。
- (3) 外国につながる児童や保護者による文化紹介



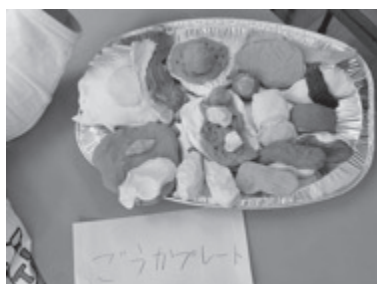
(4) 道徳「弁当からミックスプレートへ」

- ・相手のいいところ、すごいところをほめたり、「いいね。」ってお互いに認めると仲良くなれそう。
- ・言葉が通じなくても、優しく笑顔で話したい。
- ・自分の国のことを褒めてもらおうと嬉しい。相手もそうだと思う。
- ・違う国人と仲良くなるために、言葉を教え合ったり、相手の国の文化を知ったりしたい。



(5) 図工「料理で世界を旅しよう」

- ・やっぱり、自分の好きなものを「美味しそう。」と言ってもらえると嬉しい。
- ・班でみんなが好きなものを一つのミックスプレートに盛り付けたのが、楽しかった。
- ・自分が作った料理だけでなく、いろんな種類の料理があると、もっと美味しそうになった。



15. 授業者による自由記述	<p>単元を構想する際に、低学年における異文化理解や多文化共生は難易度が高いと感じていた。しかし、実践してみると、低学年だからこそできることも多いと気付いた。本校では、1年生は専科がなく、全教科を担当が担当する。だからこそ、教科横断的でダイナミックな単元構想が行いやすいことを学んだ。また、低学年は比較的、異文化への決め付けや偏見があまりなく、何にでも興味を示し、学習に対して意欲的である。さらには、授業の中に児童がやりたいと思う仕掛け作りをし、児童自身が次の活動内容を決めるということも行った。入学して数ヶ月しか経っていない彼らにとって自分達で決めたり、提案することが当たり前になり、それが習慣となる速度が早かった。後半では、担任の助けを借りながらも、やりたい内容に合わせて、どの教科で行えば良いのかを話し合えるレベルまで成長した。そのため、低学年の段階からこのような実践をすることの効果が非常に高いこともわかった。学んだことをどんどん吸収し、新たな問いを見つけて確かめようとする姿に非常に驚いた。児童たちの学ぶ力を信じ、「まずはやってみる」ということを今後も大切にしたい。そして、外国籍の児童が多い我が校の特徴を強みとして、今後も低学年における異文化理解や多文化共生への実践の重要性を校内にも呼びかけていきたい。</p>
----------------	--

参考資料：

- (1) 山田文乃 (2019) 「外国にルーツをもつ児童に寄り添った多文化共生教育実践—小学校低学年における「グローバル社旗に生きる資質・能力の育成」の可能性と課題—」『国際理解教育 vol.25』87-97 頁
- (2) 大津和子 (2014) 「日中韓でつくる国際理解教育」
- (3) 多文化共生のための市民性教育研究会 (2020) 「多文化共生のためのシティズンシップ教育実践のハンドブック」
- (4) 有田佳代子、滋賀玲子、渋谷実希 (2018) 「多文化社会で多様性を考えるワークブック」

## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	玉井 彩郁	学校名	長野県 中野市立 高社中学校
担当教科等	英語・総合	対象学年 (人数)	2年 2組 (36名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2022年12月1日～12月9日 (6時間)		

### 【実践概要】

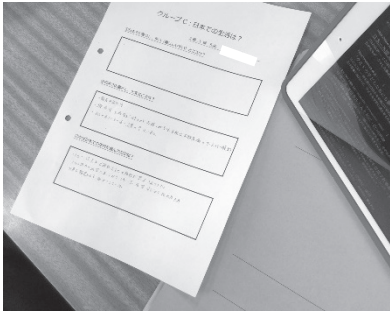

1. 実践する教科・領域：外国語（英語）、総合		
2. 単元(活動)名：クルド難民問題		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「 Share what you learn about the Kurds. 」 単元目標：国際理解・国際協力について学びを深め、身近な話題として捉えることができる 関連する学習指導要領上の目標： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際理解・協力について理解を深め、身近な課題として捉えることができる。</li> <li>・ 関連資料を読み取り、課題解決に必要な知識を身につけることができる。</li> <li>・ グループでの意見交換を通じて、課題への理解を深め、自分事として捉えることができる。</li> </ul>		
4. 単元の 評価規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書の内容を踏まえたうえで、クルド難民について、図書館やインターネットから資料を探し、自分なりにまとめることができる。</li> <li>・ 学んだことを振り返り、その知識を課題解決に結びつけることができる</li> <li>・ SDGsに関連した、日本をはじめ世界にある問題や課題を見つけ、伝えることができる。</li> </ul>
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クルドや、難民問題についてわかったことを自分たちの言葉でまとめることができる。</li> <li>・ 国際理解、国際協力において、一方的な援助ではなく、相互的な協力が重要だと理解できる。</li> <li>・ ジグソー法を活用したグループ活動で、一人ひとりが今回の単元について、理解を深めることができる。</li> </ul>
	③学びに向かう力、主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クルド難民問題に焦点をあて、生徒自らが主体的に調べ学習ができる。</li> <li>・ 相手の意見や考えに耳を傾け、受け止めたうえで、自分たちの思いを伝えることができる。</li> <li>・ 自分たちが調べたことや、クルド人大学生との対話を通して学んだこと、感じたことをまとめ、発表ができる。</li> </ul>
5. 単元設定の理由・単元の意義  (児童/生徒観、教材観、指導観)	<b>【単元設定の理由】</b> ウクライナ情勢や北朝鮮のミサイル発射、地球温暖化など世界では日々様々な問題や変化が起きている。教科書では、様々な国の歴史や文化、生活やSDGsに関わる話題なども扱われている。しかし、生徒自身が外国へ行き実際に目で見たり、国外の諸問題について当事者から話を聴いたりするという経験はほとんどない。 今回は日本とトルコの関係についての学習から始まり、現在のクルド難民問題につなげていく。 生徒には国際理解・国際協力の視点で、一方的な援助だけではなく、お互いがどのような援助を必要としているのか、そのニーズを知ったうえで相互的な協力が必要ということに気づいてほしいと思い、この単元を設定した。	


	<p><b>【単元の意義】</b></p> <p>世界には支援を必要とする国や人々が多く存在している。しかし、支援をする側が一方的に活動を行っている場合も少なくない。お互いに必要としている支援、ニーズを知ることや、その地域自体を知ることによって生徒一人ひとりの国際理解の第一歩につなげてほしいと願う。</p> <p><b>【児童／生徒観】</b></p> <p>本学級の生徒は、世界で起きている問題や話題を遠い外国のことだと捉え、自分たちにはあまり関係がないことだと考える生徒が多いように見える。</p> <p>また、SDGs の活動に関連して何か支援を考える際、『してあげる』という考えを持つ生徒が多いように見受けられる。</p> <p>英語の授業では、積極的な発言がみられ、言語活動や個人・グループワークに積極的に取り組む姿が多く見られる。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>授業では、個人・グループの疑問や意見・考えを大切にしながら、活動中も生徒の発言を積極的に拾うよう心がけている。</p> <p>また、文法説明や教科書の内容理解など、インプットの授業のあとは、ペア・グループで活動を行い、身につけた知識をアウトプットできるような時間を設けている。</p> <p>本単元では、ジグソー法を用いて知識をアウトプットすることで、より深い知識の定着を図る。</p> <p>生徒同士の対話の時間を多く設け、一人ひとりの考えや意見を拾いやすい環境を作る。</p>
--	--

6. 単元計画 (全 6 時間)

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	国際理解・国際協力ってなに？  世界の課題を知ろう  (英語)	教科書の物語を読み、感想や考えを共有し、トルコを始めとする他国や世界情勢について関心をもつことができる。  国や民族同士で協力することでより良い世界が作れる半面、多くの課題があることに気づく。 関連して、ウクライナ情勢、北朝鮮のミサイル発射、環境問題など、世界にある様々な問題に気づくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“What did you think about this story?” 教科書の物語 「Friendship beyond Time and Borders」を事前課題として読み、感想、考えたこと、気づいたことなどを共有する。</li> <li>・“What kind of country is Turkey?” “What kind of problems are there in the world? What problem do you know?” 教師の 2 つの問いかけに対し、自分たちの知っていることを発言する。</li> <li>・トルコに関連して、クルド難民という問題について資料を見ながら学習を進める。</li> </ul>	教科書 Reading2 「Friendship beyond Time and Borders」  トルコに関連した写真 世界の様々な課題に関連した写真



<p>2～3</p>	<p>What kind of people are the Kurds? (英語)</p> <p>ジグソー法でクルド難民について理解を深めよう! (総合的な)</p>	<p>前時で学んだクルド難民について振り返り、その内容も踏まえながら調べ学習をすることができる。</p> <p>グループごとの調べ学習を通して、クルド人とはどのような人々か、難民とはどのような人々かなどについて理解を深めることができる。</p> <p>情報共有がしやすい A/B、C/D間で中間課題に取り組み、各テーマにはつながりがあることを確認する。</p>	<p>①前回の学習内容も踏まえ、クルドの人々について生徒個人で考えてみる。 (書籍等も参考にする。)</p> <p>②グループ (A～Dの4つのエキスパートチームに分かれ、テーマごと調べ学習を行う。)</p> <p>A: 難民とはどのような人々? B: クルド人の国はどこ? C: 日本での生活は? D: トルコやクルドの文化は?</p> <p>↓エキスパートチーム用ワークシート</p>  <p>↓エキスパートチームでの活動の様子</p>  <p>③2グループごとに中間課題に取り組む。</p> <p>《A/B テーマ: 国土を失ったクルドの人々はどのように生活しているのか》 《C/D テーマ: クルドの文化を守りつつ、日本で生活する上で困難なこと》</p> <p>↓中間課題に取り組む様子</p>	<p>各参考資料</p>
------------	--	--	--	--------------

		<p>中間課題で出した考えや、エキスパートチームで得た情報を基に最終課題に取り組むことができる。</p>	 <p>④ホームグループに戻り、全体の課題解決に向けた話し合いを行う。  <b>《最終課題：私たちにも可能な支援とはなにか》</b>          ⑤活動の中で、疑問に思ったこと、調べても分からなかったところをまとめる。</p>	
4～5	<p>大学生への質問を考えよう          (英語)</p>	<p>相手の現状や気持ちに配慮した質問や話し方を考える。</p>	<p>①ホームグループごとに、クルド人の大学生にどんなことを質問したいか考える。          ②各グループ1つは聞けるようにする。          ③質問の仕方を練習する(話し方・代表者など)</p>	<p>生徒が考えた質問の中でNGな内容のものがあれば、適宜声掛け・指導していく。</p>
6	<p>クルドの人々について理解を深めよう。          (英語)</p>	<p>実際にクルド人大学生と対話をし、彼らの現状について知る・理解する。</p>	<p>①クルド人大学生からの話を聴く。          ②グループ1から、順番に質問をしていく(ほかのグループの質問中は静かに聴く。          ③話を踏まえ、たうえで、ホームグループでもう一度最終課題に取り組む。  <b>《最終課題：私たちにもできることは?》</b></p>	
7. 本時の展開 (6時間目)				
過程・時間	<p>教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態</p>		<p>指導上の留意点(支援)</p>	<p>資料(教材)</p>
<p>導入(5分)</p>	<p><b>【導入】</b>          ・ホームグループに分かれ、活動の流れを聞く。          『グループ1から質問し、終了後に各グループで再度まとめをしてください。』          ・自分たちの考えた質問などを再確認。          ・大学生へ挨拶。</p>		<p>本時の流れについて、生徒たちに確認を十分行う。</p>	

展開 (25分)	【展開】 ・大学生からの話を聴く。 ・最後に質問があるグループは順に質問していく。		大学生講師が用意した資料(PPT)
まとめ (20分)	【まとめ】 ・実際に聞いた話・資料から読み取ったことを踏まえて、再度グループ内で情報をまとめる。 ・最終課題《私たちにできることはなにか?》に取り組む。 ・授業の振り返りシートを記入。 今回の授業を通してわかったこと、学んだことを記入する。		ワークシート (感想記入用紙)

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

《グループ活動での評価》

- ・自分の意見を持ちつつ、他者の意見や考えを尊重できるか。
- ・探究活動（ジグソー法）における友人との関わりの中で、共に考えることの良さに気づき、協力して課題解決に取り組んでいるか。
- ・最終課題において、答えのない問いに対し、グループで考え意見交換ができていくか。

《個人での評価》

- ・ワークシートの記述から、生徒の理解度や意欲・関心について評価する。
- ・今回の授業では、答えのない問いについて考える機会が多くあるため、記述内容だけではなく、生徒一人ひとりが「なぜそう考えたのか」という理由も含めて評価する。

9. 学習方法及び外部との連携

- ・クルド文化教室
  - ・JICA 東京
- 来年度は学校内でもクルド人を始めとした難民問題、日本や世界の課題について学習する機会を増やしていきたい。  
国際理解教育担当の先生と連携しながら、今後どのような形で学習を進めていくか話し合う。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

教員のための SDGs 研修授業実践報告会の実施

【自己評価】

11. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容と研修で得た知見を関連付けた授業づくり</li> <li>・クルド難民問題について、どのように導入するか</li> <li>・クルド人や難民問題についてどのくらいまで掘り下げて扱うか</li> <li>・ジグソー法を用いた学びあいを使用するワークシートの作成</li> </ul>
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クルド難民について、もう少し学びを深める時間が必要だった。</li> <li>・本時では、授業者との Zoom 接続の問題により、生徒と授業者の質疑応答の時間を十分にとることができなかった。</li> </ul>
13. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クルド難民について、生徒一人ひとりが理解を深め、自分たちにどんなことができるのか、何をすべきなのか考えることができたこと。</li> <li>・生徒たちが自ら学習を進め、疑問や考えを共有するなど、主体的な活動にできたこと。</li> <li>・学習を進める中で、生徒の『気づき』が生まれ、それをグループ内で共有したり、それを疑問にし、次の学習につなげたりしていたこと。</li> <li>・当事者から実際に話を聴くことで、生徒一人ひとりがより身近な話題として捉えることができたこと。</li> <li>・生徒の感想から、クルド難民についてどう考えたか、人権とは何か、自分たちができることは何か、相手が求めていることは何か、など想像以上に生徒たちの思考が広がったこと。</li> </ul>

14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

最終課題 1 回目『私たちにも可能な支援とはなにか』の記述では、募金や物資の支援をすると書く生徒が多く見られた。

- ・募金する。
  - ・難民として受け入れてあげる。
  - ・古着や使わなくなったものを送ってあげる。
  - ・難民としてではなく、1 人の人間の人権を保護するという形で受け入れる
  - ・まずは彼らの現状について知り、一緒に解決策を考え、それを周りにも伝えていく。
- 生徒記述より—

最終課題記述（1 回目）

メリット、デメリットをふまえた中でのたいはくも考える。受け入れてくれる国は少なかった。その間に、難民を保護する仕組みを作る。それが、難民申請のルールを申請しやすい。

人としての人権を守り保護する。  
 難民としてではなく、国から差別された人として、人権を守るという形で保護する。

・募金  
 ・国に声をあげる  
 ・ボランティア → 日本語を教える  
 → おたがいの文化や料理  
 ・古着がわりわりに  
 ・寄付 → お金、古着  
 ・難民についての勉強をして  
 一緒に解決策を考えたり、  
 いろいろなトピックスを  
 して、何を伝えなければ  
 ならないのかを 知って  
 もらって 1 人でも多くの人か  
 行動を起こすように  
 していくこと。  
 その行動もみんなと話を して、いいかを 考えて たくさんの人に 伝えてもらう。

最終課題 2 回目『私たちにはできることはなにか』では、大学生講師の話聞いたうえで課題に取り組んだ。その中で、募金など形ある支援も大切だが、クルド人の人々の現状を知ることや交流すること、1 人の人間として接することが彼らの願いであることに気づいた生徒が多く見られた。

- ・どんな支援が必要か相手に聞く。
  - ・お互いの国の文化を知る。
  - ・クルドの人たちと交流する場をつくる。
  - ・難民問題や入管について、もっと多くの人に知ってもらう。
- 生徒記述より—

多文化理解・共生



最終課題記述 (2回目・大学生講師から話を聞いたあと)

- ・9さんの言っていたように、ケルトの人たちと仲良くする。
- ・食料や経済的なことも支援する。
- ・ケルトの文化に触れてみる。
- ・お話を聞いて、今の日本の現状を受け止める。

話を聞いて、改めてこの課題解決のために何ができるのか考えてみよう！

対象より交流する話合い。ケルト人などの草履の人たちと重く話し合おう。話し合い  
た。日本のことをもっと知ってもらえるような会を開いてみた。文化の面で交流  
あう。自分たち以外にも、1.3年など多くの人たちに、日本でケルト文化のよ  
な人たちがいることをおしえた。

- ケルトの人たちとの交流
- ケルトの人たちに話しかける
- お互いの文化を学ぶ。
- 日本語を教える

生徒の感想より

「この授業を通して学んだこと・わかったこと・感想」

自分たちが毎日のようにご飯を食べて、学校に行っているそのことをあたり前だと思っていたけれど、クムト人の人たちがめたいに、自分たちが出来ているあたり前のことがあたり前に出来ないう人たちがいるとわかった。このことを忘れておきたい。

「この授業を通して学んだこと・わかったこと・感想」

デニスさんの動画を見て、リタさんのお話を聞いて、人権は誰にでもあるものだよとかいうのはどこに行ったらと思う。おこ矛盾しているかと思った。私の姉も、日本の難民認定は厳しいとか言っていて、本当にその通りだなぁと思った。この学習を通して、難民として日本にやってくる外国人は、母国にも帰れず、不安な生活を日本で送っているということから。

時でも、入籍などに入らな、厳しい処分を受けたりしている人がいる。そして、その人たちは、自由とはいいない環境で生活している。仮放免で働けたり、でもお金がないと生活できない。この授業を通してそういうことを知った。そもそも、クムト人と違う人々を知らなかった。自分たちができることが、クムト人の生活を知らず、難民の見方と、それに対する日本の見方が180°であった。でも、そんな中でも、楽しみなから日本と交流し、生きているので、クムト人はとても強い人たちだと思った。生活の中で、自分たちが、こういう生活をできているのは普通のことではないとわかったし、他の人(クムト人)たちが、苦しい生活をしているとした。もっと多くの難民が、差別を受けてきた人たちへの支援ができることを考えたり、実行してみたい。クムト人以外の難民のこともしたい。

15. 授業者による自由記述	<p>今回、クルド難民というテーマについて、生徒がどこまで関心を持ってくれるか不安な部分があった。しかし授業が始まると、自分たちで主体的に学習し、クルドの文化や彼らの歴史、生活、現状など多角的に知ろうとする姿が見られた。</p> <p>授業の最後には、募金や物を送るなど、なにかを支援するだけではなく、『お互いのニーズを確認することが大切』『まずは知ることから始めるべき』という考えを持つ生徒もいた。今回の学習全体を通して、生徒一人ひとりが、国際理解・国際協力のあり方を知り、より身近なものとして捉えられたのではないかと思う。</p> <p>今後は、クラスや学年だけではなく、学校全体で学び、考えを共有し、自分たちにはどんなことができるのか一緒に考えていきたい。</p> <p>最後に、私自身も多くのことを学ぶことができました。研修に参加させていただき、本当にありがとうございました。</p>
----------------	--

使用した教科書・単元名：SunShine「Friendship beyond Time and Borders」

参考資料：

ジョン・キング『世界の先住民②いまはわたしの国といえない』（1995年）

小林 正典『難民が生まれるのはなぜ？』（2002年）

ロム・インターナショナル『ニュースの意味がまるまるわかる 世界の民族・宗教のこと』（2004年）

坂本 勉『新版 トルコ民族の世界史』（2006年）

滝澤 三郎『難民を知るための基礎知識』（2017年）

山口 昭彦『クルド人を知るための55章』（2019年）

木下 理仁『国籍の？がわかる本 日本人ってだれのこと？外国人ってだれのこと？』（2019年）

乾 英理子『論創ノンフィクション011 クルドの夢 ペルーの夢—日本で暮らす難民・移民と入管制度—』（2021年）

授業で使用したワークシート

グループA：難民とはどのような人々？

組 番 氏名 \_\_\_\_\_

①難民とはどんな人たち？

②難民の人々はどこにいるの？

③日本に難民はいるの？

グループC：日本での生活は？

組 番 氏名 \_\_\_\_\_

①日本での暮らし、良い（暮らしやすい）ところは？

②日本での暮らし、大変なことは？

③なぜ日本での生活を選んだのかな？

グループB：クルド人の国はどこ？

組 番 氏名 \_\_\_\_\_

①クルド人は国を持っている？

②もともとはどこに住んでいた？

③現在はどこに住んでいるの？

グループD：クルドの文化、なにがある？

組 番 氏名 \_\_\_\_\_

①クルド人の人々の生活は？

②食べ物や伝統品はある？

③言語はなんだろう？

## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	松村 駿	学校名	群馬県 私立 ぐんま国際アカデミー 中等部
担当教科等	国語	対象学年(人数)	7年 A組 (23名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2022年 9月 ～ 11月 (15時間)		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域： 国語・総合	
2. 単元(活動)名：多文化共生～世界に生きる私～	
3. 授業テーマ(タイトル)と単元目標 授業テーマ：「構成を工夫することによって、様々なアイデンティティをもつ人々の視点への気付きや共感に対する(読者との)コミュニケーションを深めることができる。」 単元目標 スキルベース：①意味段落の役割を理解し、自分の意図に応じて段落を付けられるようにする(読者に自分の主張が効果的に伝わること) ② 主張に対する根拠を明確にして述べる ③ 序論・本論・結論に正しく分けられるようにする 概念ベース：① 「自分自身」という存在に対する理解を深める ② 多様な文化で生きるために <u>必要なこと</u> を考え、自分なりに結論付ける 関連する学習指導要領上の目標：筋道立てて説明する力を養い、自分の思いや考えを確かなものにするようにする。	
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能 (1)ウ：語句の量を増やすとともに、語感を磨き語彙を豊かにすること
	②思考力、判断力、表現力等 ・意味・形式段落の役割を理解し、文脈と意図に適した形で使用している ・自分の意見や考えを読者に伝えるために、第三者の視点を踏まえて根拠を適切に記述している ・文章を序論・本論・結論の三つに、適切に分けられている
	③学びに向かう力、人間性等 ・(国籍に縛られず)異なる考えを持つ人たちを様々な視点を持って見ようとしている
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、	<b>【単元設定の理由】</b> ・SDGsを学ぶための一歩目として、本単元を作成した。 <b>【単元の意義】</b> ・SDGsやその他社会課題について知り、行動するための土台となる「自分自身」に対する理解を、書くことを通じて深めていく。



指導観)	<p><b>【児童／生徒観】</b></p> <p>当校ではイメージ教育を導入しており、全教員の約半数が外国人ということもあり、海外の文化を身近に感じながら日々を過ごしている。学年の中には、外国籍を持った生徒や、海外での生活年数が豊富な生徒が何名かいる。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>本単元は、スキルベース、概念ベースと二つの目標を基に進めていく。</p> <p>スキルベースでは、書き言葉で構成を意識して書くこと、概念ベースでは、多様な視点から「自分自身」について考えを深めることが目標になっている。</p>
------	--

6. 単元計画 (全 時間)

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1~2	基礎理解	単元、教材などの基礎理解	<p>導入：発問①「自分と異なる背景を持つ人たちにかかわった時、その人たちに対して嫌な気持ちを抱いたことはありますか？ また、それに対しどのように対処しましたか？」</p> <p>・教材の「はじめに」と、p 1 2 ~ 2 4 を読む</p> <p>→ (基礎理解のため) ワークシート穴埋め</p>	<p>ワークショップ資料</p> <p><b>『ふるさとして呼んでもいいですか？ ~6歳で「移民」になった私の物語~』</b></p> <p>→この本(随筆)をテキストとして使い、単元を進めていった</p>
3~4	文化とは①	アイデンティティや文化について考える	<p>p 8 6 ~ 9 1 を読んだ後、p 1 1 1 ~ 1 1 3 を読み、「文化」とは、また、人が持つ「違い」について考える</p> <p>→Google slide, Pear deck を使い、皆の考えを共有する</p>	
5~7	文化とは②	アイデンティティや国籍、文化について考えたことを論述する	<p>p 1 6 6 ~ 1 7 0, p 1 7 6 ~ 1 8 0 を読み、国籍とは何か、またそれがあることによる利点、欠点を考える</p> <p>→共有し、違いと向き合いながら考えを深める</p> <p><b>課題①</b></p> <p>文化とはどのようなものか。自分の考えを述べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意味段落の分け方</li> <li>・序論・本論・結論の分け方</li> </ul>	

8~9	偏見とは① <b>本時</b>	偏見について考える	p 1 2 7 ~ 1 2 9 を読む <b>発問</b> ：自分が持っている「大多数の何か」に対する偏見を挙げてみましょう(人に限らずモノ、動物、国でも ok) →共有し、人が偏見を持つ際の共通点は何か考える。
10~12	偏見とは②	偏見について考えたことを、構成を意識して論述する	p 1 7 2 ~ 1 7 6 を読む 発問：人は自分にとってどのような人、モノ、コトに対し偏見を持つのだろうか →共有し、違いと向き合いながら考えを深める  <b>課題②</b> 人はなぜ(どのようにして)偏見や差別意識を持つのだろうか。自分の考えを述べましょう。 ・意味段落、形式段落の違い ・主張を強調させるための根拠の述べ方 ・主張に対する根拠の示し方
13~15	最終課題	学んだこと、考えたことを言語化し、構成を意識して論述する	・多文化社会において、様々な背景を持つ人たちと生きていくうえで自分自身が重要だと感じる考え方について述べましょう。

7. 本時の展開 (8時間目)

本時のねらい：

- ・「偏見」の本来の語義と、私たちが日々使う文脈の中での「偏見」という言葉について見つめ直す。
- ・また、生徒内で偏見を持った経験、持たれた経験を共有し、「私たちはどのようなときに偏見を持ってしまうのか」について考える。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
-------	----------------------------	-----------------	---------

<b>導入</b> (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 偏見に対するイメージを自由に書く</li> <li>・ 偏見、ステレオタイプ、差別の違いを確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例を自分から2つほど共有する</li> </ul>	オンライン掲示板
<b>展開</b> (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験談を共有する</li> <li>①自分が持っていた偏見</li> <li>②「実際は～～だった」ということを〇〇を通じて知った</li> <li>③何があったか、詳しい説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ①②③と一つずつ、出てきた回答の幾つかに対してコメントし、他者の視点、経験を得られる機会にする</li> </ul>	<b>【Pear Deck】</b> をグループスライド内に用意しておき、生徒たちはそこへ打ち込む。  本活動内の書く作業は、手書きではなく、スライド <b>【PearDeck】</b> へ打ち込む。
<b>まとめ</b> (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「私たちはなぜ偏見や差別意識を持ってしまうのか」について考えたことを共有し、自分なりの考えを持つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6人グループに分け、最初の数分は各自で考え、それらを共有し、更に考えを深める</li> </ul>	

8. 評価規準に基づく本時の評価方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時では、評価対象となる活動はない。</li> </ul>
9. 学習方法及び外部との連携 他者との共有、大泉町の紹介
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 次年度以降もアイデンティティについて国語科で扱う予定。

**【自己評価】**

11. 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学一年生に「アイデンティティ」や「文化」について自発的に考えるための問いを用意すること</li> <li>・ 途中途中で、どこか「教員側が答えてほしい回答」を求めてしまうことがあった。その際は単元の目的や評価規準をそれぞれ何度も読み返した。</li> <li>・ パソコンとプリントの両立。特にパソコンに打ち込む際は、その文言をプリントに書くべきかどちらでも構わないか、それぞれ明確にできていない場面が幾つかあった。</li> </ul>
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問いに対して生徒各自考え、その考えが発展した後、ディスカッションをする場をもう少し多めに設けるべきであった。</li> <li>・ 問いを出してから、生徒たちがなるべくつまづかないよう試行錯誤して問いを作成していたが、敢えてつまづかせる問いを用意してもよかったのではないかと強く感じている。</li> </ul>
13. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元、各課題内でのゴールを明確にしたことで、振り返りをした際、新たなスキル、視点や考え方を得られたと実感している生徒が多数いた</li> <li>・ 生徒たちの考えを匿名で全員が見られるようにしたところ、頭を抱え、真剣に問いに対し考える姿勢を見せる生徒が心なしか普段より多く見受けられた。</li> </ul>

課題①：文化とはどのようなものか

14. 学びの軌跡  
(児童生徒の反  
応、感想文、作文、  
ノートなど)

一般的に文化とは、各国に存在する「概念的な文化」と、世界中の一人ひとりに存在する、それぞれの「個人的な文化」として分けられると思うが、私が考える文化とは、個人の信条が存在すると考えている。つまり、文化とは、個人個人が自分の信条を持って守っているものだと考える。

ナデイ(テキスト内登場人物)の国では、国民のほとんどがイスラム教を信じており、その中で服装が原則として決められている。女性は長袖長ズボンを履き、髪の毛を隠すのは絶対である。

学校内でも、スカーフを被っている外国人を見たことがある。彼女の国で定められた原則であり、守らないといけないという信条があるからだ。それに比べて日本では、たとえ半袖半ズボンの服装でも自由だったこともあり、初めてそのような文化を持つ人を見たときは、少し偏見のな視点を持っていた。

しかし、今回、各国には一つひとつ違う文化があり、文化を守っているということは、自分の信条があるからだと思っただけだ。それについて私は、二つの疑問点がある。

一つ目は、ナデイは、小さい頃、イスラム教について何も気にせずに、周りの生徒達と同じ様にしてきたのにもかわらず、どうして彼女が成長していくに連れ、気にするようになったのか、ということだ。

ナデイの国の人々が守っているからという影響もあると思うが、その他に、ナデイ自身の信条が芽生えていたのではないかと考えている。それは、彼女が成長していく過程で段階的に作られたものだと思う。

私も、同じような体験をしたことがある。小さい頃は、何も気にしていなかったことを、成長するに連れて、気にするようになったのだ。成長の過程で、色々な経験を積み重ね、沢山のことを学んだことで、今では他人に左右されるのではなく、自分自身の信条で何かをするようになったのだ。これと同じ様に、ナデイが自分で正しいと思っただけのことをするようになったのだと考える。

とはいえ、わざわざ日本に来てまでその原則を守らなくても大丈夫では無いかという疑問が湧くであろう。実際、その決まりを守らなかつたところで、それを咎める人もいないはずだ。

だが、自分の信条として考えているものは、どこにいてもどんな時でも、守らないと気がすまない気持ちになると思うのだ。なぜならそれは、私が実際に、自分の信条に対して、同じような感情を持っているからだ。

例えば、私は人の悪口を言えない。それは、誰かに対して、罪悪感を感じているからだ。悪口を言うことは、自分がどこに居ても、どんな時でも、自分が言おうと思えば物理的には可能なことだが、ナデイと同じように私が信条と考えているものに対しては、何かもやもやするような不満な感情が芽生え、どうしても出来ないのだ。

つまり、概念的な文化や個人的な文化には、どちらも個人の信条が存在し、自分の信条として考えていることは、段々と自分の経験を積み重ねる過程で出来上がったと分かった。個人の信条は、他人に左右されたものではなく、自分自身が作り上げたものであるため、他人が出来たとしても、自分はなかなか出来ないものだと考える。



## 最終課題：多文化社会において様々な人たちと生きていくうえで自分自身が重要だと感じる考え方について述べましょう。

様々な人種や文化、環境などを自分や身近なものと比較せずに尊重し合うことが多文化社会において様々な人たちと生きていくうえで最も重要だと感じる考え方だと私は考える。

そのように考えた理由は二つあり、これから例を用いて詳しく説明していく。

一つ目は、人々は特定の二つのものを比較することによって偏見や差別意識を持つていると考えているからである。

人々がなぜ偏見や差別意識を持つているのだからとよく考えてみると、それは疎遠なものを身近なものと比較しているからというところが共通点として挙げられる。そのように比較するからこそ、人を偏つめるような偏見や差別が多く生まれる。ここで、男女差別と言語差別の例を用いて詳しく説明する。

男女差別とはその人が持つ性別によって差別を受けることである。男女差別として世界中で大きな問題となっているのが男女間での教育格差である。アフリカ大陸の国々では、「女子は家庭の仕事をするため、教育は必要ない。」という差別が長らく続いていて、今でもその差別が残っている。これにより女性就学率は男性就学率を大きく下回っている。この差別は、男子と女子を比較することによって、将来、どちらが高い地位に就けるかによって男女間の差別を生んでいる。次に言語差別の例を用いて説明する。

言語差別とは言語の違いによって生まれる差別や不平等のことである。外国人に対するいじめは言語差別である。

日本で起こるいじめを例に説明する。日本語を喋ることのできない人を見ると、日本人は自分のほうが有利な地位にいると思ひ込み、結果的にいじめに繋がる。卑劣な言葉を投げかけられ、暴力なども起こる原因となる。これは言語差別であると同時に一種の人種差別でもある。日本語を喋れる人と日本語を喋れない人を比較して、自身の中で地位向上をして、日本語を喋れない人に対していじめなどといった差別をしている。

男女差別と言語差別という二つの例のように人々は特定の二つのものを比較する傾向があり、それが偏見や差別意識を生んでいるのだ。だからこそ、様々な人種や文化、環境などを自身や身近なものと比較しないようにすれば、偏見や差別意識が生まれることはなくなるのだらうと考えた。

二つ目は、そのような考え方が多文化社会において様々な人たちと生きていくために一番早く実行できるからである。現在、多文化共生社会を実現するために様々な国や自治体が様々な活動を行っている。ここでも国や自治体が行っている活動や支援を例として用いて説明する。

日本の政府は外国人向けの生活支援や日本語学習支援など、人種差別や言語差別などと言った内面から与えられる差別をなくそうと取り組んでいる。近年、日本の大学などでも外国人が入学するための「特別選考」という枠が設けられている。これらの背景にあるのは疎遠なものと身近なものを比較せずに、お互いを助け合っているということである。

しかし、これらは全て内面から与えられる差別や偏見をなくするための取り組みだと言える。政府や自治体は外見から与えられる差別や偏見をなくするために何かに取り組むというだけではできない。なぜなら、それは私達の勝手な思い込みによってできあがっているものだからである。お互いを尊重し合うことは強制されてできるものではない。

そのため、自分たちが意識的に行うことが必要となってくる。一人ひとりが疎遠なものを身近なものと比較しないようにして、尊重し合うことは意識的に行えば、誰でもできるものであり、国や自治体が動くよりも早く実行できる。

多文化共生社会を実現させるためには私達人間が一人ひとり意識的に尊重し合うことを頭に入れて生活する必要があるのだ。

これまでに多文化社会では比較せずに尊重し合うことが大切だという考え方の理由を二つ説明した。近年、差別に対して多くの人が考えを持つようになり、差別をなくすために色々な行動が起こっている。

しかし、世の中には未だに様々な差別が残っており、それらに共通して言えるのは疎遠なものと身近なものを比較しているということだ。また、それをなくすために多くの人や国、自治体などが動いているが、一番早く解決できる方法は私達一人ひとりが意識的に比較せずに尊重し合うことである。

様々な人種や文化、環境などを自分自身や身近なものと比較せずにお互いを尊重し合うことが多文化社会において様々な人たちと生きていくうえで最も重要な考え方である。

15. 授業者による 自由記述	<p>今回の研修に参加させて頂き、自分自身何度も何度も向き合う場面が多くあった。参加前の自分を振り返ってみると、「SDG s」や「多文化共生」など、聞いたことはあったが、実際そこにどのような人がどのような想いをもって関わっているのか、想像することすら難しく感じていた。しかし、今回の研修で実際に現場へと足を運び、そこで生きている人の生の声、叫びを聴くと、言葉にならない感情に押しつぶされそうになると同時に、「これが知るといことだ」と大事なことを再確認できた素晴らしい機会となった。</p> <p>やはりSDG sなど、社会問題について授業内で取り扱ううえで重要となってくるポイントは「いかに自分事として捉えるか」であると考えている。</p> <p>そのように「自分事化」を生徒の中に現象化させるには、自分がその姿勢を見せ続けることと、そういったことを考える機会を日常から多く設けることが大事なのではないだろうか。</p> <p>前述したとおり、本単元で多文化共生について考える機会が終わったのではなく、本単元をファーストステップとして、次年度以降も積極的に取り組んでいきたい。</p>
--------------------	--

使用した教科書・単元名：

参考資料：

①著者、ナディ 解説、山口元一

ふるさとって呼んでもいいですか～6歳で「移民」になった私の物語～ 大月書店

②著者、佐藤真久 広石拓司

SDG s 人材からソーシャル・プロジェクトの担い手へ みくに出版

※ 過去の本研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどを  
JICA ホームページに掲載しています。是非ご覧ください！

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>

## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	遠藤 大輔	学校名	東京 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 0 2px;">都</span> ・道・府・県 立板橋有徳高等学校
担当教科等	論理・表現 I	対象学年（人数）	1年5組（35名）
実践年月日もしくは期間（時数）	4年12月13日（火）～20日（3時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：外国語（英語）		
2. 単元（活動）名：Trouble and Accidents		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「多文化共生 through SDGs」 単元目標：地域に住む外国人と共生するために必要なものについて考え、SDGsとの関連について学ぶ。 関連する学習指導要領上の目標： (3) 書くこと イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構造や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	「多文化共生」のために自分たちができること、取り組んでみたいことについて、助動詞 <b>can</b> や <b>should</b> を使いながら、英語で論理的に書ける。
	②思考力、判断力、表現力等	聞いたり読んだりして得た情報を活用しながら、「多文化共生」のために自分たちができること、取り組んでみたいことについて英語で論理的に書ける。
	③学びに向かう力、人間性等	「多文化共生」について自分の意見を英語で書き、相手に伝えられる。また相手の意見を読み、理解しようとする。
5. 単元設定の理由・単元の意義  (児童/生徒観、教材観、指導観)	<b>【単元設定の理由】</b> 国際化が加速する今日生き方や価値観は多様化し、私たちの生活環境も大きく変化している。数年のうちに社会に出る高校生も「多文化共生」の考えを持ち、他文化の特長を認め、互いに有機的に結びつきながら自分が暮らす地域や国を発展させなければならない。今回の授業では高校生が「多文化共生」を「自分事」として捉えられるように学校の所在地である東京都板橋区とも関連を持たせる。生徒は板橋区を観光地・居住地として見たとき外国人にはどのように映っているか資料から分析し、問題の解決方法について話し合う過程で自分たちにできることについて考える。最終的に「異文化に対する想像力」と「多文化共生の考え方」を習得し、「多文化共生」に向かうことがSDGsの目標達成と関係していることに気付くことができると考えこの単元を設定した。	

	<p><b>【単元の意義】</b></p> <p>観光客のレビューを英語で読んだり、「多文化共生」のための問題解決に向けた提言を英語で書いたりする活動を通じて、自分とは異なる文化で育った人たちの行動や考え方に対する想像力を身に付け、「多文化共生」の重要性を認識することができると思う。</p> <p><b>【児童／生徒観】</b></p> <p>助動詞can/shouldを含む基本的な英語について理解している生徒が多いが、英語が苦手な生徒も多い。授業中の活動には積極的に参加する生徒が多い。ジグソー法での授業には慣れていないが、持ち前の積極性を発揮してほしい。</p> <p>都心に近い学校のため、生徒の生活圏に外国出身者も暮らす環境にあるが、「多文化共生」の考えを十分に理解している生徒は少ない。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>生徒が「多文化共生」を「自分事」化できるように、今回は彼らが暮らす東京を外国人にとっての観光地・居住地として考えてみる。生徒の生活圏の話題を入り口にして生徒にとって馴染みある内容にし、またジグソー法で活発なグループワークを行うことにより、生徒全員が積極的に授業に参加できる環境を作りたい。</p>
--	--

6. 単元計画（全3時間）				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	旅行先のレビューを投稿しよう	日本の観光地に対する外国人と日本人の捉え方の違いを理解する	外国人観光客から見た各観光地の評価について調べ、改善策を考える。 ジグソー法を用いることで問題解決に向けた意見交換を活発に行い、テーマに対する考えを深める。	1班3名 観光地： ①伏見稲荷大社 ②富士山 ③秋葉原
2 本時	外国人と暮らそう	外国人住民と共生することについて考える	「多文化共生」をテーマに外国人住民と暮らす際に起こった問題についてその背景を知り、解決策を考えて提案する。 ジグソー法を用いることで問題解決に向けた意見交換を活発に行い、テーマに対する考えを深める。	・在留外国人が多い市区町村（訪日ラボ） ・課題文 （『外国人集住団地—日本人高齢者と外国人若者の“ゆるやかな共生”』岡崎広樹から）
3	外国人と共生しよう	事例から外国人と共生する具体的方法について考える。 また、共生を目指すこととSDGsとの関連を考える。	「多文化共生」ためには何が必要かについての自分の考えを、前時で学んだ事を活かしながらまとめる。 自分の考えは助動詞のcan/shouldを適切に用いて英訳し、3学期のスピーチコンテストにつなげる。	自治体 HP（川口市、板橋区）



7. 本時の展開

本時のねらい：外国人と暮らす際に起こる問題についてその文化的背景を考える活動を通じ、文化や宗教によって1つの事実に対する考え方は多様だがこのことを互いに理解し尊重し合うことが重要だと気付かせたい。授業を通じ、生徒が「異文化に対する想像力」と「多文化共生の考え方」を身に付けることを目標とする。

2 時間 目(本時) 過程・ 時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	1 外国人に人気の移住地TOP10を推測する。	・パワーポイントで スライド投影する。	在留外国人が多い市区 町村(訪日ラボ) ①埼玉県川口市 ②東京都新宿区 ③東京都江戸川区 ④東京都足立区 ⑤東京都江東区 ⑥東京都板橋区 ⑦大阪市生野区 ⑧東京都豊島区 ⑨東京都大田区 ⑩東京都世田谷区
展開1 (5分)	■プレ 本日のテーマ「多文化共生」を発表。  2 「「多文化共生」のためにはどのような工夫が必要か」という問いについての自分の考えをワークシートに記入する。	・ワークシート  ・現時点での考えを そのまま書く。	
展開2 (15分)	3 課題文を読む。(事前に配布済み)  ■ジグソー(1) 4 課題文から読み取れる3つの問題を確認する。  ■エキスパート 5 3つの問題について、どのような問題か、なぜ日本人住民との間でもんだとなったのか考える。(事実確認、原因) ①ごみ問題 ②騒音問題 ③におい問題	・ジグソー法  ・ワークシート ・課題文から読み取った内容について話し合っているか。適宜話し合いを促す。 ・全員が情報を得ているか ・「共生すること」を意識させる	・課題文 (『外国人集住団地——日本人高齢者と外国人若者の“ゆるやかな共生”』岡崎広樹から)
展開3 (10分)	■ジグソー(2) 6 この3点の問題がどのような問題だったと思われるか、考えを共有する。 (One picture)	・ワークシート ・エキスパートで得た情報を共有できているか。	

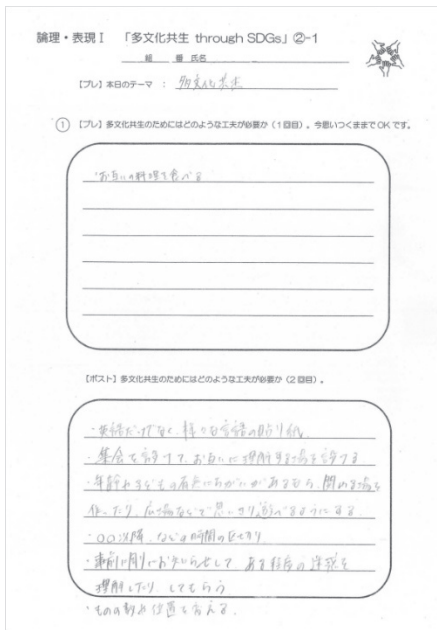
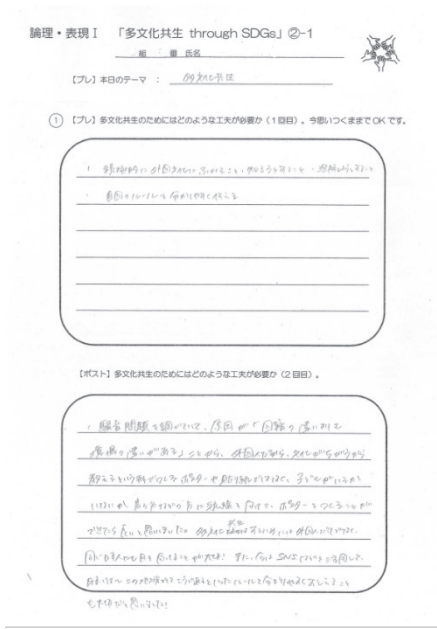
<p><b>展開 4</b> (10分)</p>	<p>■ジグソー(3) 7 解決するためのアイデアを出し合う。</p>	<p>・ワークシート</p>	
<p><b>展開 5</b> (5分)</p>	<p>■クロストーク 8 ジグソー活動で出たアイデアを発表し、クラス全体で共有する。共有したアイデアは、ポスト活動の参考にする。</p> <p>■ポスト 9 「多文化共生」のためにはどのような工夫が必要か」という問いについての自分の考えをワークシートに記入する。</p>	<p>・他班の発表をメモするよう促す</p> <p>・プレからの変容が明確になるワークシート</p>	

<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <p>①知識及び技能：助動詞 <b>can/should</b> を適切に使い、自分の考えを英語で論理的に書ける。(ワークシート)</p> <p>②思考力、判断力、表現力等：聞いたり読んだりして得た情報を活用しながら、自分の考えを英語で書ける。(ワークシート)</p> <p>③学びに向かう力、人間性等：グループワークに参加し、仲間と協働しながら目標達成に向けて意見を言える。(観察、振り返り)</p>
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>学習方法：個人端末、ジグソー法</p> <p>外部との連携：JICA 出前講座</p>
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間を活用した <b>SDG s</b> 講演(1年次)</li> <li>・論理・表現 I の担当教員全員での <b>SDG s</b> 関連授業実施</li> </ul>

**【自己評価】**

<p>11. 苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間授業計画との整合性(時期、内容)</li> </ul> <p>本研修に参加することを決めた時点で年間の授業計画は決まっており、時期的にも時数的にも <b>SDG s</b> や国際理解教育に関する授業を追加で行う余地はなかった。また内容的にも教科書の内容と必ずしも合致しているわけでもなく(とって関連のない内容を扱う時間的な余裕もなく)、関連を持たせることに苦勞した。</p> <p>今回は同じ授業を持つ先生方の理解と協力を得ることができ、2学期期末考査後に3時間授業実践を行うことができた。内容については3学期に予定されているスピーチ活動の一部とすることで関連性を確保した。</p>
------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグソー法による授業実践 今年度は英語コミュニケーションなどまとまった量の英文を読ませる授業を担当していないためジグソー法を使っておらず、生徒にとっては初めての経験だった。3時間と時数が限られるため、授業直前の答案返却後にジグソー法による授業形態について説明した。</li> <li>・授業の導入 教科書の内容との関連が希薄ななか、生徒に「なぜ今、これを学習するのか」理解してもらう必要があった。3時間の導入部分において教科書との関連を示すと同時に授業の目的及び多文化共生についての私自身の考えを明確に伝えることを重要視した。また、授業内容にスムーズに入れるように、生徒の興味関心を高める導入を行おう、と準備に時間をかけた。</li> </ul>
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間との関連 本校は国際理解教育を教育の柱の一つに据えており、総合的な探究の時間を中心に時数が確保されており、JICAの出前授業も活用させてもらっている。また私自身もSDGsと国内の難民について高校1年生に話す機会をいただいている。これらの取り組み内容と時期を本研修の授業実践と有機的に組み合わせられれば、生徒は国際理解についての理解をより効果的に深められる。</li> <li>・ジグソー法の習熟 ジグソー法による授業を8年ほど前から実践している。関連の本を読み、生徒をアクティブにすることに難しさを感じている先生方と取り組んできたが、今年度は実践できる授業を担当していないため機会を失っていた。今回はエキスパート活動において生徒間のコミュニケーションを促さなかった（1時間目には促したのに）など、私自身が習熟していない面が出た。継続的に授業を行い、研修などで新たな視点を取り入れる必要性を感じている。</li> </ul>
13. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の変容 プレとポストにおいてテーマについて率直な意見を書かせた。結果として多くの生徒に大きな変容を見ることができたのは成果の一つだと言える。東京に暮らす彼らにとり、異文化に触れることはそう珍しいことではない。しかし、「多文化共生」を軸に日常を見てみると、今まで見えていなかった問題点や関係を築くことの難しさに気づく。 今回の授業で生徒は自分の日常を新しい角度で見つめ、問題点を発見し、解決方法を考えた。自由に発想してもらい、みんなで実現可能な解決方法について考えられた。新しい視点を持た、とまでは言えないかもしれない（そのためには継続的に授業を行い、考えを深めることが必要）が、今までとは少し違う考え方ができるようになればな、と思う。</li> <li>・知らなかった一面 ジグソー法の授業に取り組むことによって、「この生徒はこんなに話せるんだ」「こんなに楽しそうに話すんだ」とこれまでの授業で見ることができなかった一面を見ることができた。</li> </ul>

<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反 応、感想文、作文、 ノートなど)</p>	<p>・プレとポストで書かせたワークシート</p> <p>①</p>  <p>②</p>  <p>テーマは「多文化共生のためにはどのような工夫が必要か」とした。授業前(プレ)は「多文化共生」の説明を聞いても具体的に思い浮かぶ場面がないため書けることが少ない。授業で具体的な場面について学び、授業後は解決方法まで考えられている。予想よりも活発な話し合いが行われたため、解決方法について自由に発想させた後、「その解決方法をどのようにして行うか」に注目させ、実現可能な解決方法について考えた。</p> <p>「罰則を与えればいい」「日本のルールに従うべきだ」など高校生らしい(?)意見も少なからずあるなかで、「みんなで守れるルールをみんなで作る」という意見や②のように「異文化対日本人」という枠組みを越えて考えられる生徒もいた。</p>
<p>15. 授業者による 自由記述</p>	<p>提出期限最終日にこの報告書を必死に書いているほど時間的な余裕がなく、研修に参加したことを少し後悔したこともありましたが、でも、夏の視察研修で見た私には新しい世界、授業実践で得た先生方からの協力、生徒の新しい一面は研修に参加したからこそ得られたもの。今後の教員生活の道しるべです。JICA スタッフの緻密な計画と気遣いと行動力に感謝します。</p>

使用した教科書・単元名：be English Logic and Expression I Lesson15 Troubles and Accidents

参考資料：『外国人集住団地——日本人高齢者と外国人若者の“ゆるやかな共生”』岡崎広樹

訪日ラボ

※ 過去の研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどを JICA ホームページに掲載しています。是非ご覧ください！

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>



## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	富澤 喜一	学校名	東京都立 荒川工業 高等学校 定時制課程
担当教科等	現代社会	対象学年 (人数)	3年A・B組 (5名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2022年7月 ～ 12月 (14時間)		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：現代社会				
2. 単元(活動)名：世界の難民問題・多文化共生社会について				
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：「 移民・難民とは 」 単元目標：多文化主義の重要性を理解させる。世界の難民の現状と課題解決を考察する。 関連する学習指導要領上の目標：よりよい社会の実現を視野に、現代の諸問題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現在社会に生きる人間としての在り方や生き方についての自覚や公共的な空間に生き、国民主権を担う公民として自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。				
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	人種問題でアパルトヘイト廃止などを例に理解している。戦争・紛争で難民国内避難民が生じることを理解している。		
	②思考力、判断力、表現力等	パレスチナ問題で歴史的な背景を踏まえてなぜ解決が難しいのかを考察している。どのような援助を必要とされているかを協働的に考察・構想しそれらを適切に表現している。		
	③学びに向かう力、人間性等	よりよい社会の実現を視野に多文化主義について学習したことを日常生活で他者との関係に生かそうとしている。		
5. 単元設定の理由・単元の意義  (児童/生徒観、教材観、指導観)	<b>【単元設定の理由】</b> 日本という島国に暮らす高校生にとって国籍や難民問題など身近な事ではないと感じる傾向にあるが本当に身近な事に気付いてほしいため。 <b>【単元の意義】</b> グローバル化する国際社会を学ぶにふさわしいと考える。 <b>【児童/生徒観】</b> 真面目な生徒たちで大人しい面もあるが、お互いに切磋琢磨しながら個人だけでなく全体で伸びようとする底力がある。 <b>【指導観】</b> 大変ノリがよく、教員が指名する前にしっかりと自分たちで考えようとする。少し難問に当たると固まってしまう生徒も中にいる。			
6. 単元計画 (全 10 時間)				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	異文化理解	開発途上国の生活・文化を通し「異文化理解」を深める	JICA 出前授業	ジンバブエ共和国派遣「岩崎健太郎」外部講師の先生による授業
2	国際理解	世界の原産国と流通を通して日本との繋がりを学ぶ	カードを使って日本へ輸入されてくる品物と国名や国旗、場所などゲームを通して学習する。	「モノはどこからきているの」カードゲーム

3	国際協力 JICA と SDGs	平和を維持するためには人権保障や生活の安定平時の努力が必要	JICA について学ぶ SDGs を通して国際社会を学ぶ 「バナナペーパーができるまで」	「SDGs のうた」 「未来への分岐点」 NHK 放送の録画 JICA 東京バナナペーパー
4	国際政治の成立	国際政治の主体が、主権をもつ国家であること	国家の三原則など	ワークシート
5	国際社会と国際法	国際政治の変化 領土問題	北方領土問題や尖閣諸島、竹島について領土問題の歴史的背景などを学び考える	教員が ICT を操作して日本の領土問題を取り上げ説明する
6	国際連合	国際組織のネットワーク	平和を維持するためには人権保障や生活の安定など紛争が起こらないように平時の努力が求められる	ワークシート
7	冷戦終結	東西対立と関係変化 ソビエト連邦の解体	冷戦構造がもたらした戦争・紛争について学習。1980 年代後半からの関係変化と東西ドイツ統一・ソビエト連邦解体	ワークシート
8	不安な世界	冷戦がもたらした負の側面を知る	多発する民族紛争に対して世界がどの様に対処するべきか考える	ワークシート
9	地域大国の台頭と多極化する世界	近年の国際状況を展望する	大国の思惑は何か。混迷を極める中東地域の現状を理解する	ワークシート
10	人権問題の展開	人種問題は民主政治確立や基本的人権が保障されていても起こる	差別を生み出した構造を歴史的に理解させ、国際社会の圧力などがこれらの問題解決を導いたことを理解する。	アパルトヘイト政策撤廃について
11	人種・民族問題	ナショナリズムにどのような問題があるか	現在の難民問題・民族問題を考える 事前課題プリント	情報番組 ワイドスクランブル録画映像
12 本時	移民・難民問題	マイノリティ 多文化共生 アイデンティティ	前時の内容を振り返って事前課題について確認する。○×クイズ問題を通して一人ひとりが移民・難民について考える。	○×クイズ問題 振り返りシート
13 本時	移民・難民問題	世界と日本の難民問題	今後どのようにしていく事が望ましいのかをブラッシュアップして発表する。	○×問題 振り返りシート
14	人権問題	多文化共生 人間の安全保障 人権	移民難民問題に対する日本の対応 日本で暮らすクルド民族について	映画 『マイスマールランド』

<p>7. 本時の展開（12時間目・13時間目 連続授業）</p> <p>本時のねらい：クラス全体での話し合いや個人の発表を聞くことを通じて自分ひとりでは考えただけでは浮かばなかったアイデアや考え、そして多様な見方や意見がある事に気付かせる。</p> <p>移民・難民について普段考えなかったこと、触れなかったことを考えて理解、発表の場をつくる。</p>			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
<p><b>導入</b> (10分)</p> <p><b>展開</b> (25分)</p> <p><b>まとめ</b> (10分)</p>	<p>前時までの振り返り、課題の取組状況の確認</p> <p>「難民」「国籍」についての「○×問題」をクイズ形式で確認する。</p> <p>「国籍」「難民」について考えをまとめ発表する</p> <p>それぞれの考えについて話し合いをする</p> <p>世界の民族や宗教、文化も尊重する姿勢をもつことが問題解決へとつながること忘れない。</p>	<p>民族の区別と国境は一致しないことを確認する。身近に問題があることを考えさせる。</p>	<p>○×問題ワークシート</p> <p>○×うちわ使用</p> <p>パワーポイント</p>
<p><b>導入</b> (10分)</p> <p><b>展開</b> (25分)</p> <p><b>まとめ</b> (10分)</p>	<p>「日本にいる難民について考えてみよう」</p> <p>個人ワーク</p> <p>5枚のエピソードシートをランダムに配りひとりずつ個人で読み込み、生徒一人一人が自分の考え・感じたことなどをワークシートへ記入</p> <p>全体共有 解説 ふりかえり</p>	<p>問 日本にはどのくらい難民がいるのだろうか</p> <p>机間巡視のなかで生徒一人ひとりに声掛け</p>	<p>ニュース映像を観て考える</p> <p>エピソードシート</p> <p>日本にいる難民ワークシート</p> <p>振り返りシート</p>
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法 国際社会では難民問題が生じていることを理解している 失敗を恐れずに積極的な意見を考えて発表することができる 他者の意見を聞き入れながら協調し個人の意見も持っている</p>			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業は普段触れることが少ない国籍等についても触れる</li> <li>・移民・難民問題中心に考えて国際理解、国際協力を考える</li> </ul>			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <p>東京都地理教育研究会、歴史教育者協議会などでの発表</p> <p>【自己評価】</p>			
11. 苦労した点	<p>テーマを絞り込むために2学期の「国際社会」をしっかりと学び、そのうえで日々変化の連続で現在、起きている現代社会の問題について考えさせる。</p> <p>また、こちらが与えたテーマよりも生徒たちが自主的にと取り組みたいと考えることを取り上げたいと考えてニュースを録画するなど工夫をした。</p>		
12. 改善点	<p>5人が5通りのエピソードシートを読み発表をしたが、ジグソー法などを用いた話し合いをもっと深くできないかと考え、改善・改良していきたい。</p>		

13. 成果が出た点

○クイズ問題を用いて間違いでもよいので自分の意見を述べさせることで心理的にもウォームアップとなった。  
エピソードシートを読んだのちに発表に移った際、自然と積極的な意見が出る結果となったこと。意図して○クイズ問題から導入することを活かせることができた。自由に意見を述べながらも常にお互いに配慮をして、発表する順番を教員の指名でなく、生徒たちが考えた上で発表のバトンを次につなぐ思いやりを自然とおこなうことが成果としてあらわれた。

日本にいる難民 ワークシート

私が読んだのは ティンロン さん (出身国は ミャンマー) です

①その方はなぜ、故郷を離れなければならなかったのでしょうか？

民主化運動に参加していたら、政府軍が仲間たちをつかまえていっているから 身の危険を感じ タイへ出国のちに日本へ。

②その方のエピソードで印象に残ったことは何ですか？

印象に残った言葉もわからないのは、大変。家族の事を考えて、つぎをどうするか悩んでいるのに、難民申請をしないといけない。難民申請を申請して難民認定を受ける。

③もし自分や自分の家族が同じような境遇になったらどうしますか？  
何がいちばん大変だと思いますか？何があったら助かると思っていますか？

その国に逃げた後、その国にはよき言葉がなくて、言葉が通じないこと。

④その方のエピソードから、どんなメッセージを受け取りましたか？

日本にいる難民 ワークシート

私が読んだのは アンナ さん (出身国は カンボジア) です

①その方はなぜ、故郷を離れなければならなかったのでしょうか？

17歳の時に、親を失った。その後、カンボジアで生活していたが、戦争の影響で、家族を失った。逃げることに決めた。

②その方のエピソードで印象に残ったことは何ですか？

難民というプロセスがあることに驚いた。それは、自分たちが差別を受けていることを認めること。

③もし自分や自分の家族が同じような境遇になったらどうしますか？  
何がいちばん大変だと思いますか？何があったら助かると思っていますか？

外国という新しい環境に慣れることが大変。言葉が通じないこと。

④その方のエピソードから、どんなメッセージを受け取りましたか？

人は差別を受けることがある。差別の被害に遭う人は、それを受け取らなければならない。

日本にいる難民 ワークシート

私が読んだのは アリス さん (出身国は シリア) です

①その方はなぜ、故郷を離れなければならなかったのでしょうか？

家族が殺された。親を失った。生き残ったのは自分だけ。

②その方のエピソードで印象に残ったことは何ですか？

難民申請を申請して、難民認定を受ける。

③もし自分や自分の家族が同じような境遇になったらどうしますか？  
何がいちばん大変だと思いますか？何があったら助かると思っていますか？

難民申請を申請して、難民認定を受ける。

④その方のエピソードから、どんなメッセージを受け取りましたか？

日本にいる難民 ワークシート

私が読んだのは マリア さん (出身国は シリア) です

①その方はなぜ、故郷を離れなければならなかったのでしょうか？

政府軍が困窮していた家族を助けるために、政府軍の側で働いていた。政府軍の側で働いていたため、家族を助けた。

②その方のエピソードで印象に残ったことは何ですか？

Warfare (戦争)。

③もし自分や自分の家族が同じような境遇になったらどうしますか？  
何がいちばん大変だと思いますか？何があったら助かると思っていますか？

逃げた後には、その国で生活することが難しい。

④その方のエピソードから、どんなメッセージを受け取りましたか？

戦争は、命を奪う。戦争は、命を奪う。戦争は、命を奪う。

日本にいる難民 ワークシート

私が読んだのは ソフィア さん (出身国は シリア) です

①その方はなぜ、故郷を離れなければならなかったのでしょうか？

民主化運動に参加した。政府軍に捕らわれた。

②その方のエピソードで印象に残ったことは何ですか？

難民申請を申請して、難民認定を受ける。

③もし自分や自分の家族が同じような境遇になったらどうしますか？  
何がいちばん大変だと思いますか？何があったら助かると思っていますか？

難民申請を申請して、難民認定を受ける。

④その方のエピソードから、どんなメッセージを受け取りましたか？

民主化運動に参加して、命を失った。

14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

JICA 東京「出前授業」から始まり、国際社会に興味関心が芽生えて、現代社会に起こっている問題点に真剣に着目して考えることができるように変化・成長した。  
～生徒感想文～  
『命の危険にさらされ、難民として他国へ逃がれている人たちは民主化運動に参加





が問題を発見して解決する能力を養うことを自然と実践している。移民難民や平和など国際問題の中でも取り上げられるが、一人ひとりの自由を互いに承認し合う感性や価値観を育むことが授業で微力であるが実践出来たと自負している。



使用した教科書・単元名：「最新 現代社会 新訂版」実教出版

参考資料：書籍

「未来の授業 SDG s ダイバーシティBOOK」(監修：佐藤真久 宣伝会議)

「国籍の？がわかる本」(著：木下理仁 株式会社太郎次郎エディタス)

「日本で生きるクルド人」(著：鴫沢哲雄 ふなのもり)

「クルドを知るための55章」(編著：山口昭彦 明石書店)

「親子で学ぶSDG s」(著：バウンド 寄与者：岩附由香 扶桑社)

「図録 SDG s と仏教展」(著：本門佛立宗 京都佛立ミュージアム)

「難民に希望の光を 真の国際人 緒方貞子の生き方」(著：中村恵 平凡社)

「トルコ民族の世界史」(著：坂本勉 慶應義塾大学出版会)

「開発教育 基本アクティビティ集2 難民」(開発教育協会)

「ある日の入管」(著：織田朝日 扶桑社)

参考資料：映像資料

映画「マイスマールランド」

NHK「SDG s のうた」 「未来への分岐点」

TBS「情報番組 ワイドスクランブル」

## JICA 教師研修 学習指導案

### 【実践者】

氏名	山岸 洋一	学校名	私立大森学園高等学校
担当教科等	地歴公民科	対象学年 (人数)	1年普通科1組 (13名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2022年9月 ~ 11月 (10時間)		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：公共 現代社会の諸課題		
2. 単元名：転生したら多民族国家の首長だった件について～多民族国家経営シュミレーション～		
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：調べ学習・ポスターセッションを通した「多文化」・「他文化」理解 単元目標：「民族」「国家」の違いに出会い、違いの中でどう生きるかを考える。  関連する学習指導要領上の目標： (1) 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。(「公共」の目標)		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国家」の中の「民族」という概念を理解できたか。</li> <li>・自分が調べた多民族国家の概観への理解を深めたか。</li> </ul>
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家経営シュミレーションの中でどのような情報が必要かを自分で考え、ポスター作製の際に適切な取捨選択 (編集) が出来たか。</li> <li>・ポスターセッションの際に、聴き手を意識した表現が出来たか。</li> </ul>
	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家経営シュミレーションの中で、国家経営や多民族国家で生きることを自分事として捉えることが出来たか。</li> <li>・ポスターセッションの聴き手として、1つでも学ぼうとする意識を持ったか。</li> </ul>
5. 単元設定の理由・単元の意義  (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>「公共」という他人の集まる空間について考える科目を扱う際の具体例として、大きな公共空間である「多民族国家」が適切ではないかと考えた。他国の文化を知る際に座学だけでは教授できる情報に限界がある為、各個人の調べ学習・ポスターセッションを通したプレゼンにより多くの国家について触れる機会が設けられると考えた。タイトルに関しては生徒への伝わり方、インパクトを考え設定した。転生 (生まれ変わる) という言葉で、「あなただったらどうする?」というイメージを与え、少しでも国家とのかかわり方の自分事化を図ろうと考えている。様々ご意見はあると考えるが「真面目にふざける (楽しむ)」を本実践者がモットーとしている為、許して頂ければ幸いである。</p> <p>また、JICA 東京による夏季教員研修のテーマの1つであった「多文化共生」への取り組みに感化され本単元を設定した。</p> <p><b>【単元の意義】</b></p> <p>外国人労働者の受け入れには積極的である一方で、難民受け入れのハードルの高いねじれを持つ日本の中で生き学ぶ中で、様々な民族が共存・共生している国家を調べ思考することで、生徒の視野が広がるのではないかと考えた。</p> <p>また、生徒ごとに調べる国家を変えポスターセッションを行うことで他人の脳を借り、1人で調べるよりも新しい知識を得られるはずである。</p>	

	<p>【児童／生徒観】</p> <p>本校1年普通科1組は国立コースとして設定されている。進学・学習・教養に対して他クラスと比べ前向きである。担任や各科目の教員がグループワークやプレゼン等の実践を多く行われており、表現力もある程度養成されている。</p> <p>【指導観】</p> <p>1学期では科目の特性である「公共」という空間について知り、考えた。SDGsという概念には触れており、夏期課題ではSDGsに関する壁新聞、2学期ではSDGsに関連するおすすめ本を選び本の帯を作成した。</p> <p>次単元で取り上げる日本への考え方を深める為に、他国の視点を理解させたい。</p> <p>また、本校の中で一番高い偏差値帯である国立コースという点も鑑みて、ポスターセッションと通した表現力や、「もし首長だったら…」という視点を持った調べ学習からリーダーシップの養成を図りたいと考える。</p>
--	--

6. 単元計画 (全9時間)

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 ～ 2	研修報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本実践者の研修報告を通して、「多文化共生」という概念や国内の実践者を知る。</li> <li>・「スタディツアー」という切り口の旅行があることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「講演会をどう聴くか」という設定で、自分なりの聴講メモノートを作成する。</li> <li>・質問や自分の気づき等もメモをとる。</li> <li>・国内の旅行会社にある「スタディツアー」探し、概要をまとめる。</li> </ul>	研修先で撮影した写真を利用したスライド (keynote)
3	政治学の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家や人権等の政治学の基礎を理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義用ワークシートを用いながら、必要なメモをとる。</li> </ul>	本実践者作成プリント
4	国家を持たない民族を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人種・民族・国籍の違いを理解する。</li> <li>・クルド人の現状を知る。</li> <li>・前単元の人権保障が当たり前ではないことを知る。</li> <li>・多民族国家である国を調べることで、多民族国家の多さに生徒自身で気が付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義用ワークシート作成で概要を知る。</li> <li>・多民族国家を自分で調べる。</li> </ul>	本実践者作成プリント 公共教科書 (教育図書) 本実践者作成プリント JIIAHP 『日本で生きるクルド人』 鍋沢哲雄
5	多民族国家カナダを知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多民族国家の在り方を理解する。</li> <li>・カナダの多民族共生政策の概要を知る。</li> <li>・後に自分たちでも調べ学習をすることを意識する機会とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人種のるつぼ」と「サラダボウル」の違いなど、多民族国家に関するキーワードを調べ、まとめる。</li> <li>・多民族共生の問題点・対策を想像し、グループでアイデアを出し合う。</li> <li>・実際の対策を知り、問題点がないかを考える。</li> </ul>	本実践者作成プリント カナダ大使館HP

6	調べ学習ガイド ンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元の概要・ルール設定などを理解する。</li> <li>・ルール設定のブラッシュアップにも生徒が参加することで、本単元を自分事と意識する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人、各グループで本単元での意義や問題点を考え、生徒間、教師間でブラッシュアップを行う。</li> </ul>	本実践者作成プリント
7 ～ 9	「転生したら多民族国家の首長だった件について」 調べ学習・ポスター作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習により担当国家の概要を知り、理解を深める</li> <li>・情報収集力、編集力・表現力を鍛えながら、1つの作品を作り終えた経験を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が取り上げる多民族国家を決める。</li> <li>・図書室の本やiPadを利用し、情報を集め、編集する</li> <li>・ポスターを作成</li> <li>・プレゼン内容を考える。</li> </ul>	模造紙・各種文房具 iPad など情報収集が可能なもの
10 本時	ポスターセッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターセッションによるプレゼンで自分の表現力を知る。</li> <li>・他人のプレゼンを聴くことで知識の幅を広げたり、表現方法のヒントを得たりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターセッションプレゼン、他人のプレゼンの評価</li> <li>・調べ学習、ポスターセッションのフィードバック、まとめ</li> </ul>	

### 7. 本時の展開（10時間目）

本時のねらい

- (1) ポスターセッションにおけるプレゼンを通して、自分がどこまで理解し表現出来たかを知る。
- (2) いくつかのプレゼンを聴くことで多民族国家に関する知識を増やし、深める。

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	①挨拶、点呼 ②ルール、本時の流れの確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者は相手がいることを意識すること、聴講者は質問を考えながら聴くことを伝える。</li> <li>・失敗しても仲間同士で助け合う空間を作ることを伝える。</li> </ul>	本実践者作成 keynote 評価シート

<p>展開 (35分)</p>	<p>① クラスを A～F 6 班に分け、ABC はプレゼン班、DEF は聴講班となる、</p> <p>② プレゼン班は教室 3 か所のプレゼンブースに自分のポスターを貼り準備。</p> <p>③ 聴講班は各プレゼンブースへ移動、聴講。各ブース 3 分半でプレゼン、質問。次のブースへ移動…を繰り返す。</p> <p>④ ブースへの移動の時間に評価シート入力時間を作る。</p> <p>⑤ セッション 2、ABC が聴講班、DEF がプレゼン班としてプレゼン・聴講を行う。</p>	<p>・プレゼンごとに前向きな声掛けを行うこと</p> <p>・スムーズな流れになるように促すこと</p> <p>・設定時間は動きを見ながら微調整する。</p>	<p>ポスターセッションの動き、流れを keynote で表示する。</p> <p>聴講者は Google フォームの評価シートを入力しながら聴講する</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>・まとめフィードバックシートの記入</p>	<p>・個人のフィードバックは次回までの課題とする</p> <p>・見学者がいれば、一言感想を頂く。</p>	

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・知識及び技能：定期試験で出題、基本的知識をもったかを確認する。
- ・思考力、判断力、表現力：作成したポスター・プレゼンが聴講者を意識しているか、ルールの範囲内で作成されているか。
- ・学びに向かう力、人間性：ポスター作成時の動き、締め切りを守れるか。  
フィードバック用のワークシート作成

9. 学習方法及び外部との連携


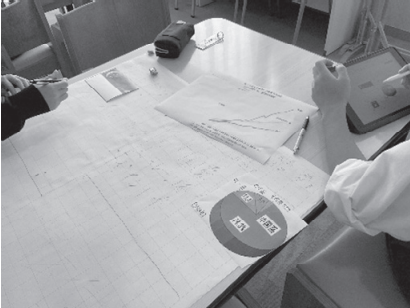
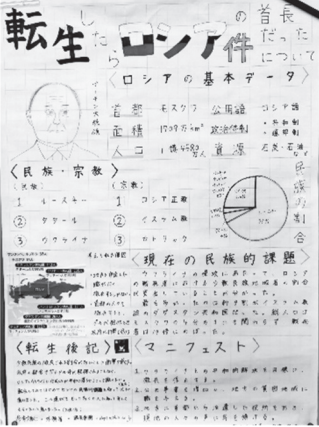
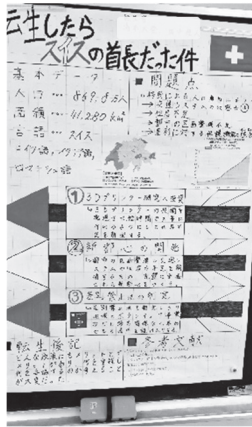
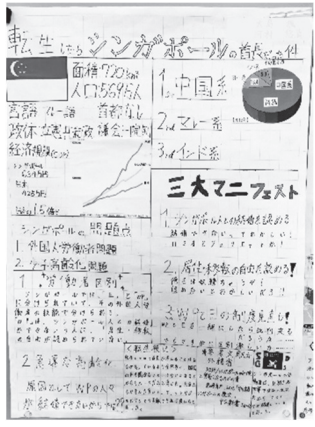
- ・学習方法
  - ① 座学とグループワークの切り替え、目的等を分かりやすく伝える。
  - ② 教室は間違える場所、何を話してもいい場所であることを強調し心理的安全性を高める。
  - ③ 各座学の授業を本実践者のプレゼンだとし、ポスター作成、プレゼン方法のヒントを与える。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・職員会議での本実践者の研修報告
- ・学年集会での本クラスでの実践報告（来学期検討中）
- ・夏期課題（壁新聞）や SDGs おすすめ本の帯づくり、本時発表のポスター掲示により他生徒の目に触れる様にする。
- ・校内における本時研究授業



【自己評価】

<p>11. 苦労した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校作成シラバスとどこまで結びつけるか。・予備知識をどこまで教授するかを取捨選択。</li> <li>・調べた情報の羅列にならずに、どう自分事に近づけるか（故に自分が経営するなら…というシミュレーション形式とした。）</li> <li>・「あなたならどうする？」というアイデアを出すための、方法論をどこまで教授するか。</li> <li>・2人1組でのポスター作成となった為、生徒間の能力差やコミュニケーションを円滑に進めるための声掛けをどこまですべきか。</li> </ul>
<p>12. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時までの単元計画に内容を詰め込み過ぎた。</li> <li>・事前学習で私からの講義だけではなく、当事者からの出前授業等を計画すべきだった様に思う。</li> <li>・時間割の都合上実施できなかったが、他クラスや他学年から聴講者を出したかった。多文化共生・多民族国家の授業であるのに、内向きな実践であったように感じる。</li> <li>・年間を通した計画、科目・教科全体での計画、学年や学校全体を巻き込んだ計画と少しずつ規模を大きくできたらと考える。</li> </ul>
<p>13. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「多民族国家」「難民」などの関連用語が実践クラス内での共通語となった。</li> <li>・国家経営の簡単なシミュレーションをした為、政治分野へ興味関心を高められた様に感じる。</li> <li>・ペアでのポスター作成により普段コミュニケーションをあまりとらない生徒同士がアイデアを出し合う姿が見られた。</li> <li>・研究授業後、ポスター掲示後に興味をもってくれる教員等からお声掛け頂く機会が増えた。</li> </ul>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iPad のノートアプリでレイアウトやデザインの下書きをする生徒や、締め切りを最重要視しすぐに模造紙での作業を始める生徒もいた。各ペアの個性を把握できる側面もあった。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>・生徒作成ポスターの一部抜粋</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>

	<p>【実践後の生徒の感想抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少数民族に対する考え、批判を受けても少数民族ならどうにかなるかなと思われてしまうところが難しいと思った。果たして意識しようとしてその考えは変わるのか。</li> <li>・どの国も差別に関する問題があり、少数民族への差別をなくすことは難しい。</li> </ul> <p>▷多民族国家の経営の問題点や困難さは実感できたような感想が多かった。その先の共生への具体策や他国の成功例、研究事例等の紹介・検索までに至る時間が足りなかったように感じる。</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>SDGs や多文化共生などの用語は勿論知っており授業でも取り上げてはいたが、どこか教科書・ネットの世界の中の話…という付き合い方であった。それが授業中でも自分自身の違和感となり、生徒への伝わり方も弱かった原因の1つであった様に感じる。それを少しでも変えたいという動機で国内研修に参加した。研修参加後興味関心のアンテナが増え、百聞は一見に如かずという言葉の本質を知った。研修期間中の様々なキーワードが授業をつくる際の切り口の1つとなり助かっている。この学びを私だけのもので終わらせず、あらゆる切り口を生徒のものにするために（ポスターセッションという形が本当に正しかったのかも含め、）何が必要かを考え実践していきたい。最後にこの研修や実践の機会を下さった JICA の担当者の方々や研修に協力して下さった各地の方々、実践に協力してくれた本校生徒・教職員、この報告書に目を通して頂いているあなたに感謝の意を表したい。どこかで恩返しが出来たらと考えている。</p>

使用した教科書・単元名：高等学校 公共 現代社会の諸課題

参考資料：JICA・JIIA・外務省HP等

## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	五ノ井 ゆかり	学校名	埼玉県立入間わかさ 高等特別支援学校
担当教科等	外国語	対象学年（人数）	1年A・C・D・E組（40名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2022年10月～11月（12時間） 本時 11月1日（火）13:30～14:20 1-C 11月2日（水）8:55～9:45 1-E 11月10日（木）11:55～12:45 1-A 11月10日（木）13:30～14:20 1-D		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：外国語（コミュニケーション）		
2. 単元(活動)名：社会で居心地よく暮らすためのコミュニケーション力をつけよう！		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「皆が仲良く暮らせる社会を作るため、初めて会った人へ自然に声をかける」 単元目標：生徒が卒業後社会の中で幸せと感じられる居場所を作るために、初対面の人に話しかける方法を学び、外国人・高齢者にもわかりやすく日本語で話せるようにする。 関連する学習指導要領上の目標： 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）外国語の音声や文字、語彙、表現、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気づくとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に着けるようにする。 学習指導要領と本授業との関係： 本校の生徒は、日本語・外国語（英語）ともに言語活動を苦手とする者が多い。外国語は毎回の授業で読む・聞く・書く・話す学習をしている。それ以外にも外国人講師を招いて講師の出身国の文化について学習したり、講師と言葉を交わしたりする授業を取り入れている。生徒は就労のための実習で外国の方と一緒に働くことも多い。その場合、会社内で使う言語はほとんど日本語である。生徒が学習している英語が得意でない外国人もいる。今回は、仲良くなるための最初の一言を課題とし、コミュニケーションの手段として日本語を取り上げている。生徒が会社内で、外国人ともその他の人々ともコミュニケーションがうまくできれば、会社の中での居心地がよくなり、就労した場合仕事を長く続けていくことができる。生徒のニーズを考え、初めて会った人への日本語での自然な声のかけ方を学ぶ。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めて話す人への自然な声のかけ方を理解し、声をかけることができる。</li> <li>相手によって、話す言葉を選択することができる。</li> </ul>
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>困っている人に適切に声をかけ、助けることができる。</li> <li>相手に配慮し、どう話したら分かりやすいか考えながら話すことができる。</li> </ul>
	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表の課題が与えられたときには、グループで協力しあい、役割を配分し、聞く人が分かりやすい発表をすることができる。</li> </ul>

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義</p> <p>(児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由】生徒はコミュニケーションに苦手意識を持っている。しかし、彼らが一言話しかけ仲良くなることができれば、勤める会社や社会での生活はもっと居心地が良くなる。就労に向けて指導をするうちに、居心地が良くなる例を何例も見えてきた。そこで、生徒達がどうやったら、自然に話しかけられるか、どんなことを話したらいいのか、どうやったら仲良くなれるのか、皆で考えていく。</p> <p>【単元の意義】生徒が社会の中で仕事と家庭生活を両立させながら、仕事を続けていくためには、周りの人達とコミュニケーションをとり、過ごしていくことが必要である。そのために、初めての人に話しかけるという練習を続けていく予定である。</p> <p>【生徒観】生徒は職業学科に所属し、卒業後に企業での就労を目指している。知的障害があり、特に苦手なのは言葉によるコミュニケーションである。社会で居心地よく過ごすために、また長く就労先で働くためには、会社内での同僚や上司とのコミュニケーションが不可欠である。現在一年生であり、これから就労のために本格的に実習を重ねていくタイミングである。そこで、この授業では、実習での自然な挨拶、コミュニケーションのやり方を学び、就労に備える。それだけでなく、世代の違う人達や、外国人との会話により、世代間格差や文化的格差を、あまり意図することなく自然な架け橋になることを期待している。</p> <p>【指導観】今回日本語を主に使うのは、決して「生徒の外国語能力が低い」からではない。生徒達の実際の就労先で使う言語が主に「日本語」であるため、日本語を指導することにした。コロナ過で減ったとはいえ、日本には多くの外国人がいる。その人達全員が英語話者ではない。日本にいる彼らが日常的に見たり聞いたりしているのは、日本語である。そうであれば、はっきりと短く、文の最後まで言う、という日本語の話し方が多くの外国人にとってもわかりやすいはずである。阪神淡路大震災のときに、日本語が分からない外国人の方が、避難所や水・電気・ガスなどの情報を得るために苦勞したことから、弘前大学で「やさしい日本語」の研究が進んだという経緯がある。多くの自治体でも、「やさしい日本語」で外国人に情報を伝えるという動きが増えてきている。生徒と周りの人達が仲良くなるための本当に必要なコミュニケーションという課題に対し、日本語というツールを使うことにした。</p>
---	--

6. 単元計画 (全12時間) 3時間 x 4クラス

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	大人になったらどんな生活をした い?	卒業2年後の <u>なりたい自分</u> ： <u>目標</u> をイメージする。 <u>コミュニケーションが大切なこと</u> を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20歳のなりたい自分をイメージする。絵(文章)で表現する。</li> <li>・隣にいるのは誰?人との関わりがあると幸せな気持ちになれるのでは?</li> <li>・なりたい自分を発表!</li> <li>・コミュニケーションがうまくいくと居心地がよくなる。 (実習中の出会い 例)</li> <li>・仲良くなるためには<u>出会う場所・話をすること(コミュニケーション)</u>が必要。</li> </ul>	資料「20歳の生活」  資料「ベトナムのAさん」 ベトナム人Aさんと本校実習生Bさん スライド
2	人が出会うためのアイデア作り	自分と違う年齢や文化の方と出会い仲良くなると居心地の良い場所が増える。 <u>仲良くなるためのアイデア</u> を考える。 <u>多文化共生のアイデア</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良くなるためには、場所と会話が必要と確認。</li> <li>・「皆さんは社会の、いろいろな人に会えているか?(お年寄りや赤ちゃん、外国人などに会えていないのでは?)」</li> <li>・どうしたら仲良くなれるのか。 ① 町づくり:JOCA東北 ② 一緒に何かする</li> <li>・皆が出会って仲良くなるための方法を考える</li> <li>一緒に何かするという方法(イベント</li> </ul>	資料「社会の人々イラスト」  資料「JOCA東北写真」



			教室 同好会等) 5人ずつx2グループのチーム戦 数の多い方が勝ち ・発表 ・一緒に何かする、というのは仲良くなるための一つの方法 マレーシアでは違う民族のお祭りでも互いに楽しむことにより、国家として団結する。 ・仲良くなるためには、 <u>出会って言葉を交わすことが必要</u> 。	グループ 対抗ゲーム形式 ブレインストーミング  資料「マレーシアのCさん」
3 本時	初めての人へどう話しかける？	仲良くなるためには、コミュニケーションが必要。第一ステップでは、 <u>初めての人への自然な声掛け</u> ができるようにする。 <b>実践</b>	・仲良くなるために話すことが必要。「どう話しかけるか？」 ・「お年寄りと話すと時、どんなことに注意する？子供は？外国人とは？」 ・話したことの無い人に話しかける。 ・教員アドリブ劇：会社の運動会後のお疲れ様会 ・話す内容は？ポイント①～④ ・3グループに分け、それぞれアドリブ劇作り ・発表 ・応用 お祭りの日に 泣く子供 ・「一言話しかけることによって、友達を作るチャンスができる。居心地の良い社会を一緒に作っていきましょう」。	資料「社会の人々イラスト」 資料「書き込みシート」 資料「教員アドリブ劇」  話す内容ポイント アドリブ劇

### 7. 本時の展開（3時間目）

本時のねらい：居心地のよい社会を作るためには、人々が出会い、会話をする場が必要である。本校の生徒達は、初めての人に話しかけることが難しいと感じている生徒が多い。そこで、話しかける自然なやり方を伝え、練習することで、会社という場で生徒が居心地の良い場所を作れるように準備を行う。また、地域という場でもコミュニケーションの大切さを意識してもらおうべく、迷子の子供の例を一つ入れた。話しかけ、話したことの無い人とも仲良くなるきっかけを作してほしい。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
<b>導入</b> (5分)	前回のまとめ(振り返り) ・仲良くなるために話すことが必要。「どう話しかけるか？」	目標をはっきりさせる。どう話しかけるか？	
<b>展開</b> (40分) 注意点 5分  アドリブ劇・話す内容 10分	・いろいろな人達がいる。 「お年寄りと話すと時、 <u>どんなことに注意する？</u> 子供は？外国人とは？」 ・話したことの無い人に話しかける <u>分かりやすく話す</u> はっきり 短く 最後まで  ・会社の運動会後のお疲れ様会 教員アドリブ劇 <u>内容は</u> ① 自分と相手に共通点(同じところ)があればそれを言う。 ② 相手が困っていれば、どうしたのか聞く。 ③ 目の前のことを、そのまま言う。 ④ ほめたり、感謝することがあれば、ほめる、	お年寄りには？ 子供には？ 外国人には？ (目線、ボディランゲージ等含め) アドリブ劇 劇は副教員と練習しておく。披露	資料「社会のいろいろな人々イラスト」 資料「書き込みシート」  資料「教員アドリブ劇」



<p>グループワーク 10分</p> <p>劇発表 10分</p> <p>その他の場面 5分</p> <p>まとめ (5分)</p>	<p>・3グループに分けて、それぞれアドリブ劇作り  <u>会社</u>の食堂で：外国人がラーメンを食べていた          スマホに悩むお年寄り          同じ新入社員に会った</p> <p>・アドリブ劇発表</p> <p><u>地域</u>で どういう風に声をかける？          お祭りの日：          泣いている子供 友達の弟か妹          そばには誰もいない</p> <p>・「一言話しかけることによって、会社が居心地の良い場所になります。居心地が良くなれば会社で長く働き続けることができます。お祭りや趣味を通じて、地域でも幸せに住み続けることができます。居心地の良い社会を一緒に作っていきましょう。</p>	<p>生徒が十分に考え、互いに役割を割り振り、発表できるように支援。          口頭で</p> <p>この授業の目標、達成するための方法を確認する。</p>	<p>資料「書き込みシート」のイラスト</p> <p>SDGs          11 住み続けられるまちづくりを          16 平和と公正をすべての人に          17 パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書き込みシート」を利用し、話す内容や話し方のポイントを理解できているか。</li> <li>・アドリブ劇作りでは、互いに協力し、考察できているか。適切な言葉を選ぶことができたか。役割分担ができたか。クラスの皆の前で発表することができたか。</li> <li>・本日の目標と目標を達成できる方法を理解できたか。</li> </ul>			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークを多く取り入れ、それぞれ考えを尊重しながら学習する。</li> <li>・ALT や外部の外国人講師にアドバイスをいただき、進めている。</li> </ul>			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <p>・本校は、学校自己評価システムにおいて、「国際化における異文化理解を進め、グローバル社会を生き抜く資質・能力の育成」を目指している。そのための具体的方策として職業学科では「国際交流を通じて、グローバル社会に対応する人材育成に取り組む」んでいる。そのため、外国語の授業の一環として外国人講師を招き、それぞれの国の文化について話していただく授業を行っている。今年度は、韓国・ブラジル・アルゼンチン・ジャマイカ・カナダの講師が来校し、上記の国について学ぶことができた。</p> <p>・授業で外国の様子が分かるような動画を見て、世界には多くの国があり、人々が多様な暮らしをしている様子に目を向けている。JICA 作成の「ブイーノザンビア」、NHK for School の「キソ英語を学んでみたら世界とつながった」という番組を視聴している。</p> <p>・移民かるたやモノづくりゲーム、スクラブルなど、ゲームを楽しみながら自然に世界の様子が学べる教材を取り入れている。</p>			

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>生徒達がコミュニケーションの大切さを理解し、自然に人に話しかけることは、現実的な課題である。1限目に生徒に描いてもらった「5年後の自分（20歳）の生活」を見ると、あまり人が出てこない。「正社員になる」「好きなゲームをする」「一人暮らし」などが多かった。彼らが「会話して仲良くなる」ことを意識できるよう、生徒が身近に感じられるコミュニケーション成功例を授業に取り入れる必要があった。</p>
<p>12. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「実習先で外国人社員と仲良くなった本校の先輩」という例を示した。コミュニケーションがうまくいくことで、その外国人社員も本校の生徒も働く場で居心地が良くなったという利点を強調した。</li> <li>・JOCA 東北の町づくりは、自分が感じたままに、そののんびりとした気持ちよさを伝えた。行ってみたいという生徒が多かった。利用者としても、障害のある人が働く場所としても、JOCA 東北の多くの可能性を伝えることができた。</li> <li>・アドリブ劇は、互いに協力しあって話の進め方を考えられるので、特別支援学校の生徒にとって、わかりやすい手段である。まず教員がアドリブ劇の見本を示し（生徒苦笑！）、場面を設定してグループ別に劇を作る。グループによっては、次々にセリフが出てきて滑らかに劇ができ、オチまでつけることができた。一般的に楽しく進めることができた。</li> </ul>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>コミュニケーションの向上を目指す授業なので、以下の2点を積極的に取り入れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク</li> <li>① 2限目：仲良くなるために一緒に何をする？（ブレインストーミング グループ戦）</li> <li>② 3限目：会社で初めて話す人同士のアドリブ劇</li> <li>・アドリブ劇</li> <li>① 3限目：教員のアドリブ劇見本（コント的）</li> <li>② 3限目：会社で、初めて話す人同士のアドリブ劇（グループ）</li> <li>③ 3限目：地域で、初めて話す人とのアドリブ劇（個人）</li> </ul> <p>クラス全員の前で声を発することにも臆病な生徒も、グループで活動したり、セリフを皆で確認することによって、アドリブ劇を行うことができた。さらに、教員のアドリブ劇に・コント的・笑える・何やってるんだ要素を入れることにより、その後の生徒達の劇は自由に想像をふくらますことができた。</p>
<p>14. 学びの軌跡 （児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）</p>	<p>生徒の反応 抜粋</p> <p><u>1限目：20歳の生活</u> 1-Dのaさん「ぼくは卒業して2年で会社が髪を染めていいと言ったら、髪を茶色に染めたりストレートパーマをかけたいと思います。お給料をたまったり（ためたら？）旅行に行きたいと思いました。」</p> <p><u>2限目：仲良くなるために一緒に何をする？</u> 1-Cのbグループ「みんなで一緒にテレビを見る、歌を聞く、昔遊びをする、お出かけする、カルタ、料理、工作、ゲーム、運動、カラオケ、英語教室、手話教室、バーベキュー、海・</p>

	<p>プール、紅葉狩り、野球大会、旅行、合唱祭、クリスマス、ハロウィーン、バレンタインチョコ作り」</p> <p><u>3 限目：アドリブ劇 1-A (2人) 会社の食堂でラーメンを食べている外国人社員に会った。話すのは初めて、という設定。</u></p> <p>A 😊：こんにちは</p> <p>B 😊：(外国人) こんにちは</p> <p>A：このラーメンおいしいですね。ネギがたくさん入っていて。</p> <p>B：私もこのラーメン好きです。</p> <p>A：どんなラーメンが好き？</p> <p>B：豚骨味かな</p> <p>A：おいしいところ知っていますよ。今度一緒にいって見ない？</p> <p>B：(ちょっとふざけて) 行かんわ！</p> <p>最後のセリフは、初めて話すという設定を少し逸脱していたが、Bがこのセリフを言ったとたん、クラスは大爆笑。楽しい雰囲気が伝わってきた。</p>
15. 授業者による自由記述	<p>障害を持つ人や社会的弱者は、支援してもらおう立場になることが多い。支援する側と支援される側では、上下の関係ができやすい。しかし、周りの人と友達として仲良くなるためには、『<b>自然に、対等に、話す</b>』ことが近道である。その過程で困っている人を助けたり、一緒に楽しむことも必要だろう。本授業では、自然な声のかけ方と、より親しい人間関係を作るための工夫を生徒と一緒に考えた。これは、生徒が社会で自分の気持ちの良い居場所を作るためのきっかけに過ぎない。現時点で彼らは1年生なので、2年次、3年次と今後も周りの人とのコミュニケーションの方法を学び、仲の良い人を増やし、幸せな人生を歩んでほしい。</p>

参考資料：

文部科学省『特別支援学校高等部学習指導要領』（平成31年度文部科学省告示第14条）

糸賀一雄『この子らを世の光に』（1965） 柏樹社

一般社団法人 Think the Earth 編『未来を変える目標 SDGs のアイデアブック』（2018）

田中治彦 枝廣淳子 久保田崇編『SDGs とまちづくり 持続可能な地域と学びづくり』（2019）  
学文社

佐藤真久監修 編集協力認定 NPO 法人 ETIC 『未来の授業 SDGs ライフキャリア Book』（2020）  
宣伝会議

公益社団法人青年海外協力協会（JOCA） 「青年会議協力協会は日本を“ごちゃまぜ”にします。」  
JOCA 東北 公益社団法人青年海外協力協会「道が交わり、人が交ざる Iwanuma Way Project」

岡崎広樹 PHP Policy Review 2021.3.12 Vol.15-No.80 「隣近所の多文化共生」の課題 一芝浦団地の実態と実践から一

## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	生方 彩香	学校名	千葉県 流山市立向小金小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	たんぽぽ1組 7名
実践年月日もしくは期間（時数）	令和4年11月（9時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：自立活動 2：心理的な安定		
2. 単元(活動)名：これがあれば大丈夫！		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「防災」 単元目標：防災についての関心を高め、自分の心身を守るためにできることを考える。  関連する学習指導要領上の目標： 2 心理的な安定 自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対処するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図る。 (1) 情緒の安定に関すること 安定した情緒の下で生活できるようにする。 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること 場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりするなど、行動の仕方を身に付ける。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	・地震による被害を知る。 ・自然災害から自分を守るために「備え」ができることを知る。
	②思考力、判断力、 表現力等	・自分の気持ちを落ち着かせるための方法を考えることができる。
	③学びに向かう力、 人間性等	・自分の気持ちを落ち着かせるための方法を日常生活の中でも実行しようとすることができる。
5. 単元設定の 理由・単元の 意義  (児童観、教材 観、指導観)	【単元設定の理由・単元の意義】 本学級の児童の多くが、自分の思い通りにならないときに、大きな声を出す、物や人に当たる、教室を飛び出す等の行動してしまうことがある。このような衝動的な行動は、本人が怪我をしてしまったたり、本人に悪気はないのに周りの人に迷惑をかけてしまったりすることにつながるだろう。また、その結果として、本人の自己肯定感が下がることも考えられる。  衝動的な行動が特に見られない児童であっても、自分の気持ちから生じる行動をコントロールできるようにすることは、社会で他者とともに生きていくという面でも自分の心身を守るという面でも、必要な能力である。	

特に有事のときには、恐怖心や不安さからパニックになり、適切な避難ができずに二次被害を起こしてしまうことが想定できる。地震や火事等の災害があること、保護者の迎えが遅くなる等で不安な気持ちになる場合もあること、不安感を減らせるように備えができること等を予め知っておくことで、災害発生時の二次被害のリスクを少しでも減らすことができるのではないかと考える。

以上より、本単元を設定することとした。

#### 【児童観】

本学級の在籍児童は、1年生2名、3年生3名、4年生1名、5年生1名の計7名である。子ども達同士の関わりが多く、休み時間に外で一緒に身体を動かしたり、会話を楽しんだりしている。お互いに声をかけて助け合ったり、上級生が下級生に範を示したりする姿も多く見られる。一方で、思い通りにならないことがあったときに、他人に攻撃的な言動をとったり、物に当たったりする等、自分の気持ちや情緒のコントロールの難しさがコミュニケーションをとる上で支障をきたす場面もある。

以上の実態から、本学習では、素直な気持ちや考えを安心して話して子ども達の対話ができるように、上級生にリーダーのような役割を与えたり、目を見て最後まで話を聴くことを意識させたりして、落ち着いた環境のもとで学習に臨ませたい。

#### 【指導観】

本単元は、特別支援学校学習指導要領 自立活動編における「心理的な安定」と小学校学習指導要領 社会編における第4学年の内容「(3)自然災害から人々を守る」に関連する学習である。本単元の学習では、自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図ることに重点を置いて指導する。

### 6. 単元計画 (全9時間)

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	防災かるた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災かるたを通して、楽しみながら防災についての知識を得る。</li> <li>・ルールを守る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災かるたを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こくみん共済「防災かるた」</li> </ul>
2	はてなかいぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害や防災についての疑問を洗い出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の持つ疑問点を整理する。</li> <li>・地震、火事などの災害種、日頃の備え(備蓄品)、通学路や学校内等の場所に分けて疑問点の整理をする。</li> </ul>	
3 ～ 4	はてなしらべ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に挙げた疑問を解決していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室にある本や児童のタブレットを用いて調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Yahoo!きっず</li> <li>・「もしものときにきみならどうする?防災」(WAVE 出版)</li> </ul>



4 ～ 5	地震による被害とその対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震による被害を知る。</li> <li>備えがあることで被害を最小限に抑えられることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に2011.3.11の地震発生時の話を聞く宿題を出す。聞いた話を児童間で共有する。</li> <li>「仙台市立荒浜小学校」の東日本大震災での被害状況や避難状況を伝える。</li> <li>写真を用いて教師自身の経験を伝える。</li> <li>学校の備蓄倉庫の中を実際に見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「仙台市立荒浜小学校」の写真や動画</li> <li>学校内の備蓄倉庫</li> </ul>
6 ～ 8 本時	自分にできる備え	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害が発生したときの状況に適切に対応できるように備える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害が発生したときにパニックになることがある、お家の人が迎えに来られなくて不安な気持ちになることがある等の精神面での影響についても考える。</li> <li>自分の気持ちを落ち着かせるための方法やグッズがあるとよいのではないかという視点で考える。</li> <li>考えたものを実際に作って用意する。</li> <li>実際に自分達で作るという過程を通して、「みんながいるから大丈夫」という気持ちにもなれるようにする。</li> <li>子どもの様子次第で、教師から「バンダナ」を提案する。</li> <li>バンダナは傷口を覆うことができる。</li> </ul>	
9	防災グッズの発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>作った防災グッズを他の学級の先生に紹介する。</li> <li>非常時だけでなく、日常の中でも使っていることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の学級の先生に防災グッズを紹介する。</li> <li>自分の気持ちを落ち着かせるための方法やグッズは地震等の災害発生時だけでなく、日頃の学校生活の中でも使用できるのではないかという視点を持つ。</li> </ul>	
<p>7. 本時の展開（7時間目）</p> <p>本時のねらい：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害が発生したときの状況に適切に対応できるように備える。</li> <li>自分の気持ちを落ち着かせる方法を考える。</li> </ul>				
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態		指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの振り返り</li> <li>地震による被害と対策 地震はいつくるのかわからない。だけど、備えることはできる！</li> <li>自分達の心を守るためにできる備え →心が落ち着く、安心する＝ほっとする →ほっとバンダナを作ろう！</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>写真や図を用いて話の内容が理解できるようにする。</li> <li>短く端的に振り返る。</li> <li>「ほっ」とするとはどんな気持ちのことか本時の学習を行う前に確認しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真</li> <li>「もしものときいきみならどうする？防災 ②家」(WAVE出版)</li> <li>「ほっ」とした表情のイラスト</li> </ul>

<p>展開 (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあての確認</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">       ほっとバンダナをつくろう！     </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バンダナは           <ul style="list-style-type: none"> <li>・口元を覆うことができる（マスク代わり、煙や埃を吸わないように）</li> <li>・怪我をしたところに巻いて傷を覆うことができる</li> <li>・携帯しやすい（ランドセルにいれておける）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にバンダナを用いて説明をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バンダナ</li> </ul>
<p>(10分)</p>	<p>◎バンダナのデザインを考えよう。（中心発問） バンダナを見て「ほっ」とできる（心が落ち着く）といい。 →どんなことが書いてあったら「ほっ」とする？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの好きなもの</li> <li>・みんなの顔</li> <li>・「しんききゅう はなとろうそく」</li> <li>・ストレッチ</li> <li>・だじゃれ 等</li> </ul> <p>・本を用いて「遊べるものがあると心が落ち着く」と伝える。 →「ほっ」とすることがマス目に書いてある「すごろく」を作ろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心を落ち着かせられる、安心できるという視点で内容を考える。</li> <li>・心が落ち着くこと、安心することとはどのようなことか、予め確認しておく。</li> <li>・個別の支援をした上でも記入することが難しい児童には口頭でのやり取りのみ行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート（1人1枚）</li> </ul>
<p>(15分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にかいてみよう！ 付箋にかいて黒板にある模造紙に貼る。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生（2名） 自分の好きなものの絵を描く。</li> <li>・3～5年生（5名） その場で希望をとる。色はつけず、鉛筆のみ使う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に声掛けをして、安心して取り組めるようにする。</li> <li>・集中力が切れている児童がいたら、一旦立ち上がっていいことを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋</li> <li>・模造紙</li> </ul>
<p>(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで、記入した付箋を見せ合う時間を設ける。</li> <li>・全体で発表の場を設ける。</li> </ul>		

<p>まとめ (5分)</p>	<p>・まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ほっとバンダナがあればだいじょうぶ。 そなえあれば うれいなし！</p> </div>		
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の気持ちを落ち着かせるための方法を考えることができる。(思考力・判断力・表現力等)</li> </ul>			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バンダナの作成</li> </ul> <p>【外部との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>震災遺構 仙台市立荒浜小学校</li> </ul>			
<p>10. 学校内外で授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10月に職員向けの研修報告会の実施。その中で本単元の学習をするに至った経緯、意義を伝えた。</li> <li>児童の作成したバンダナを他の職員に紹介する時間を設ける。</li> </ul>			
<p>【自己評価】</p>			
<p>11. 苦労した点</p>	<p>東日本大震災の千葉県北西部での揺れ（震度5弱～強）を子ども達は経験したことがない。自分自身は実体験があるため、「大きな地震」と聞いたときに、立ってもいられず、物が落ちてくるような、あの時の揺れを思い出すことができる。子ども達は、「大きな揺れ」を想像することしかできない。</p> <p>本単元での学習に限らず日常生活の中で、想像して物事を考えることよりも実体験から学びを定着させることの多い本学級の児童に対して、どのように自分事として考えるきっかけを与えるかが難しかった。</p> <p>そこで本単元の学習の始めに、児童に馴染みのある「かるた」を用いて「防災」について触れるきっかけを作った。そして、内容をよりイメージしやすいようにイラストを使ったパワーポイントを用いて話を進めた。また、本単元の学習を進める期間で、下校後の時間帯に地震（震度3）が二度あり、「昨日、地震があったよね。」等との会話を児童と教員とですることができた。</p>		
<p>12. 改善点</p>	<p>本時の授業では「バンダナを作ろう」というめあてを提示したものの、「すごろくを作る」という活動に変わってしまった。「めあてと学習活動を一貫させる」という点を特に改善すべきである。</p> <p>自分の気持ちを落ち着かせる方法として、子ども達はバンダナに「みんなの好きなものをかく」「どうぶつ・さかなをかく」「食べ物をかく」「よしよしする」「友だちをかく」等と考えることができた。その上で「遊べるものがあると心を落ち着かせることができる」という視点で「すごろくをバンダナのデザインとする」という考えを教員から提示したが、この助言は必要がなかったと省みた。</p> <p>「自分の気持ちを落ち着かせる方法を考える」というねらいで「ほっとする方法を考えよう。」「ほっとするデザインを考えよう。」または「バンダナを作ろう。」等とめあてを提示し、考えを言葉や絵で表すだけの方が児童自身も活動内容を理解できたと思われる。</p>		

13. 成果が出た点


分からないことは本やインターネットで調べたり、インタビューをしたりする活動を行い、子ども達は得た情報を紙に書いてまとめたり、友だちに伝えたりすることができた。本単元の学習に限らず、分からないことは調べたり他人に聞いたりすることは今後も必要な力である。これからも調べ学習を継続的にやりたい。

震災遺構「仙台市立荒浜小学校」での動画を子ども達に見せた。「小学校」という共通項があることと動画であることから、本学級のどの子どもも興味を持って視聴しており、津波による被害の大きさを子どもたちなりに感じ取れていたように思う。

「ほっとする」とはどんな気持ちのことかを考えた。抽象的なテーマであったが、「お風呂に入ったときにほっとする」との例や、ほっとした表情のイラストを示したところ、「ふとんに入ったとき」「美味しいご飯を食べたとき」「宿題が終わったとき」等と児童が自分の経験と重ね合わせて気持ちを想像することができた。児童が安心保障について考えることは当たり前と思われる日常の有難さを見つめるきっかけとなることが分かった。地震等の災害発生時だけでなく、日々の生活の中での安心を守るために、これからも児童とともに「自分をほっと（安心）させる方法」を考えていきたい。

14. 学びの軌跡  
(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

・子ども達の発言をパワーポイントでまとめた。



つなみは テレビでみたことがあるよ。

**Q.「つなみ」ってなに？**

こんなとき じしんがきたらどうしよう。

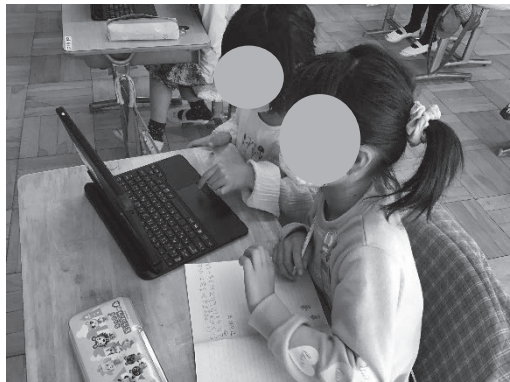
トイレ のとき	みなと(うみ) のちかく	お風呂 のとき
キャンプ のとき	たいいくかん	ねている とき

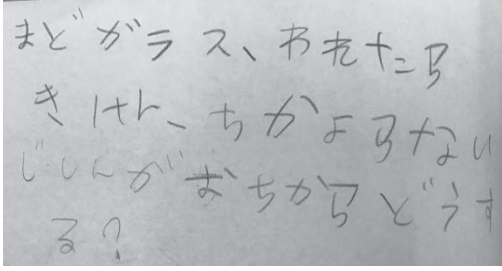
いつくるのか… わからない

じぶんの いのちをまもるために

**Q.じしんがきたら どうする？**

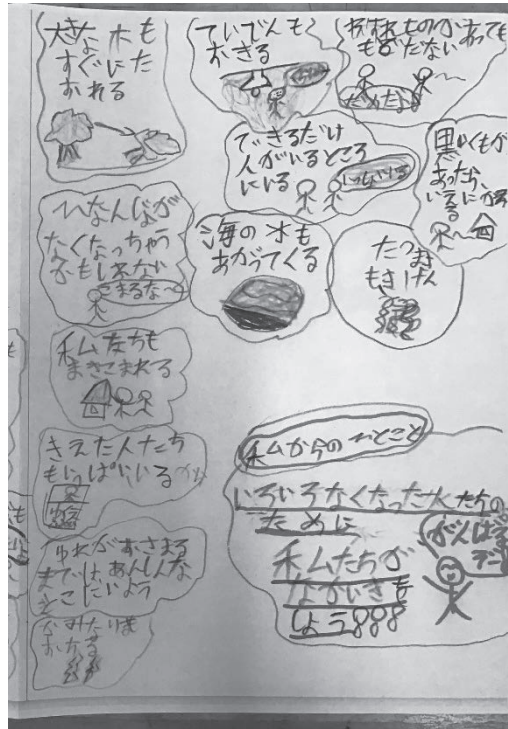
この後、タブレットと本で「地震がきたらどうなるのか。(被害について)」「地震がきたらどうするのか。(避難について)」等を調べた。自主的にメモを取る児童が4名いた。





まどガラス、おれ+2P  
きけ、ちかよるな  
じしんが、ちかよる  
る？





地震が起きたらロロどうする？  
 ①学校だったら → 机の下にかくれる → 防災  
 ずきを外へ出る → 先生のはなしをきく → 外に  
 安全をかくにんする  
 ②家の場合 → の命令に従う

・東日本大震災での経験をインタビューする宿題を出した。

だれ? かとうさん にききました。

2011年3月11日 午後2時46分 大きな地震があったとき  
何をしていましたか?

おしごととしていました。

大きな地震のあとに大変なこと、困ったことなどはありましたか。

ごはんがカバとまよひを  
にかえるのがたいへん  
です。

だれ? お母さん にききました。

2011年3月11日 午後2時46分 大きな地震があったとき  
何をしていましたか?

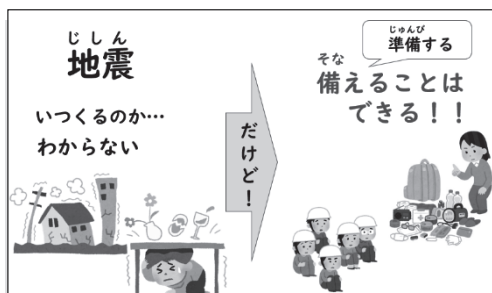
のビルの24かいで仕事  
でした。

大きな地震のあとに大変なこと、困ったことなどはありましたか。

電車が止まってやく20キロ歩いて帰る  
ことになってしまったこと。  
スーパーに食べ物などが品切れで  
なかなか買えなかったこと。



・図書室にある防災関連の本を学級文庫として置いておいた。



「備え」についての話を教員がした際に、ある児童が本の内容を思い出して「防災グッズ」について他の児童に話をするという姿があった。

・本時の学習に向けて、「ほっとする（安心する）」とは、どんな気持ちのことか予め確認した。



「どんなときにほっとするか。」についての児童の意見

- ・ 温かいお茶を飲んでいるとき
- ・ ご飯が美味しいとき
- ・ 布団に入ったとき
- ・ おにごっこで逃げ切ることができたとき
- ・ 宿題が終わったとき

15. 授業者による自由記述

参考資料

- ・ こくみん共済 防災かるた  
<https://www.zenrosai.coop/stories/bousaicarta.html>
- ・ Yahoo!きっず 「地震がおきたら...どうする？」  
<https://kids.yahoo.co.jp/study/integrated/bousai/bsi001.html>
- ・ もしものときにきみならどうする？防災 ①学校・②家・③まち (WAVE 出版)

## 8. 授業実践報告会

参加者の各都県で実施された国際理解教育セミナーやグローバルセミナーにおいて、地域の方々に教師海外研修代替国内研修の経験を生かした授業実践についての報告を行いました。

### ■東京都

イベント名：教員のためのSDGs 研修東京都報告会

日時：2023年2月19日（日）

13:00～16:30

場所：JICA 東京

主催：JICA 東京

参加者：34名

プログラム：

1. 必修となった「地理総合」の教科書分析をもとにした授業実践報告（インターン）
2. 教員のためのSDGs 研修紹介
3. 実践授業プレゼン・座談会
4. 講評 佐藤 真久 JICA 東京教員研修アドバイザー



### ■埼玉県

イベント名：UNICEF X JICA 共催セミナー

教員のための「これからの教育における課題を考える」～多文化共生の関わり方と子どもの権利が守られた学級づくり～

日時：2023年2月5日（日）

場所：コーププラザ3階

主催：埼玉県ユニセフ協会

共催：JICA 東京

参加者：26名

プログラム：

1. 開会挨拶（埼玉県ユニセフ協会）
2. 基調講演  
ユニセフと考える「子どもの権利条約」を生かした学級づくり  
講師：公益財団法人日本ユニセフ協会学校事業部 鈴木 有紀子氏
3. 教員のためのSDGs 研修実践報告  
「居心地よく暮らすための最初のひとこと」  
講師：埼玉県立入間わかくさ高等特別支援学校 五ノ井 ゆかり 教諭
4. 多文化教育実践報告  
講師：川口市立芝西中学校 陽春分校 古山 三保 教諭
5. 閉会挨拶（JICA 東京）



### ■新潟県

イベント名：地域の魅力と課題を活かした学びへー

『JICA 東京主催 教員のためのSDGs 研修』参加教員研修報告会 & “変化の担い手を育む” 学校での取り組み事例共有会ー（第37回 RING セミナー）

日時：2023年2月4日（土）

14:00-16:30

場所：Zoom

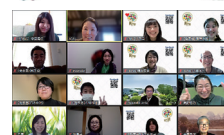
主催：にいがた NGO ネットワーク

共催：JICA 東京

参加者：30名

プログラム：

1. 開会挨拶と RING の紹介・アイスブレイク
2. JICA 東京主催「教員のためのSDGs 研修」の概要紹介
3. 八木 ゆかり先生（糸魚川市能生中学校 国語）による授業実践報告「発想を転換し、身近なものの新しい側面に光をあてる」
4. 地域の魅力と課題を活かした学びの実践報告ー“変化の担い手を育む” 取り組み事例ー
  - 1) 「佐渡島子ども修行プロジェクト」の開発 佐渡科研究会（RING メンバー 斎藤 紗織さん・佐渡市）
  - 2) 「佐渡の食文化 海藻の魅力再発見」 佐渡総合高等学校（RING メンバー 蜂屋 有希子さん・佐渡市）
  - 3) 「バーチャル市役所～新しい価値をもたらす持続可能な街づくり～」 新潟青陵高等学校（RING メンバー 石塚 和洋さん・新潟市）
  - 4) 「子どもと教師の『～したい』を具現する学校～変化の担い手を育む～」 長岡市立表町小学校（RING メンバー 渡辺 登さん・長岡市）
5. 重要な変化の担い手を育むために～ジブンゴトを促す地域探究学習のススメ方 東京都市大学大学院 環境情報学研究所 佐藤 真久教授（JICA 東京教師海外研修アドバイザー）
6. ブレークアウトルームセッション・全体振り返り
7. 閉会の挨拶



■千葉県

イベント名：国際理解セミナー  
日時：2022年12月4日(日)  
場所：Zoom  
主催：千葉県国際交流センター  
共催：JICA 東京

参加者：86名

プログラム：

●第1部 国際理解講演会

講演①「多文化共生社会の実現  
に求められることとは」

講師：小川 玲子氏

(千葉大学社会科学研  
究院教授)

講演②「<外国につながる子  
どもたち>は何を学ん  
でいるのか？」

講師：小林 聡子氏

(千葉大学国際学術研究院准教授)

●第2部 教員のためのSDGs研修 報告会

挨拶・研修概要紹介

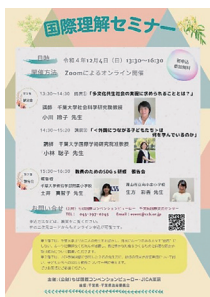
古賀 (JICA 東京) 岡本 (JICA インターン)

授業実践報告 生方 彩花氏 (流山市立向小金小)

土井 真智子氏

(千葉大学教育学部付属小)

講評 佐藤 真久氏 (東京都市大学)



(第一部)

教員のためのSDGs研修及び授業実践報告会  
「多文化共生×国語科」

ぐんま国際アカデミー 松村 駿 教諭

(第二部)

JICA 開発教育メニューの事例紹介①

「高校生がガーナの小学生の理科教材を提案！」

藤岡中央高等学校 宮下 貴美子 教諭

JICA 開発教育メニューの事例紹介②

「3校連携！地方創生×SDGs グローカルプロジェ  
クト」

ぐんま国際アカデミー 天海 敦子 教諭

東京農業大学第二高等学校 岡田 千秋 教諭

前橋市立前橋高等学校 有賀 早也香 教諭

(第三部)

講演・総評 佐藤 真久 氏 (東京都市大学)

■群馬県

イベント名：ぐんまグローバルセミナー 2022

日時：2023年2月18日(土)

場所：ハイブリッド形式

会場：Gメッセ群馬

(高崎市岩押町

12-24)

オンライン：Zoom

主催：JICA 東京(群馬デスク)

共催：群馬県観光物産国際協  
会

後援：群馬県、群馬県教育委  
員会、上毛新聞、  
群馬テレビ

参加者：約40名

対面約：30名、

オンライン約10名

プログラム：

研修紹介 岡本 (JICA 東京インターン)



■長野県

イベント名：多文化共生WS体験会& JICA 教員の  
ためのSDGs研修報告会

日時：2023年2月4日(土)

実施方法：対面

主催：JICA 東京(長野デスク)

参加者：約15名

プログラム：

第1部

「貿易ゲームWS体験会」

小布施町地域おこし協力隊

遠山 宏樹 OV

「教員研修報告」

中野市立高社中学校

玉井 彩香 教諭

根羽村立義務教育学校 根羽学園 下井 慈 教諭

「講評」

東京都市大学 教授/

JICA 東京 学術アドバイザー 佐藤 真久

第2部

「バーンガWS体験会」

JICA 長野デスク木島史暁

「バファバファWS体験会」

JICA 長野デスク木島史暁



## 9. 総括研修

日時:2023年1月22日(日)

場所:JICA 東京センター

目的:今年度の実践を振り返り次年度以降の授業改善につなげる

所要時間	プログラム	目的/説明	講師・進行
09:30		受付開始	全体進行:JICA 東京
10:00	5 開会あいさつ プログラム説明	今日の目的の確認 「持続可能な社会づくりの創り手となることができる児童・生徒の育成」育てたい資質能力とは何か、どう育てていくのか、来年度以降に続く指針を得ていただく。	JICA 東京 市民参加協力第一課長
10:05	25 授業実践の振り返り (遠藤先生→全体)		遠藤先生
10:30	75 【グループワーク】 授業実践の振り返り	授業実践を発表・総括する(実践報告書手元に)  【授業実践について発表】 【1班】3人(25分×3人=75分) 【2班】3人(25分×3人=75分) 【3班】3人(25分×3人=75分) 【4班】4人(18分×4人=72分) 【5班】3人(25分×3人=75分)  【発表内容】 ①授業の概要(子供の既習、授業のねらい、教材の内容) ②期待した学び、それが起きるための仕掛け(①②で8分) ③どんな学びが起きそうかの予想(3分間) ④授業の中での児童生徒の実際 期待していた通り、期待通りにならなかった、予想外の学びがあった ⑤今後の課題だと考えていること(④⑤で10分) (※③のグループ対話後に④を報告;余り時間で質疑応答)	【1班 407】 担当:宮田 群馬デスク (八星 松村代わり)  【2班 408】 担当:高橋 埼玉デスク  【3班 409】 担当:木島 長野デスク  【4班 410】 担当:中村 新潟デスク  【5班 411】 担当:木村 千葉デスク
11:45	5 移動		
11:50	30 振り返りの共有・講評	①これまでやってきたこと ②これからやってみたいことについて、隣同士で共有(10分) 佐藤先生より講評(20分)	東京都市大学教授 佐藤 真久氏
12:20	60 昼食		
13:20	130	講義① 『多文化共生を例に持続可能な社会の創り手を育てる授業創りを考える』(15分) 白水 始氏  グループセッション①(20分) ゴールと評価から授業創りを考える (畑先生の質問、コメントも手掛かりに)  クロストーク①(15分) グループセッションで議論した結果を共有する (この後休憩10分→バッファ込14:20まで)  クロストーク②(30分) 『ゴールと評価が同様でも教科によって異なる授業創り』 語り手:畑 文子氏、遠藤 大輔氏  グループセッション②(25分) 評価から考えて授業のゴール(ねらい)を絞ると、各教科あるいは教科横断でどんな授業が展開できそうか、各自の授業がどう改善できそうかの意見交換を行う  クロストーク③(15分) グループセッションで議論した結果を共有する	国立教育政策研究所 白水 始氏  一般社団法人 教育環境デザイン研究所 畑 文子氏
15:30	5 休憩	記念写真 設営	
15:35	10 修了証授与		JICA 東京所長 田中 泉
15:45	5 閉講のあいさつ		JICA 東京所長 田中 泉
15:50		記念撮影・解散	

※東京都から参加の先生は、終了後20分ほど東京報告会について説明・ヒアリングのためお残り下さい



---

## 10. 研修を終えて

---

JICA東京 学校教育アドバイザー  
諸橋 郁哉（埼玉県教育委員会より派遣）

教師海外研修とは「海外」とあるように、開発途上国の現場へ出向き、自分の目や耳だけではなく五感すべてで感じ取ることが本来の研修目的のひとつです。しかしながら、未知のウイルスが蔓延したことで海外はおろか、日本国内でさえも行動が制限された中で、それでも「学びを止めない」という強い信念を持ちながら、試行錯誤をしてきた本研修も3年目となりました。引き続き、制約等がある中でも、昨年度の経験をさらに活かし、集大成とも言える内容の充実した研修となりました。

グローバル化は我々の社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつあります。このような社会的変化の影響が、身近な生活も含め社会のあらゆる領域に及んでいる中で、日本国内における多文化共生、地域創生、防災教育、開発教育／国際理解教育／SDGsに関する課題等は、どれも極端な話「昨日まで正解だったものが、今日はもう違っている」という新たな事態に直面していることは明らかです。これらについては、日本だけで起きているという視点ではなく、海外とのつながりも重視した日本をとおして海外を見る視点が重要となります。引き続き、ザンビアとパラグアイに関する国内のリソースを中心としました。

先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態である現代を「VUCAの時代」と言われていますが、学校を、そのような変化する社会の中に位置付け、児童生徒には、現在と未来に向けて、自らの人生をどのように拓いていくことが求められているのか。また、自らの生涯を生き抜く力を培っていくことが問われる中、新しい時代を生きる児童生徒に、学校教育は何を準備しなければならないのか。このような困難な状況だからこそ、従来の学校教育の中だけで完結するのではなく外部と連携した児童生徒への学びの提供を進めていった先生方に敬意を表しますとともに、先生方を研修に快く送り出し、公開授業にも多大なるご協力をいただいた各所属校の校長先生はじめ、ご関係の先生方に改めて感謝申し上げます。

今年度につきましては、事前研修、フィールドワーク、事後研修と、ほぼすべての研修内容を対面で実施することができました。実際に現地を訪れることで感じ取ることの重要性も改めて認識しました。ただ、海外には行くことは叶わなかったため、パラグアイの日系社会にあるラパス日本語学校の児童生徒との意見交換では、今年度もオンラインを活用し現地とつないだ双方向の研修を実施しました。

全体をとおして、対面とオンラインの良さを活かした研修会となりました。これらから大きく二点、ご紹介をします。

一点目は、多文化共生という視点についてです。多文化共生という話になると、外国人との共生をイメージするかもしれませんが、仮に隣の人が外国人だからということだけで、共生することができるのでしょうか。隣の人が日本人なら、何の問題もなく共生しているのでしょうか。私を含め研修に参加した先生方にとって考えさせられる部分が多くあり、いまの日本の状況を改めて考える機会となりました。

二点目は、防災教育という視点についてです。東日本大震災のあの日から随分と長い月日が流れて、一見すると「いつもの」日常が戻っているような気がしています。当時のことを知らない子供たちが増えていく中で、その日あった出来事を伝え続ける重要性を再認識しました。人間は過去から学ぶことができます。これからの未来に向けて、災害の発生をゼロにすることはできないのかもしれませんが、被害を限りなくゼロにすることはできるという視点は大切なことだと気づかされました。

私自身、教員のためのSDGs研修に携わらせていただいたことで、かけがえのない体験をし、多くのことを学ばせていただきました。

困難な状況下においても、豊かな研修を企画実施されたJICA東京開発教育担当の皆様、研修にご協力いただきました皆様、研修に参加された先生方、指導助言をいただきました佐藤真久先生、白水始先生、畑文子先生に心から感謝申し上げます。



## 11. JICA 開発教育プログラム案内

### 学校・教員のための開発教育・ 国際理解教育支援プログラム

JICAは、これまでの開発途上国での国際協力の経験を通じて培ってきた知見を、持続可能な社会づくりを担う子供たちを育成する教育に役立てていただくため、国際理解教育/開発教育支援事業を行っています。

JICAは、開発教育/国際理解教育を支援することにより、「世界の様々な開発課題と我が国との関係を知り」「それらを自らの問題として捉え主体的に考え」「根本的解決に向けた取り組みに参加する」人を増やすことを目指します。

#### 教員向けプログラム

##### ●教師海外研修

国際理解・開発教育に関心を持つ教員を対象に、夏休み期間中10日間程度の開発途上国視察を含む1年間のプログラムです。世界が直面する開発課題および日本との関係、国際協力の必要性に対する理解を促進し、学校現場等での授業実践を通じて国際理解・開発教育の推進を担っていただきます。

JICA東京では、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)を切り口に研修を構成しており、世界の課題を自分事としてとらえ、地域の課題にも目を向け、主体的に行動できる児童・生徒の育成を目指しています。



##### ●JICA海外協力隊（現職教員特別参加制度）

公立学校、国立大学付属学校及び私立学校の教員が「教員」としての身分を保持したまま青年海外協力隊・日系社会青年ボランティアへ参加する制度です。教員が開発途上国において国際教育協力に従事することによって、コミュニケーション・異文化理解の能力を身につけ、国際化のための素養を児童・生徒に波及的に広めることが期待されています。



#### 児童・生徒向けプログラム

##### ●国際協力出前講座

開発途上国の実情や日本との関係、国際協力の必要性について考える機会として、JICAボランティア経験者を講師として紹介するプログラムです。ご希望に応じて、開発途上国からの研修員をご紹介することも可能です。学校を中心に、毎年全国で2,000件以上、約20万人が受講しています。



##### ●国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

開発途上国の現状や国際協力の必要性について理解を深め、自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的に、中学生・高校生を対象としたエッセイコンテストを毎年実施しています。上位入賞者には、副賞として開発途上国へのスタディーツアーへ参加することができます。毎年、7万点を超える作品が寄せられています。夏休みの宿題や作文指導としてもご活用ください。

##### ●「世界の笑顔のために」プログラム

開発途上国で必要とされている、教育、福祉、スポーツ、文化などの関連物品を提供していただき、JICAが派遣中のボランティアを通じて世界各地へ届けます。国内の指定倉庫までの送料はご負担いただく必要がありますが、現地までの送料をJICAが負担いたします。個人での参加はもちろん、学校やクラス単位でもご応募いただけます。



## 開発教育・国際理解教育のための教材

### ●先生のお役立ちサイト

JICAでは、国際理解教育や総合的な学習の時間に役立つ教材を作成し、無料で提供しています。国際協力や地球規模の課題をテーマにした冊子・動画・ウェブ等の教材をダウンロードすることができます。授業に合わせてぜひご活用ください。



### ●授業で使える10分映像集

授業でそのまま活用できる、中高生を対象にしたアクティブラーニング用の映像教材です。四つのテーマ「難民」「イスラム」「国際協力・ODA」「教育」をそれぞれ10分程度の映像にまとめています。



### ●国際理解教育実践資料集

世界に存在している課題について、その問題のポイントや子どもたちにしてほしい内容を分かりやすく解説しています。また、それぞれの学習内容ごとに学習指導要領やESDの分野との関連を示しています。



### ●どうなってるの？世界と日本

私たちの日常生活と開発途上国とのつながりについて、クイズに答えながらわかりやすく学べる小中学生向け資料です。食べ物やエネルギーなど私たちの生活に欠かせないものはどこからきているのでしょうか。かわいいイラストで楽しく学ぶことができます。



## 「JICA地球ひろば」のご案内

### ●JICA地球ひろば

JICA地球ひろばでは、開発途上国の暮らしの現状や、地球が抱える問題、国際協力の実情などを、見て・聞いて・さわって体験できる展示と、開発途上国での活動体験談や参加型学習を組み合わせたプログラムを実施しています。修学旅行、社会科見学等の団体訪問も受け入れており、年間約1万人に見学いただいています。

開館時間：10時～18時

休館日：第1・第3日曜日、年末年始 ○入館無料

連絡先：〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5

TEL：03-3269-2911/0120-767278

詳しくはコチラ

JICA地球ひろば



検索

## あなたの近くのJICA相談窓口

### ●JICAデスク

開発途上国で活動した経験を持つ国際協力推進員が、皆さんのお越しをお待ちしています。

- |     |  |
|-----|--|
| 埼玉県 | (公財)埼玉県国際交流協会内 Tel: 090-4024-0253<br>✉ jicadpd-desk-saitamaken@jica.go.jp      |
| 千葉県 | (公財)ちば国際コンベンションビューロー内 Tel: 090-4024-0441<br>✉ jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp |
| 群馬県 | (公財)群馬県観光物産国際協会内 Tel: 090-4024-0097<br>✉ jicadpd-desk-gunmaken@jica.go.jp      |
| 新潟県 | (公財)新潟県国際交流協会内 Tel: 090-4024-1323<br>✉ jicadpd-desk-niigataken@jica.go.jp      |
| 長野県 | (公財)長野県国際化協会内 Tel: 080-1043-2268<br>✉ jicadpd_desk_naganoken@jica.go.jp        |

※東京都については、JICA東京(Tel: 03-3485-7461)までお問合せください。



---

## おわりに

---

2022年度は、2020年度、2021年度に引き続き、世界的に広がった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受けて、海外研修を中止せざるを得ない状況となりました。このグローバル感染症は、数多くの私たちの周りにあった問題を浮き上がらせました。新しい感染症の頻度が高まっているのは、森林伐採などで動物の生態が変わり、途上国における人口増加と都市への人口集中による人間居住の過密化、動物と人間の接点に変化していることが遠因だと言われています。さらには、経済のグローバル化が進むことで、国を超えた人の往来がこの感染拡大を助長させました。このグローバル感染症と、気候変動、高齢化、エネルギー問題などに共通して言えることは、多くの要因が複雑にからまった“複雑な問題”であるということです。そして、地球環境問題、貧困・社会的排除問題、人間居住、グローバルな経済、健康などの多くの問題が相互に作用しながら深刻化してきており、先進国と途上国の相互作用も深まりつつ、類似する問題が共通する構造から生まれてきています。

このような状況のなかで、本年度は、2021年度に引き続き、グローバルな視点を強め、「人間の安全保障・安心保障」をテーマとした代替国内研修を実施することに至りました。とりわけ、本代替国内研修では、「人間の安全保障・安心保障」について、(1) 人間一人ひとりに着目し（people-centered）、(2) 包括的で（comprehensive）、(3) 状況や地域に応じて（context-specific）、(4) 問題予防の観点から（prevention-oriented）、(5) 深刻な脅威から人々を守り（protection）、(6) 人に力を与える（empowerment）の6つの視点を軸に、グローバルな視点で物事を捉えるものでした。さらには、持続可能な開発のための教育（ESD）で指摘されている4つのレンズを通して、さまざまな課題・資源・時間・空間・人をつなげる統合的レンズ（つながり・かかわり）、身近な文脈（歴史や地域）で深め、世界の文脈に拡げる文脈的レンズ（拡がり・ふかまり）、課題の再設定や捉え直し、意味づけ、問いを重視する批判的レンズ（捉え直し、意味づけ）、社会が変わる・変える、個人が変わることを連関させた変容的レンズ（個人の変容、社会の変容）を活かすことにより、今日までの教育実践を新たな次元で捉え直すものでした。

幸いにも、派遣予定国であったザンビア国、パラグアイ国に関係のある団体や学校、日本国内の国際化・多文化共生の実現に取り組む団体の協力を受けることができただけでなく、2021年度に増して相互に議論をする時間を増やしたことにより、大変充実した研修となりました。参画した教員は、地域・校種を超えた混成チームとなり、一年を通して、参加準備と現地・オンライン研修、授業づくり、授業実践に取り組みました。新学習指導要領では、「持続可能な社会」という用語が多々明記されているだけでなく、「何ができるか」や「知っていること・できることをどう使うか」といった資質・能力の重視、主体的・対話的で深い学びやカリキュラム・マネジメント、社会に開かれた教育課程について強調がなされています。近年のグローバル化の時代、これからの地球市民性と混成文化の時代、VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代において、本代替国内研修プログラムに参画された教員自身がこの経験を活かし、同僚の教員らや地域の方々とともに、新たな次元で、学校教育活動の充実に役立てていただけることを切に願う次第です。

2022年度教師海外研修アドバイザー

東京都市大学大学院 環境情報学研究科  
教授 佐藤 真久